

niji VOICE 2022 報告書

～ LGBTQの仕事と暮らしに関するアンケート調査 ～



報告書

<https://nijibridge.jp/report/>



目次

- 調査の概要
- 標本の代表性
- 調査結果の報告
- まとめ
- 添付資料

認定NPO法人 虹色ダイバーシティ



- SOGI (Sexual Orientation , Gender Identity) による格差のない社会をつくり、次世代に繋ぐことをめざす認定NPO法人
- 2013年に法人化、現在は代表 村木真紀 含め常勤スタッフ 5名体制

＜主な実績＞

- 国際基督教大学ジェンダー研究センターと共同研究（2014年～2020年）
- LGBTと職場に関する社会教育（企業、行政、一般向けの講演など）
- プライドセンター大阪の運営（2022年4月～）
- 受託事業：淀川区LGBT支援事業、大阪府啓発冊子など
- 企業と協働：トイレに関する調査（LIXIL）、アライに関する調査（JT）、LGBTと子育てに関する調査(TENGA)、近畿圏のLGBTQに関する調査（積水ハウス）
- 代表単著「虹色チェンジメーカー」、共著「職場のLGBT読本」「トランスジェンダーと職場環境ハンドブック」「LGBTIの雇用と労働」
- 冊子「職場におけるLGBT・SOGI入門」「LGBT&アライサポートブック」「職場のLGBT白書」

調査主体・協力

- 調査主体：認定NPO法人虹色ダイバーシティ
(研究代表 理事長 村木 真紀)
- 協力研究者：
 - 平森 大規 (法政大学 グローバル教養学部 助教)
 - 三上 純 (大阪大学大学院 人間科学研究科 博士後期課程)
 - 山脇 佳 (大阪大学大学院 人間科学研究科 博士前期課程)
- 協力：一般社団法人 社会調査支援機構チキラボ

アンケートの背景と目的

【背景】

- ・ 日本では、職場や社会でカミングアウトするLGBTQ（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クィア or クエスチョニングの頭文字）等の性的マイノリティ当事者（以下、LGBTQと表記）がまだ少ないため、どのような困難があり、どんなニーズを持っているのか、把握が難しい。国による調査も非常に少ない。

【このアンケートの目的】

- ・ ダイバーシティ施策全体も視野に入れつつ、性的マイノリティも働きやすい職場づくり、生きやすい社会づくりを推進するための日本のデータを積み上げる。
- ・ 近年進んでいる企業や行政のLGBTQ施策の効果を確認する。
- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大がLGBTQに与えた影響を確認する。
- ・ 報告会実施後に、個人情報削除したデータを公開することで、学術目的の二次分析を可能にする（回答者が類似した調査を何度も受けることによる負担を軽減するとともに、この調査の成果を広く社会に還元する）。

niji VOICE 2022 調査概要

- 正式名称： **niji VOICE 2022 ～ LGBTQの仕事と暮らしに関するアンケート調査 ～**
- 認定NPO法人虹色ダイバーシティが研究者と協力して実施
- ウェブ上のアンケートフォームを利用 (SurveyMonkey 有料版)
- 回収期間： 2022/5/21-6/19 (30日間)
- 参加者： 2,296人 (有効回答数： 2,231人)
(過去の回答数： 2014年 1,815人、2015年 2,154人、2016年 2,298人、2018年 2,348人、2019年 2,587人、2020年 2,231人 累計 15,729人)
- 全50問 (すべて任意回答のため、設問によって回答数が異なる)
- ウェブサイト、Twitter、Facebook、Instagram、LinkedIn、講演会、プライドセンター大阪でのポスター掲示、既存の虹色ダイバーシティのクライアントへのメールマガジンでの協力依頼等で周知

アンケート冒頭のただし書き(添付資料参照)

- ・アンケートの対象者は、日本で暮らした経験のある満15歳以上の方です。
- ・回答項目は最大で50問あり、標準的な回答時間は10分～25分です。
- ・仕事に関する質問は、アルバイトなどの非正規雇用も含みます。
- ・現在働いていない方は、直前の職場についてお答えください。
- ・複数の職場を持っている方は、主な職場についてお答えください。
- ・現在の職場が海外の方は、直前の日本での職場についてお答えください。
- ・過去の職場、副業的な職場に関するエピソードや調査に対する意見を記載したい場合は、最後の自由記載欄に記載してください。
- ・あなたの名前や学校名、会社名などを記入する箇所はありません。
- ・どうしても答えたくない質問がありましたら、飛ばして次に進んでいただいても構いません。
- ・人権を著しく傷付ける目的だと思われる記載があった場合は、分析対象から外すことがあります。

設問（全50問）

属性	職場環境	その他
年齢	新型コロナウイルスの影響・仕事	新型コロナウイルスの影響・人間関係
出生時の性別	職場従業員数	新型コロナウイルスの影響・その他
性自認	職業	ワクチン接種
学校・職場での性別	職種	ワクチン接種時期
性的指向アイデンティティ	カミングアウト範囲（職場）	投資への意識
決めたくない・決めていない	現状のLGBT施策	幸福度
性的指向（性的惹かれ）	希望のLGBT施策	孤独感・公平感
恋愛指向（恋愛感情）	勤続意欲	メンタルヘルス（K6）
都道府県	アライの有無	メディアへの信頼度
就業状況	労働時間	カミングアウト範囲
就業形態	心理的安全性	貧困に関する経験
学歴	学校・職場のハラスメント経験	健康状況
本人収入	差別的言動（頻度）	社会資源の利用
世帯年収	差別的言動エピソード	パートナーシップ登録の有無
	配慮エピソード	パートナーシップ制度の活用
	求職活動	同居人
	求職活動での経験	子どもに関すること
		感想
		メールアドレス

（うすいオレンジ:新規の設問）設問によって分岐の設定もあり

標本の代表性



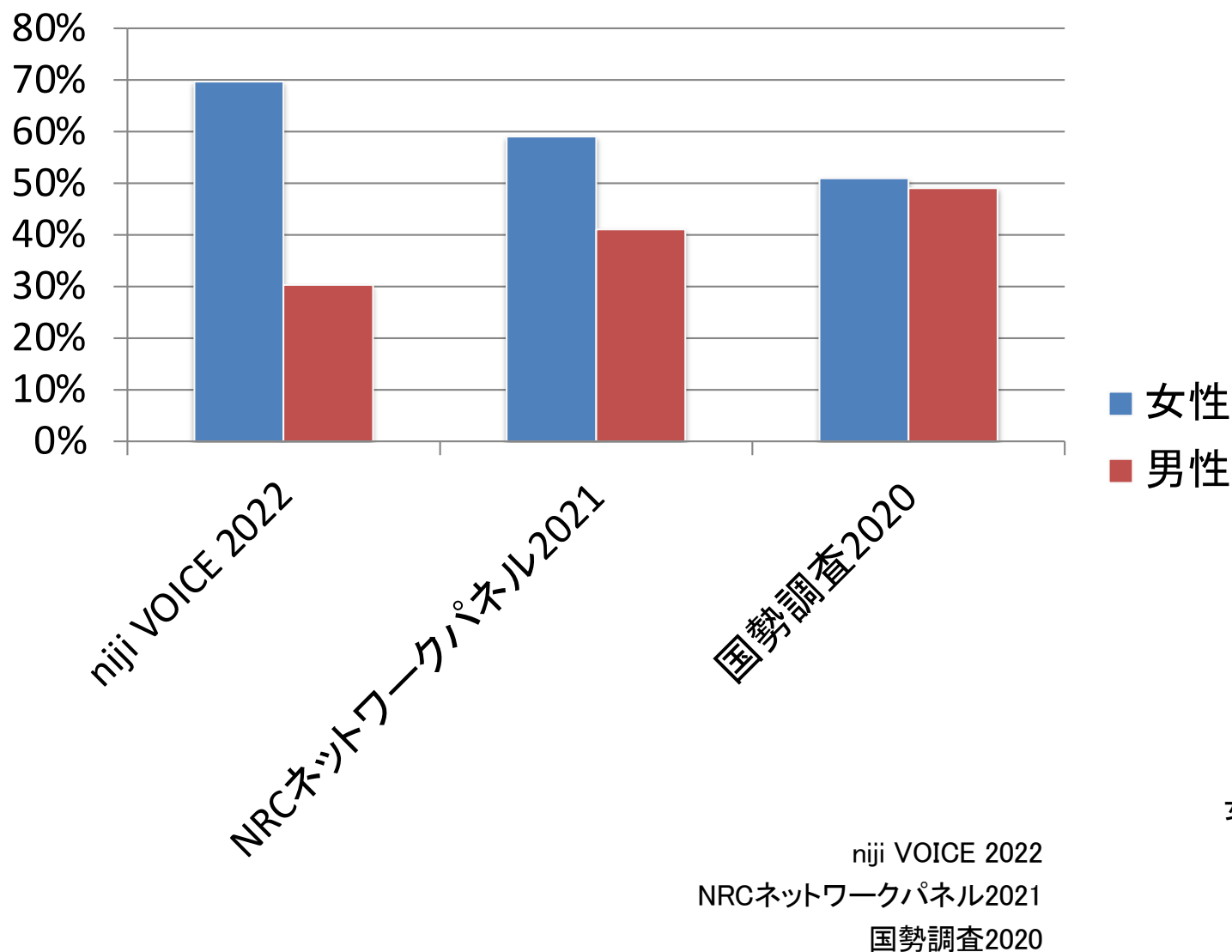
性的マイノリティをテーマとする調査の様々な手法

- **全国無作為抽出調査** (例: 家族と性と多様性にかんする全国アンケート)
 - 確率標本: 日本在住すべての個人が等確率で選ばれる仕組み、「くじびき」や「サイコロ」のように、誰が調査対象者として選ばれるかを偶然にゆだねる
 - 日本在住の人々の実態の正確な縮図になるような設計
 - マイノリティの実態については分かりにくい
- **オープン型ウェブ調査** (例: niji VOICE 2022、Aro/Ace調査2022、B/P実態調査)
 - 非確率標本: 調査実施者が広報を行い、協力者を集める
 - 集まった回答は社会全体の正確な縮図にはならない
 - 調査テーマに強い関心を持つ層が自発的に回答するため、無作為抽出では把握困難な人口層の実態を捉えることができる
- **クローズド型ウェブ調査** (例: 電通ダイバーシティ・ラボによる「LGBT調査」)
 - 非確率標本: ウェブ調査会社が自社に「モニタ」として登録している人が調査対象になる、謝礼が付与されるため無関心層や非マイノリティも回答
 - 調査会社モニタの人口学的特徴は日本社会の全体像の正確な縮図になっているとは言えない、大規模調査の場合はマイノリティにもリーチ可能

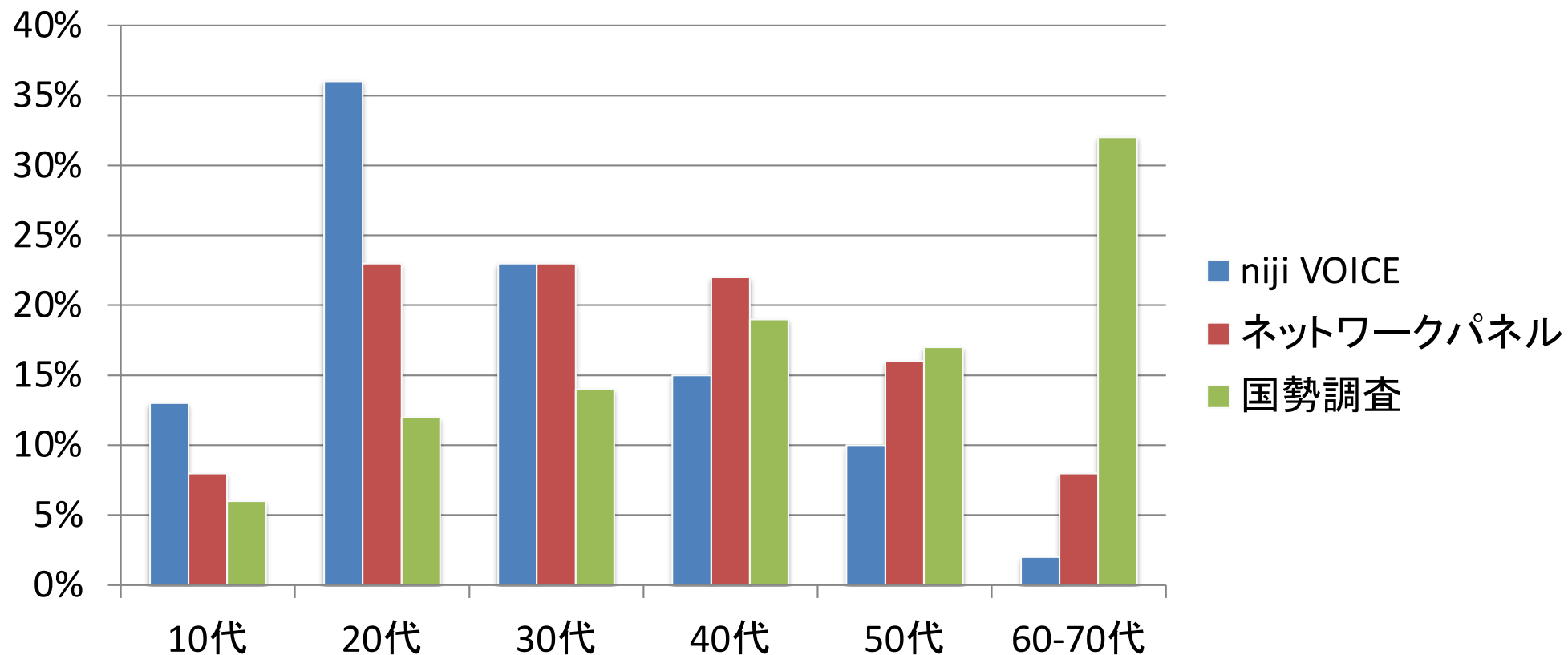
→どの調査手法を使うと何を言えるのか? ——それぞれの長所・短所を踏まえ、研究課題/調査目的に応じた手法を採用すべき

(参照元: 村木真紀・平森大規・三上純・山脇佳, 2021, 『職場のLGBT白書——「やるべき事は、まだまだある～深刻なハラスメントと変化の兆し～」アンケート調査 niji VOICE 2018, 2019, 2020に寄せられた7,162名の声から』認定NPO法人虹色ダイバーシティ編. 15～16ページ)

代表性の検討（出生時の性別）

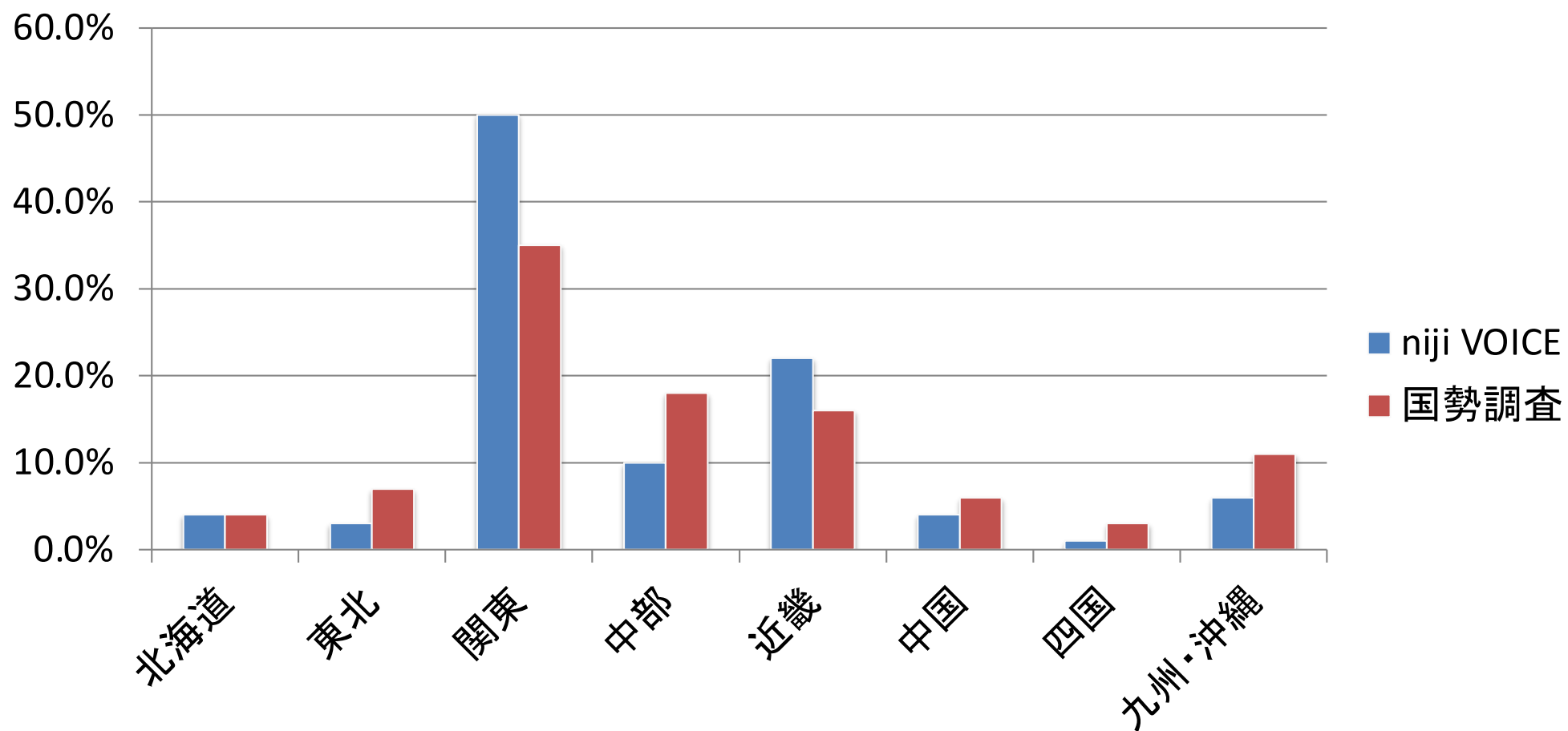


代表性の検討（年齢階級）



	10代	20代	30代	40代	50代	60-70代
niji VOICE	13%	36%	23%	15%	10%	2%
ネットワークパネル	8%	23%	23%	23%	16%	8%
国勢調査	6%	12%	14%	19%	17%	32%

代表性の検討(地域区分)



	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
niji VOICE	4%	3%	50%	10%	22%	4%	1%	6%
国勢調査	4%	7%	35%	18%	16%	6%	3%	11%

代表性の検討(まとめ)

- 代表性の検討からわかったこと
 - 女性(出生時の性別)による回答が多い
 - 10-30代による回答が多い
 - 関東地方、近畿地方在住者からの回答が多い

→ 「niji VOICE 2022」はLGBTQの仕事と暮らしに関する貴重な調査データであるが、調査の回答傾向を過剰に一般化することはできない

- 統計の出典
 - インターネット調査／ネットワークパネル | 市場調査・日本リサーチセンター(NRC)
(<https://www.nrc.co.jp/survey/net/index.html>)
 - 国勢調査2020「令和2年国勢調査人口等基本集計結果」(総務省統計局)を加工して作成 (<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka.html>)

調査結果の報告



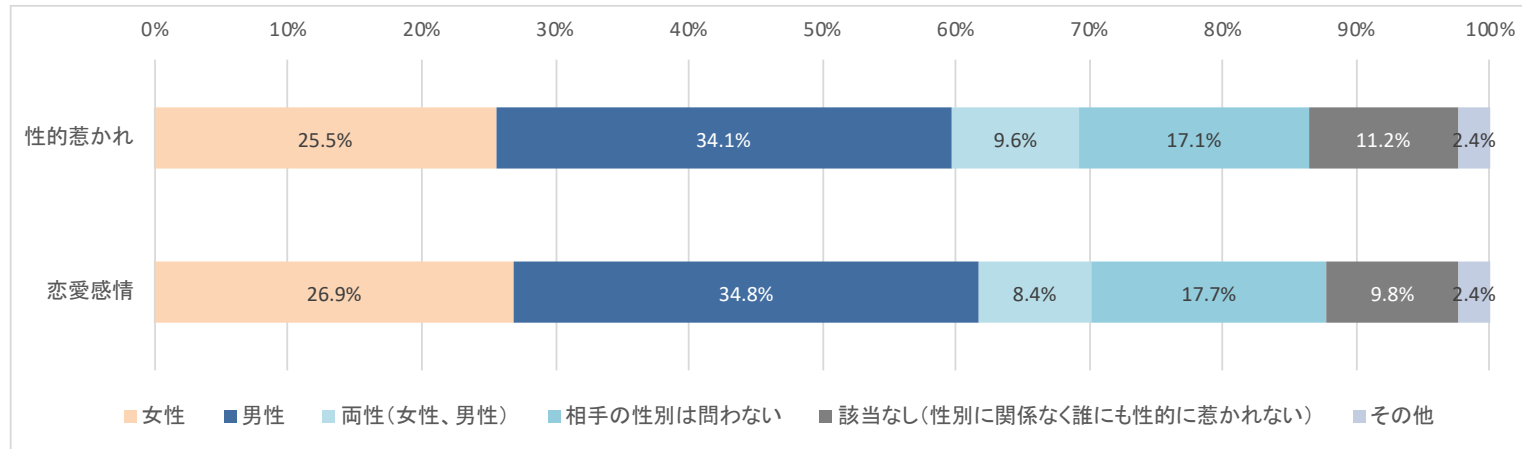
本調査での分類

生まれの性	性自認	性的指向(アイデンティティ)	SOGI分類	2分類	3分類
女性	女性	同性愛者	シスL	LGBT等	シスLGB他
		異性愛者	シス異性愛女性	シス異性愛者	シス異性愛者
		両性愛者・全性愛者	シスB女性	LGBT等	シスLGB他
		その他	シスその他女性	LGBT等	シスLGB他
	男性	全部	トランス男性	LGBT等	トランスジェンダー
	その他	全部	生まれ女性X	LGBT等	トランスジェンダー
男性	女性	全部	トランス女性	LGBT等	トランスジェンダー
	男性	異性愛者	シス異性愛男性	シス異性愛者	シス異性愛者
		同性愛者	シスG	LGBT等	シスLGB他
		両性愛者・全性愛者	シスB男性	LGBT等	シスLGB他
		その他	シスその他男性	LGBT等	シスLGB他
	その他	全部	生まれ男性X	LGBT等	トランスジェンダー

※トランスジェンダーにはレズビアン、ゲイ、バイセクシュアルなど様々な性的指向を含んでいます。

※今回は主に仕事や暮らしについての調査であり、現状の社会においては、性的指向よりも出生時の性別が収入等に大きく影響するのではないかという想定で、分析に当たっての分類を行いました。

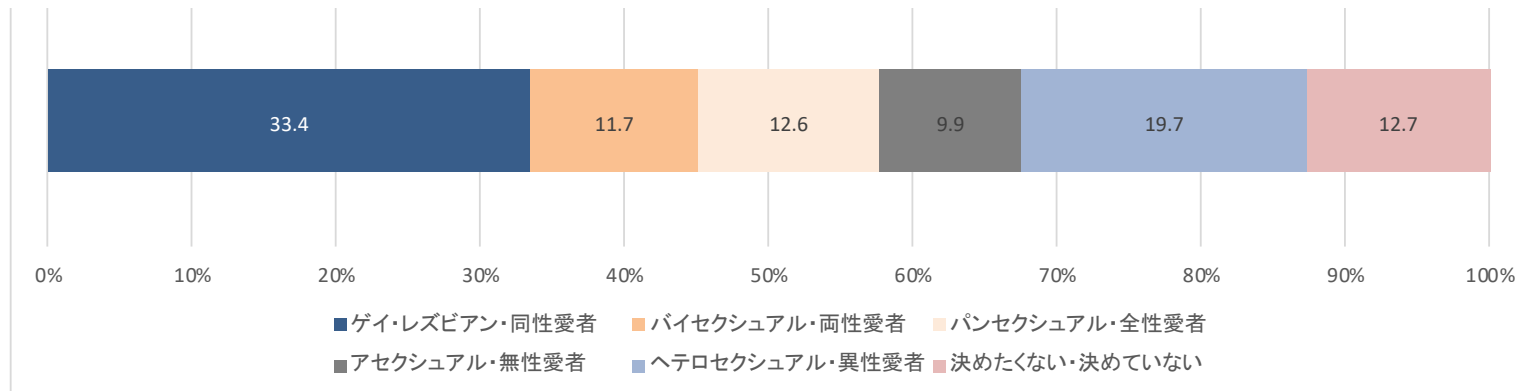
回答者の性的指向



N=2,205

N=2,187

Q.現在、次の中で、あなたにもっとも近いと思うものにチェックをつけてください。(アイデンティティに関する設問)



N=2,223

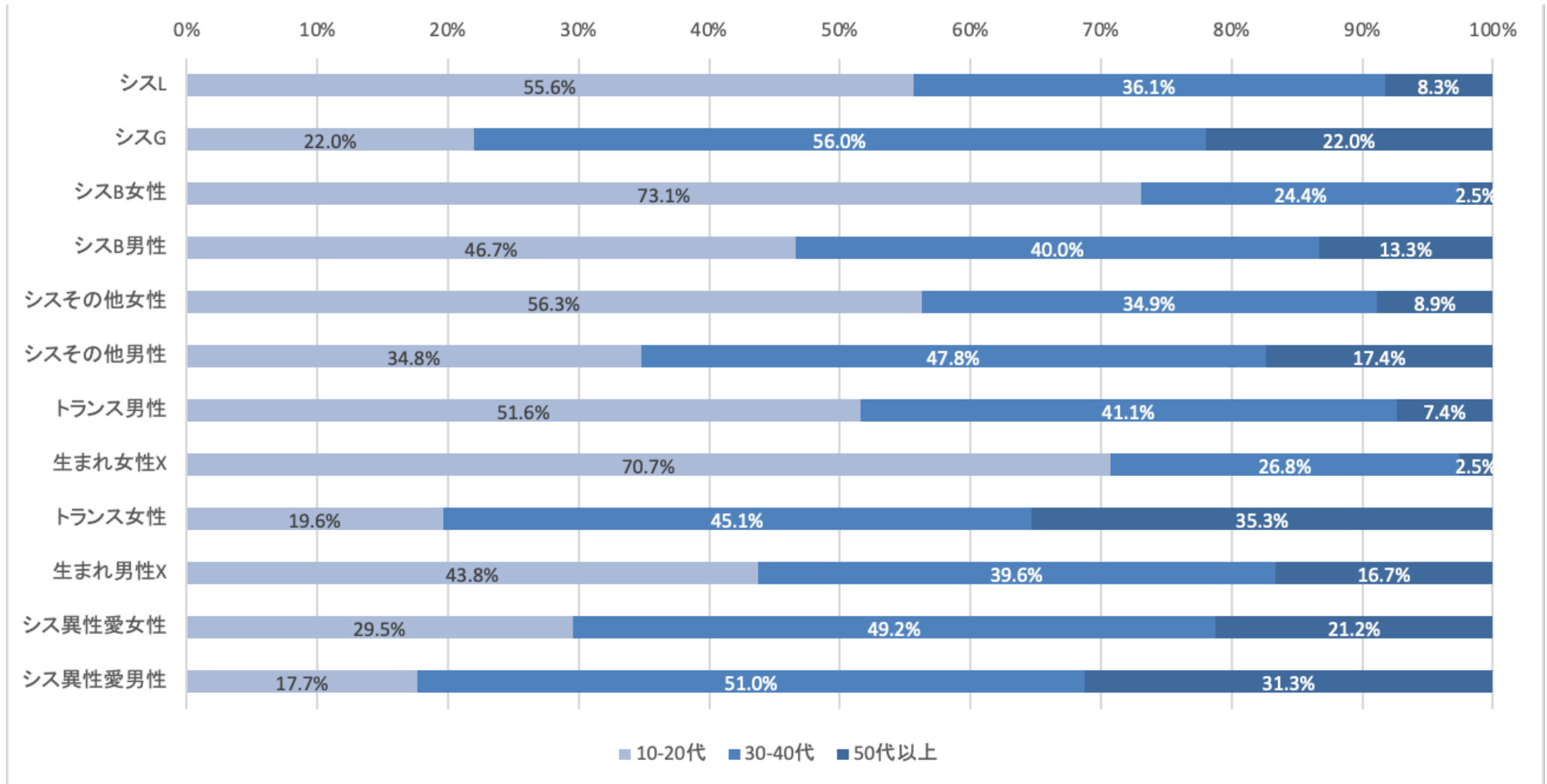
✓ 今回の分析では最も回答者の多かったアイデンティティをもとに分類する

回答者の年代 x SOGIによる分類(表)

		シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	トランス男性	生まれ女性X	トランス女性	生まれ男性X	シス異性愛女性	シス異性愛男性	合計
10-20代	度数	114	81	174	21	108	8	49	391	10	42	78	17	1,093
	%	55.6%	22.0%	73.1%	46.7%	56.3%	34.8%	51.6%	70.7%	19.6%	43.8%	29.5%	17.7%	49.1%
30-40代	度数	74	206	58	18	67	11	39	148	23	38	130	49	861
	%	36.1%	56.0%	24.4%	40.0%	34.9%	47.8%	41.1%	26.8%	45.1%	39.6%	49.2%	51.0%	38.7%
50代以上	度数	17	81	6	6	17	4	7	14	18	16	56	30	272
	%	8.3%	22.0%	2.5%	13.3%	8.9%	17.4%	7.4%	2.5%	35.3%	16.7%	21.2%	31.3%	12.2%
合計	度数	205	368	238	45	192	23	95	553	51	96	264	96	2,226
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

- ✓SOGIによって回答者の年代に違いが見られる
- ✓回答者が最も多かったのは「生まれ女性X」に分類される人
- ✓今回の調査では10代～20代で49.1%であり、過去の調査より若い層からの回答が多かった

回答者の年代 x SOGIによる分類(グラフ)



就業状態

	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	トランス男性	生まれ女性X	トランス女性	生まれ男性X	シス異性愛女性	シス異性愛男性	合計
主に仕事をしている	65.3%	79.0%	47.3%	72.1%	55.5%	66.7%	56.5%	45.6%	56.9%	54.4%	65.3%	90.3%	60.2%
主に家事をし、仕事もしている	6.9%	5.3%	10.2%	0.0%	8.2%	9.5%	5.4%	5.6%	9.8%	5.6%	10.8%	1.1%	6.8%
主に通学をし、仕事もしている	11.4%	2.5%	17.3%	9.3%	12.1%	9.5%	10.9%	15.4%	7.8%	12.2%	5.6%	4.3%	10.5%
仕事はあるが、休んでいる	1.5%	2.0%	0.9%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	1.0%
仕事をしておらず、仕事を探している	0.5%	4.5%	4.0%	2.3%	4.4%	4.8%	6.5%	3.6%	9.8%	6.7%	2.4%	2.2%	3.7%
主に家事をし、仕事はしていない	1.0%	1.7%	0.9%	0.0%	2.7%	0.0%	0.0%	2.4%	3.9%	2.2%	6.0%	1.1%	2.2%
主に通学をし、仕事はしていない	11.4%	3.9%	18.1%	16.3%	13.7%	9.5%	15.2%	22.0%	5.9%	11.1%	4.8%	1.1%	12.6%
その他	2.0%	1.1%	1.3%	0.0%	2.2%	0.0%	5.4%	4.3%	5.9%	7.8%	4.4%	0.0%	3.0%

	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	FtM	FtXなど	MtF	MtXなど	シス異性愛女性	シス異性愛男性	合計
N=	202	357	226	43	182	21	92	533	51	90	251	93	2,141

✓シスジェンダーのバイセクシュアル女性・その他女性、トランスジェンダーで就業している率が低い

就業形態

	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	トランス男性	生まれ女性X	トランス女性	生まれ男性X	シス異性愛女性	シス異性愛男性	合計
正規の職員・従業員	63.1%	75.9%	57.0%	68.6%	58.6%	72.2%	45.6%	46.7%	50.0%	57.6%	71.1%	77.3%	61.7%
派遣社員・契約社員	9.5%	8.2%	2.9%	14.3%	8.6%	5.6%	10.3%	11.1%	7.9%	7.6%	12.3%	10.2%	9.2%
パート・アルバイト等	17.3%	8.2%	32.0%	8.6%	25.0%	11.1%	22.1%	32.8%	28.9%	22.7%	10.8%	3.4%	19.9%
会社や団体の役員等	3.0%	1.9%	0.0%	0.0%	2.1%	5.6%	2.9%	1.1%	13.2%	1.5%	1.0%	2.3%	1.8%
自営業者	4.2%	5.0%	6.4%	8.6%	5.0%	0.0%	14.7%	5.6%	0.0%	9.1%	3.9%	4.5%	5.5%
その他	3.0%	0.9%	1.7%	0.0%	0.7%	5.6%	4.4%	2.8%	0.0%	1.5%	1.0%	2.3%	1.8%
非正規雇用	26.8%	16.3%	34.9%	22.9%	33.6%	16.7%	32.4%	43.9%	36.8%	30.3%	23.0%	13.6%	29.1%
N=	168	319	172	35	140	18	68	360	38	66	204	88	1,676

✓シスジェンダーのバイセクシュアル女性・その他女性、トランスジェンダーで非正規雇用が多い

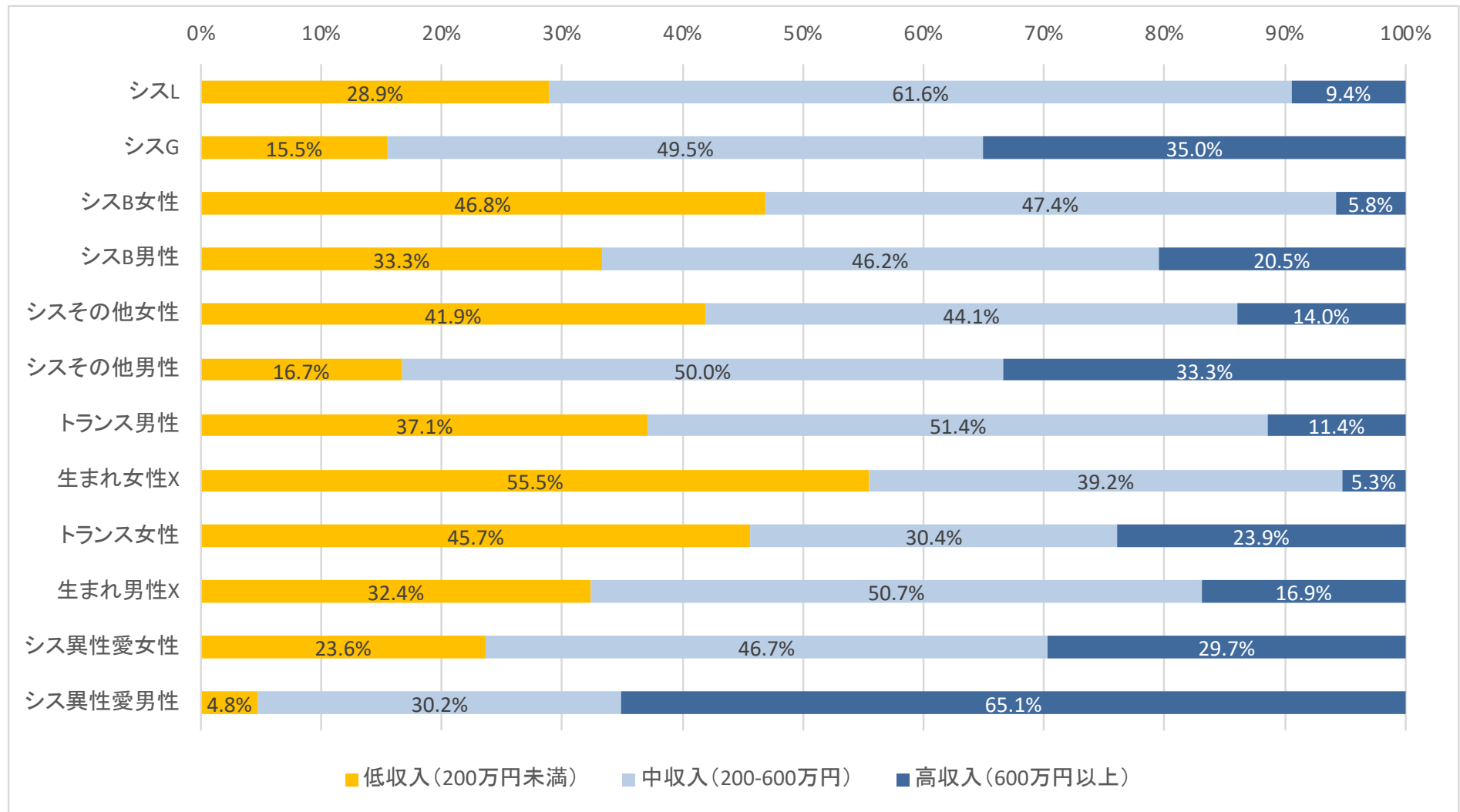
学歴

	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	トランス男性	生まれ女性X	トランス女性	生まれ男性X	シス異性愛女性	シス異性愛男性
小学校	0.0%	0.3%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%
中学校(旧制尋常小)	1.7%	1.9%	2.5%	5.0%	0.6%	0.0%	2.3%	2.9%	4.2%	2.5%	0.0%	0.0%
高校(旧制中学・旧制中学校・高等女学校・実業学校を含む)	15.7%	11.8%	16.2%	20.0%	10.3%	26.7%	29.9%	25.9%	25.0%	25.3%	10.7%	14.1%
高専・短大(旧制高校・旧制師範学校・旧制高等師範学校)	6.2%	0.6%	3.6%	2.5%	8.3%	0.0%	5.7%	5.2%	4.2%	0.0%	7.6%	2.8%
専門学校・専修学校	15.2%	7.3%	8.1%	12.5%	8.3%	0.0%	14.9%	10.6%	8.3%	6.3%	5.6%	4.2%
大学・大学院	61.2%	78.0%	69.0%	60.0%	72.4%	73.3%	47.1%	55.3%	58.3%	63.3%	76.1%	78.9%

	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	トランス男性	生まれ女性X	トランス女性	生まれ男性X	シス異性愛女性	シス異性愛男性
N=	178	314	197	40	156	15	87	479	48	79	197	71

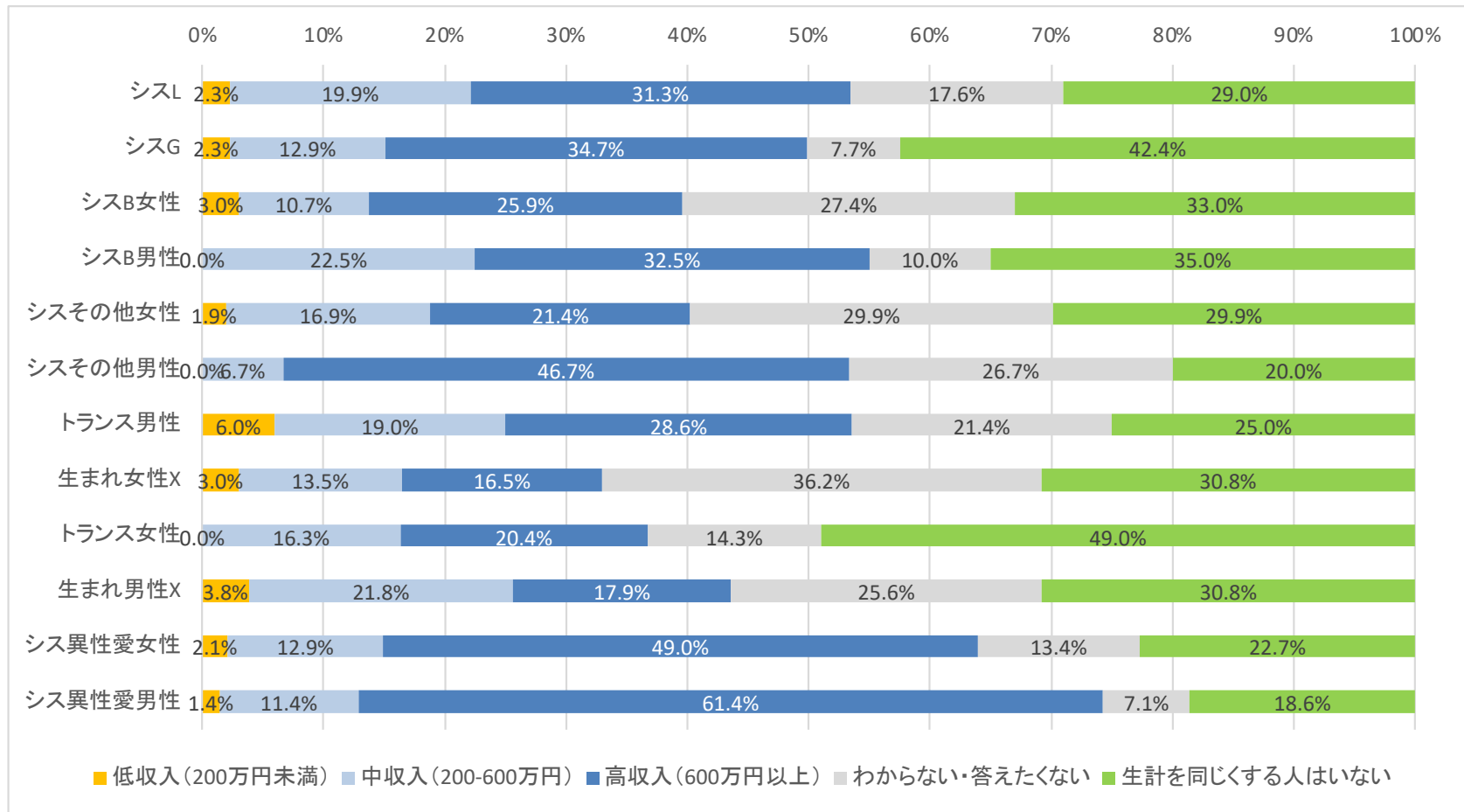
✓トランスジェンダーで大卒以上の比率が低い。

本人の年収



	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	トランス男性	生まれ女性X	トランス女性	生まれ男性X	シス異性愛女性	シス異性愛男性
N=	159	297	173	39	136	12	70	418	46	71	182	63

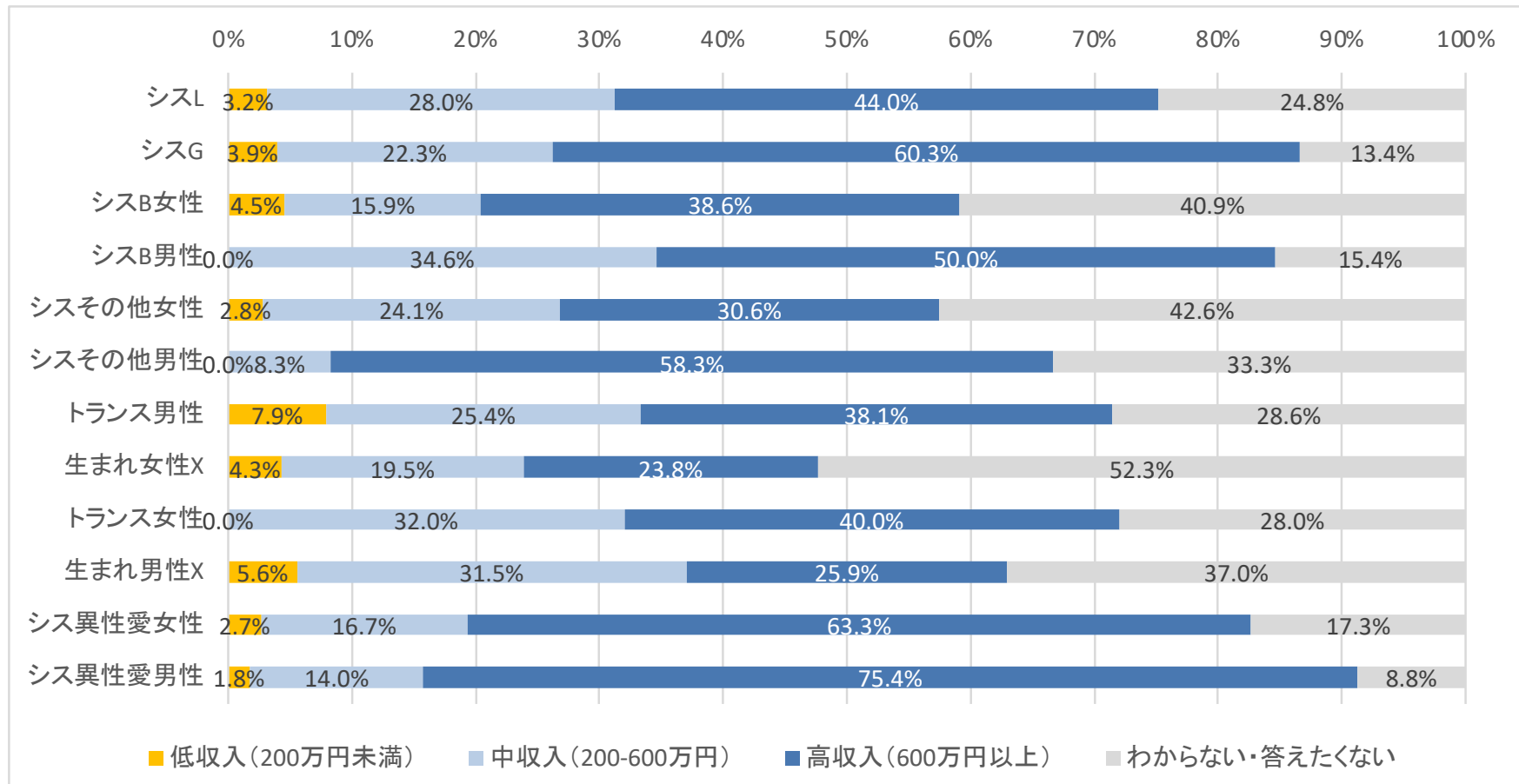
世帯年収(単身世帯も含む)



	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	トランス男性	生まれ女性X	トランス女性	生まれ男性X	シス異性愛女性	シス異性愛男性
N=	176	311	197	40	154	15	84	467	49	78	194	70

✓LGBTで生計を同じくする人がいないという回答が多い

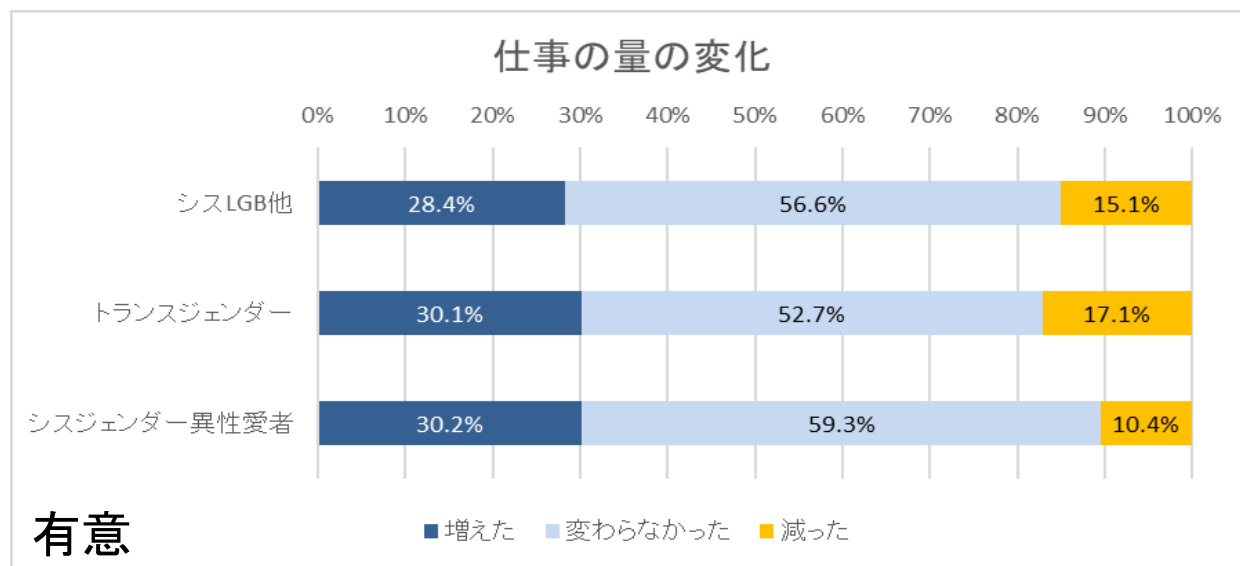
世帯年収(単身世帯を除く)



	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	トランス男性	生まれ女性X	トランス女性	生まれ男性X	シス異性愛女性	シス異性愛男性
N=	125	179	132	26	108	12	63	323	25	54	150	57

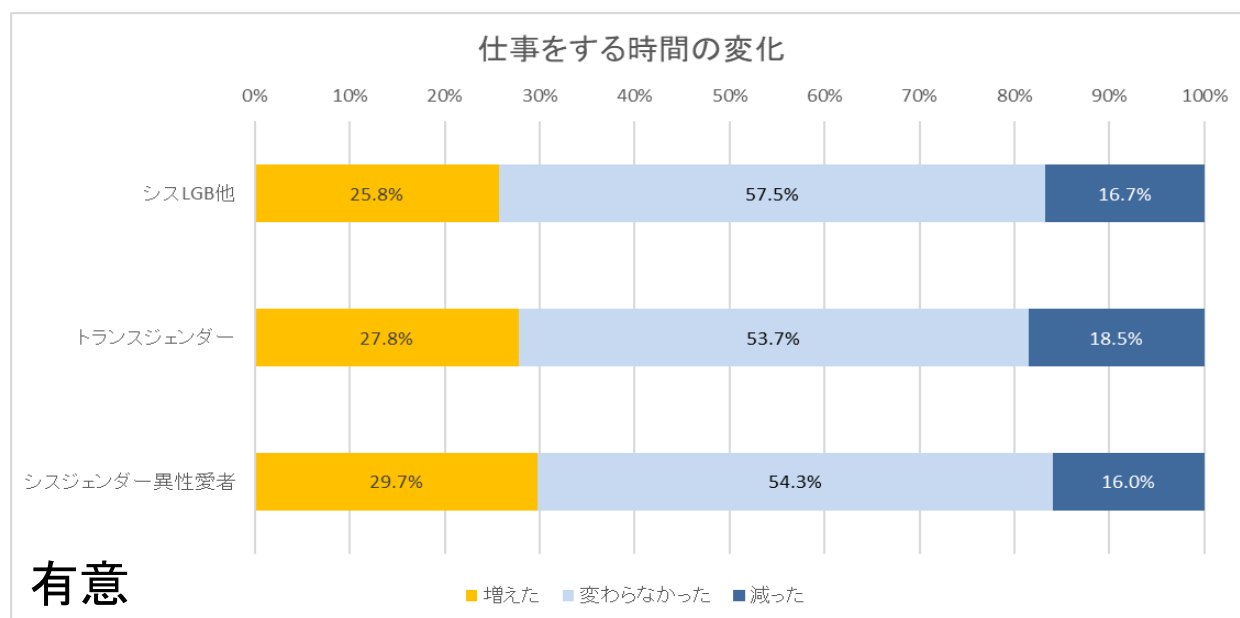
✓LGBTで世帯年収がわからない・答えたくないの比率が高い

新型コロナウイルス感染拡大前との変化・仕事編 1/4



✓トランスジェンダーで仕事の量が減ったという回答が多い

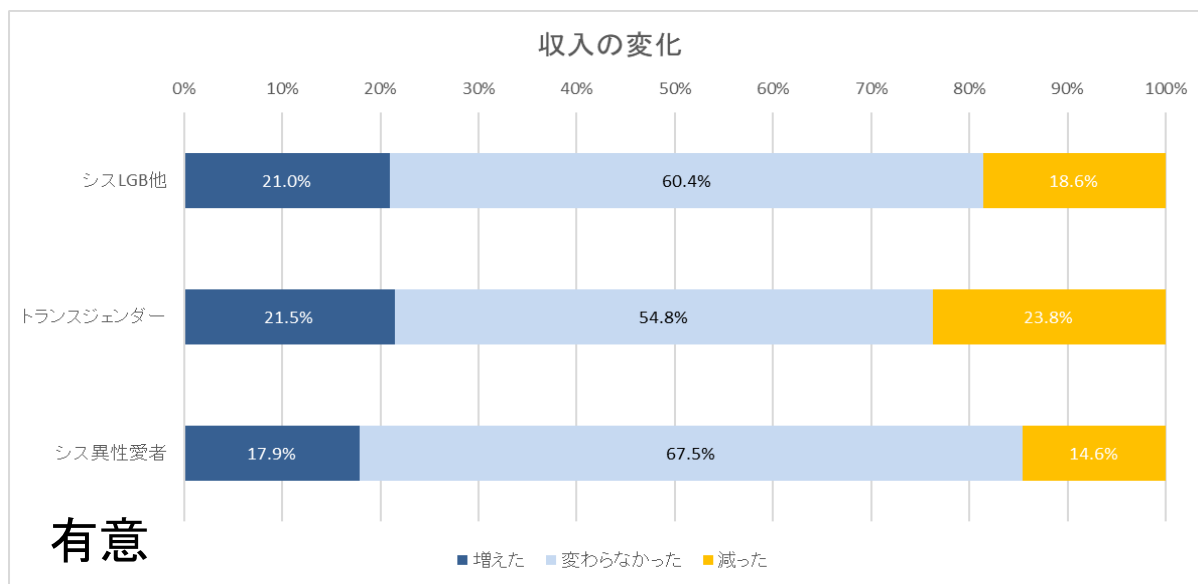
	シスLGB他	トランスジェンダー	シス異性愛者
N=	744	438	268
※「該当なし」を除く			



✓トランスジェンダーで仕事をする時間が減ったという回答が多い

	シスLGB他	トランスジェンダー	シス異性愛者
N=	753	443	269
※「該当なし」を除く			

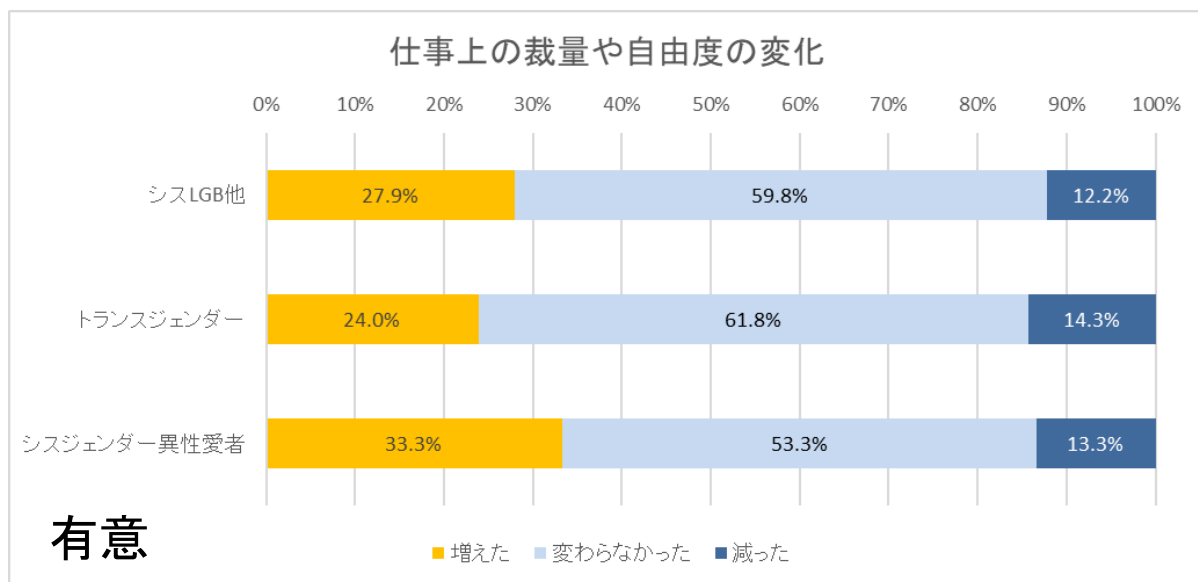
新型コロナウイルス感染拡大前との変化・仕事編 2/4



✓トランスジェンダーで収入が減ったという回答が多い

	シスLGB他	トランスジェンダー	シス異性愛者
N=	758	442	268

※「該当なし」を除く

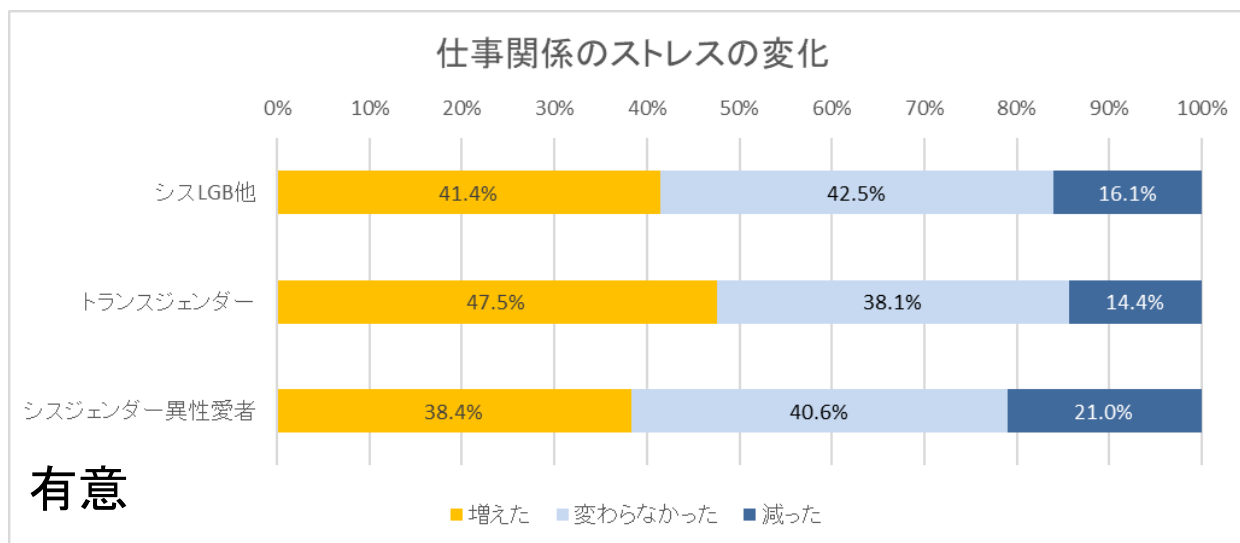


✓仕事上の裁量や自由度はシス異性愛者、シスLGB他、トランスジェンダーの順で増えたという回答が多い

	シスLGB他	トランスジェンダー	シス異性愛者
N=	752	434	270

※「該当なし」を除く

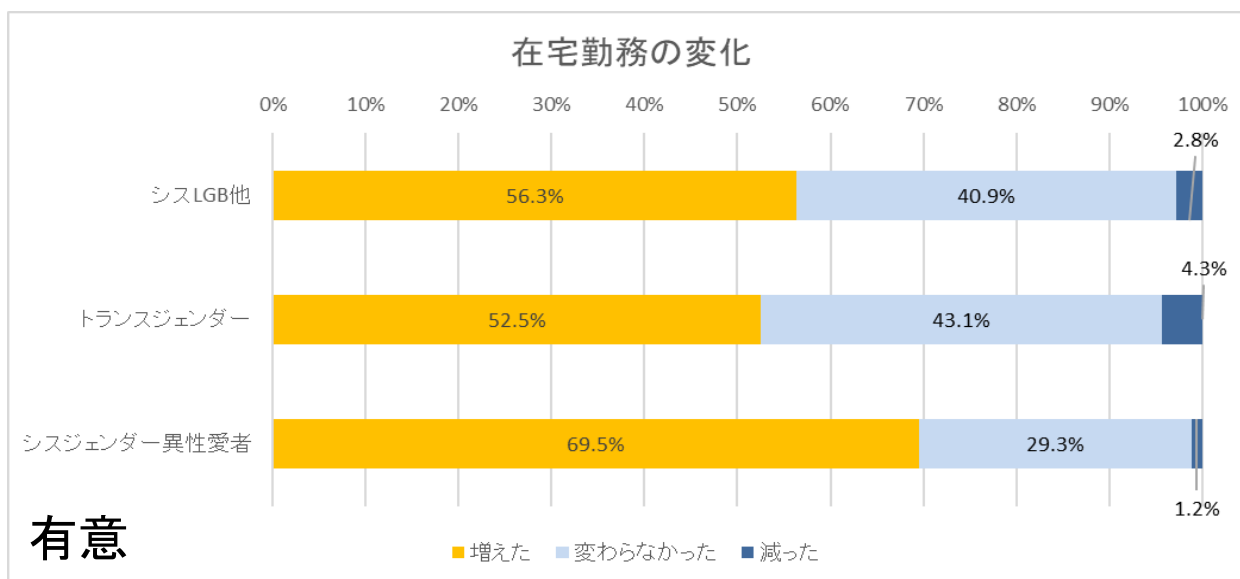
新型コロナウイルス感染拡大前との変化・仕事編 3/4



✓仕事関係のストレスはトランスジェンダー、シスLGB他、シス異性愛者、の順で増えたという回答が多い。シス異性愛者は減ったという回答が最も多い。

	シスLGB他	トランスジェンダー	シス異性愛者
N=	760	444	271

※「該当なし」を除く



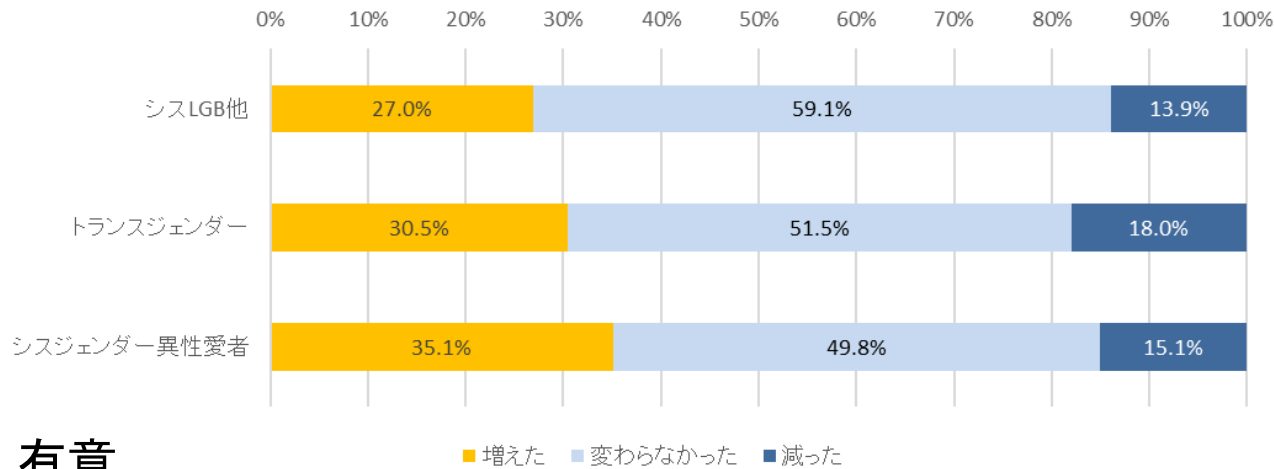
✓在宅勤務が増えたのはシス異性愛者で、結果として、裁量や自由度が増え、ストレスが減っていると考えられる。トランスジェンダーではむしろ在宅勤務が減っている人もいます。

	シスLGB他	トランスジェンダー	シス異性愛者
N=	577	299	256

※「該当なし」を除く

新型コロナウイルス感染拡大前との変化・仕事編 4/4

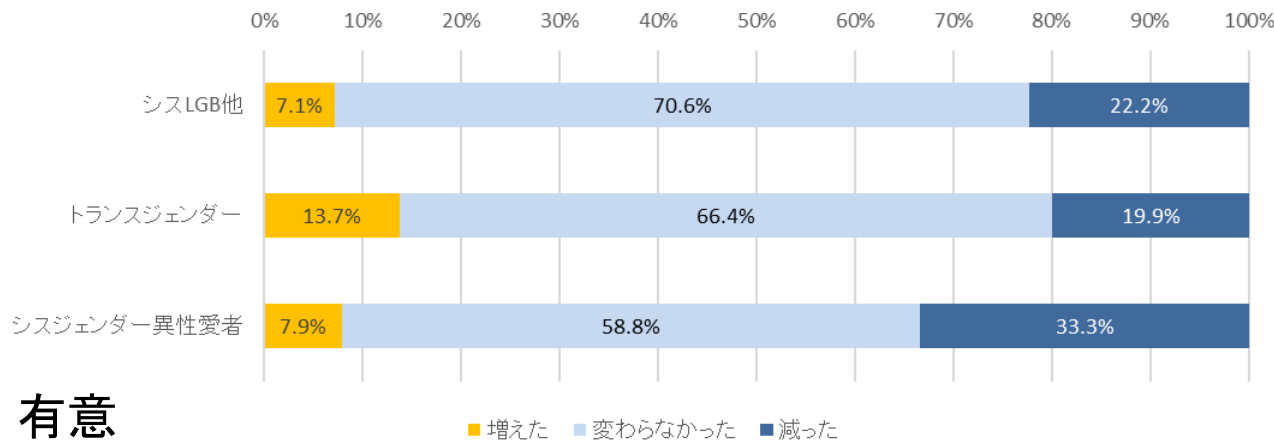
資格やスキルの学びの時間



✓学びの時間はシス異性愛者が最も増えており、逆にトランスジェンダーが最も減っている。

	シスLGB他	トランスジェンダー	シス異性愛者
N=	697	394	259
※「該当なし」を除く			

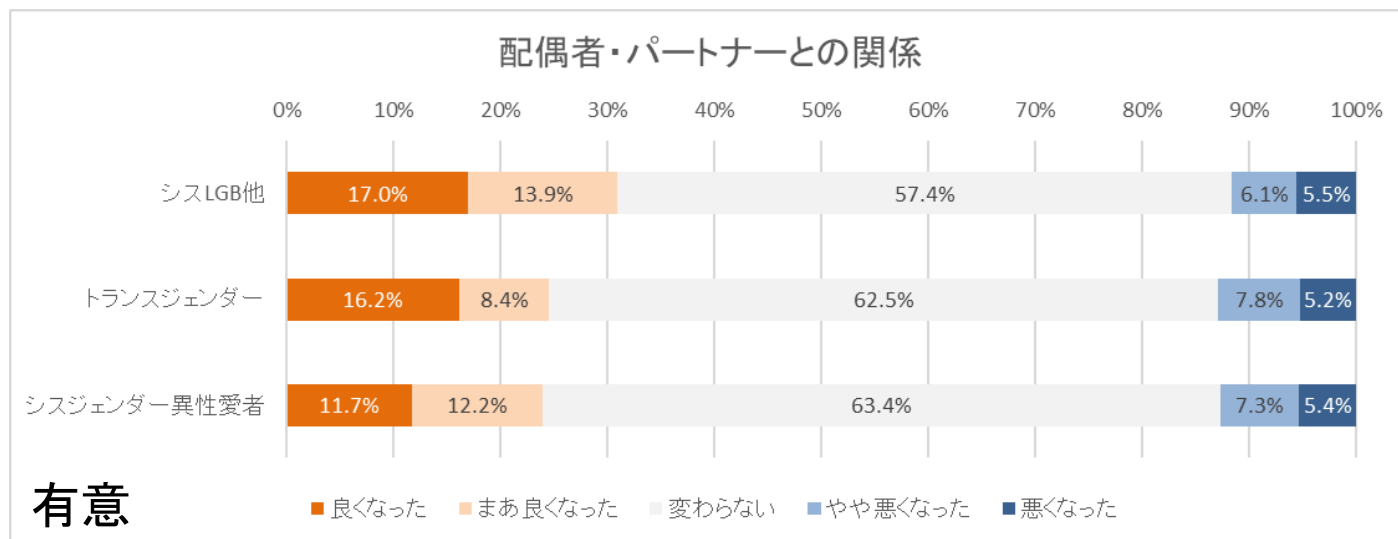
服装に関する悩みの変化



✓服装の悩みが減ったのはシス異性愛者で在宅勤務の増加が影響している可能性がある。トランスジェンダーは増えたという回答が多い。

	シスLGB他	トランスジェンダー	シス異性愛者
N=	729	437	267
※「該当なし」を除く			

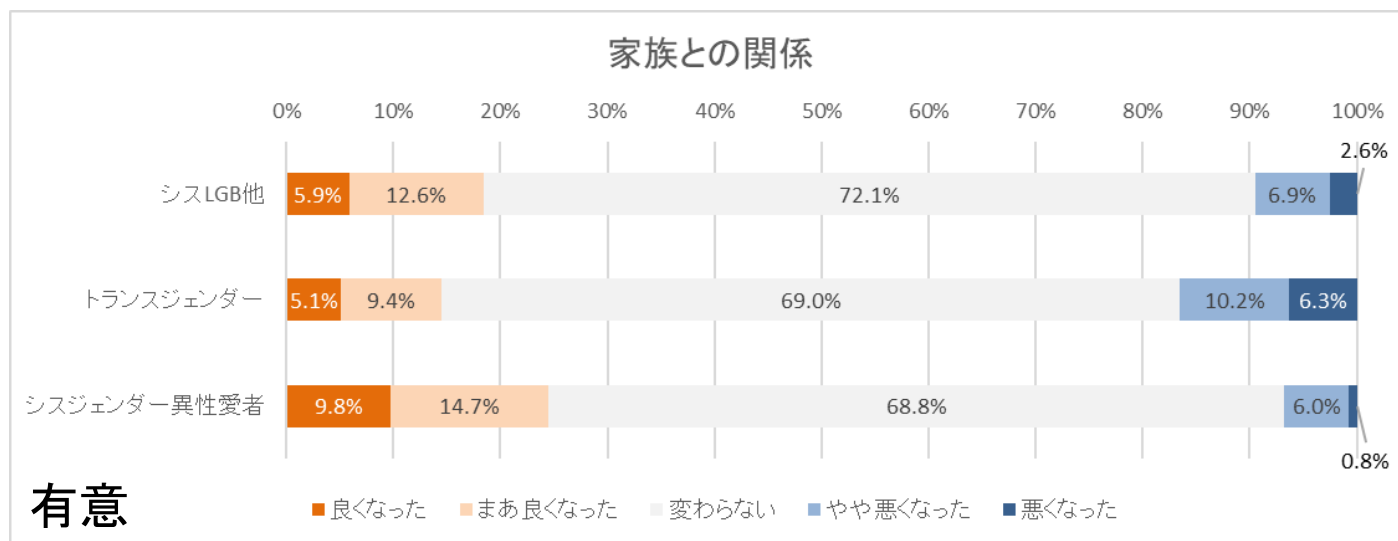
新型コロナウイルス感染拡大前との変化・人間関係編 1/4



✓シスLGB他で配偶者・パートナーとの関係が良くなったという回答が多い

	シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
N=	934	714	279

※該当なしを除く

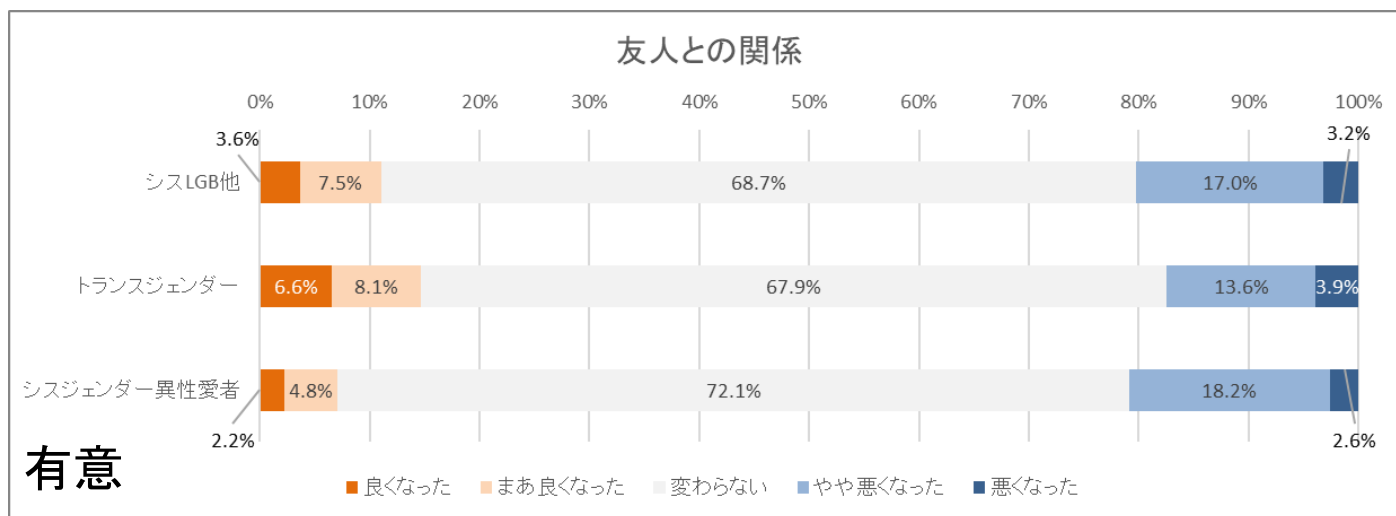


✓LGBT、特にトランスジェンダーで家族との関係が悪化したという回答が多い

	シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
N=	934	714	278

※該当なしを除く

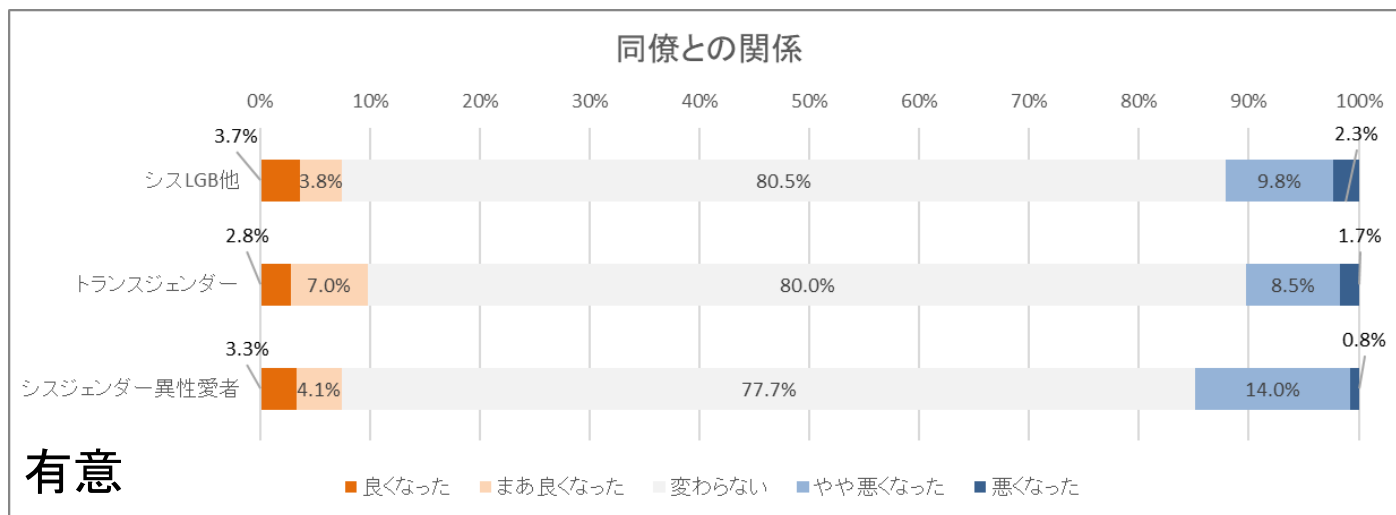
新型コロナウイルス感染拡大前との変化・人間関係編 2/4



✓シスLGBは悪化したという回答が、トランスジェンダーで改善したという回答が多い

	シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー 異性愛者
N=	936	714	278

※該当なしを除く

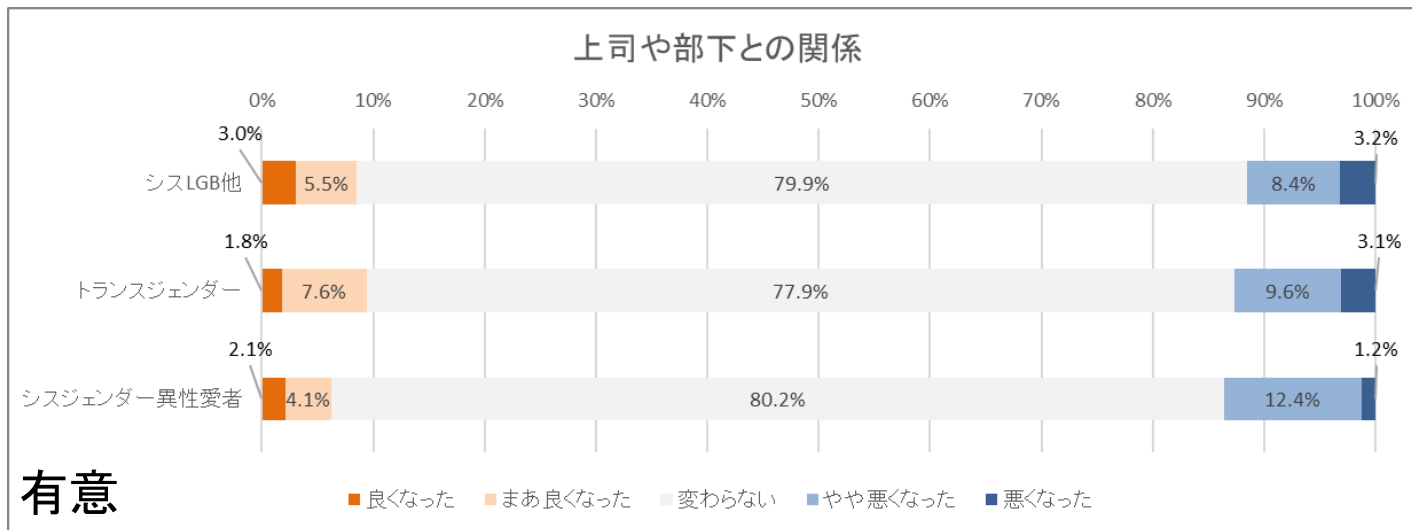


✓シス異性愛者で同僚との関係が悪くなったという回答が多い

	シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー 異性愛者
N=	933	713	278

※該当なしを除く

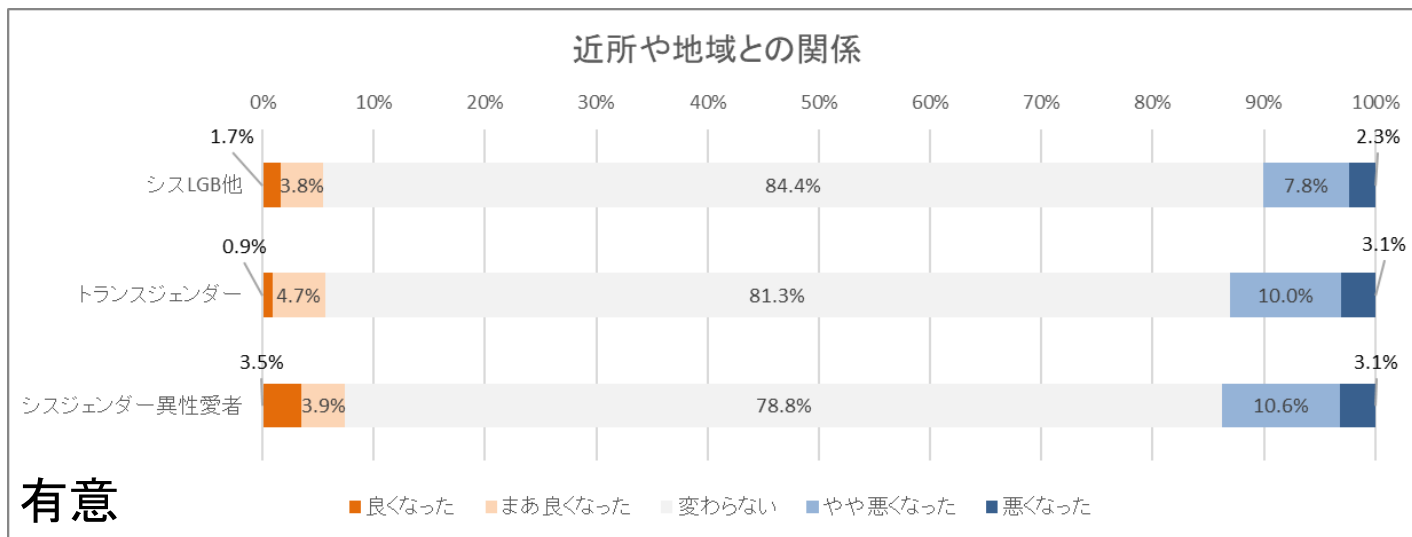
新型コロナウイルス感染拡大前との変化・人間関係編 3/4



✓シス異性愛者で上司や部下との関係が悪くなったという回答が多い

	シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
N=	930	712	278

※該当なしを除く

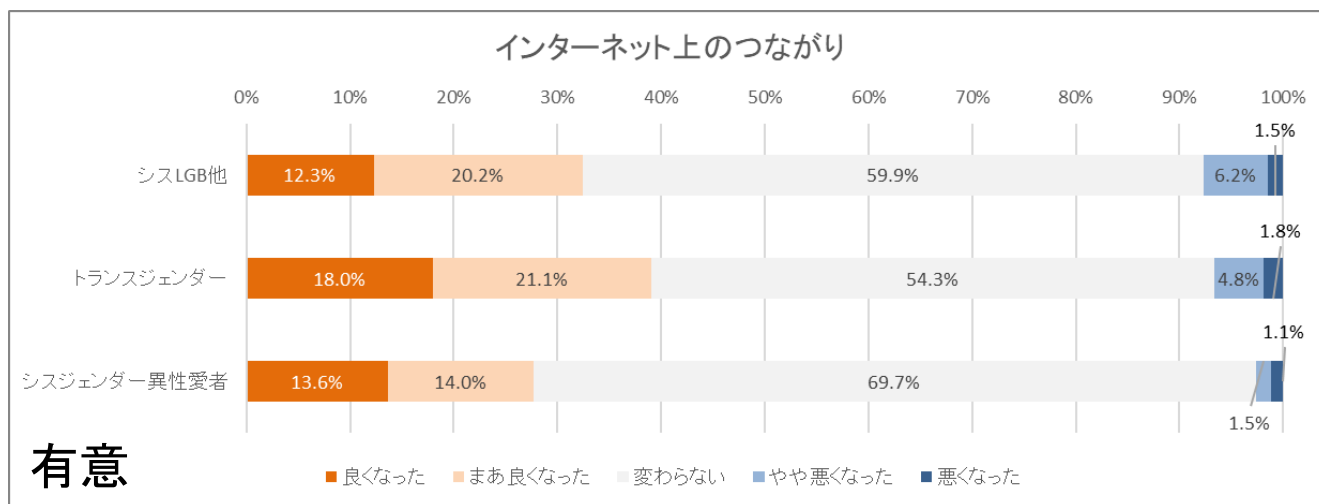


✓シス異性愛者で近所や地域との関係が悪くなったという回答が多い

	シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
N=	936	714	279

※該当なしを除く

新型コロナウイルス感染拡大前との変化・人間関係編 4/4



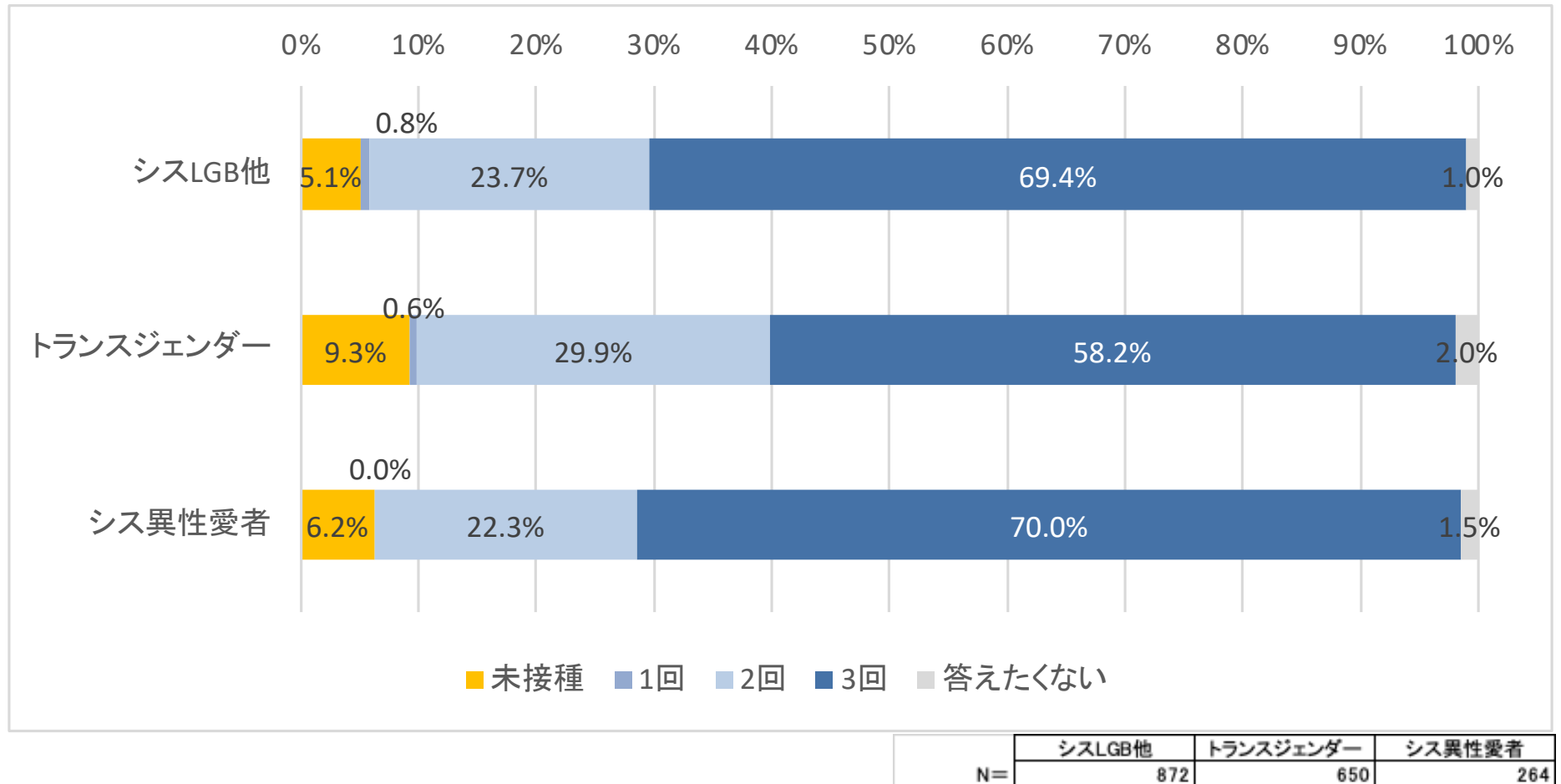
✓LGBTの方がインターネット上のつながりで関係が良くなったという回答が多い(悪くなったも多い)

	シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー 異性愛者
N=	934	716	278

※該当なしを除く

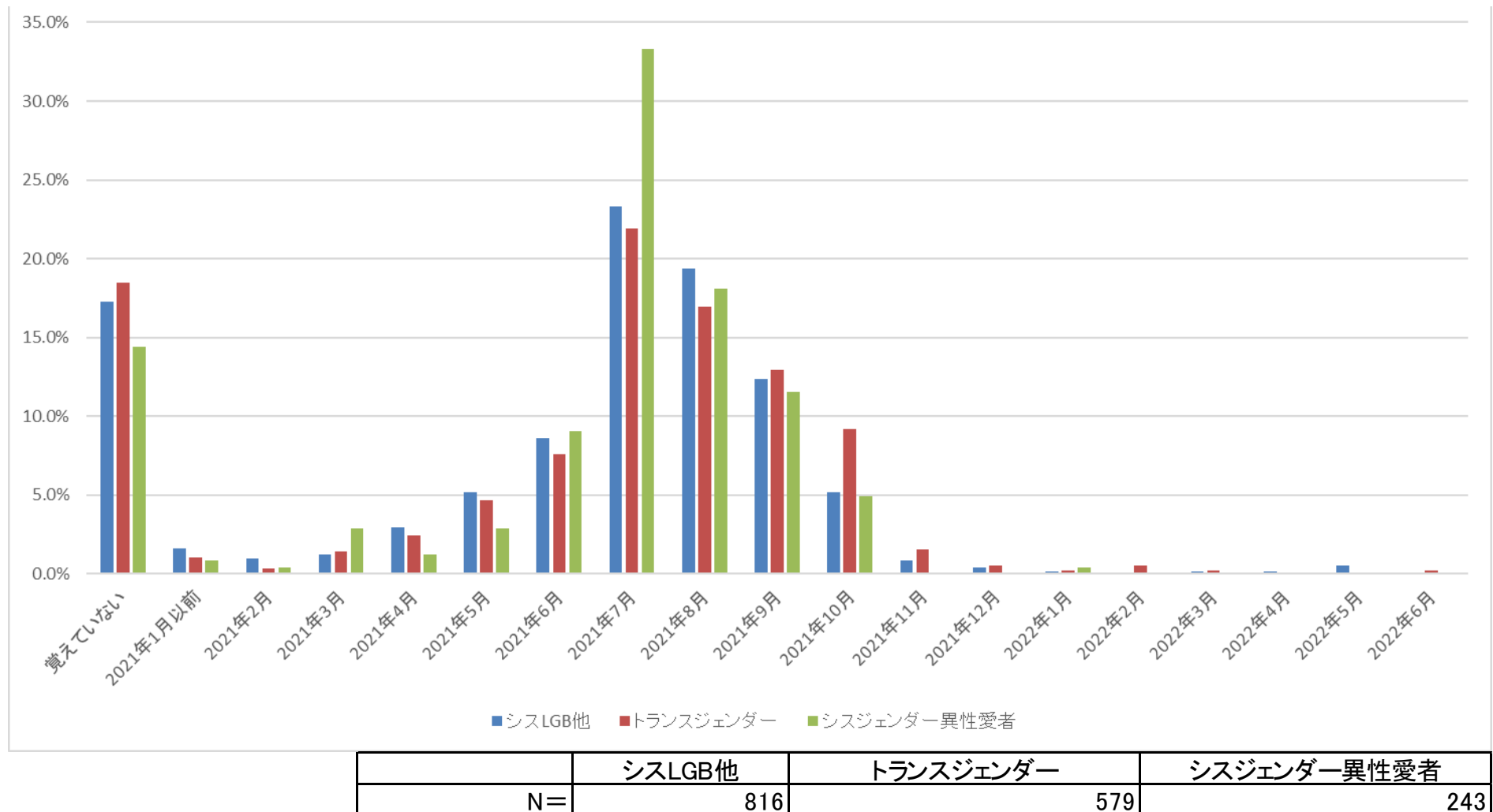
- ✓新型コロナウイルス感染拡大による影響は、LGBT等とシス異性愛者で違いが見られた
- ✓特にトランスジェンダーで、元々非正規雇用が多かったこともあり、仕事時間減が収入減につながっているのでは、と考えられる
- ✓トランスジェンダーでは在宅勤務が減り、学びの時間が減り、服装の悩みが増えており、ストレスも増えている
- ✓人間関係の変化は、関係性により良くなった・悪くなったという回答が異なっており、興味深い、元々の関係性からの変化を聞いており、カミングアウトの壁もあり、元々の関係性も違うかもしれないことは要注意

ワクチン接種回数



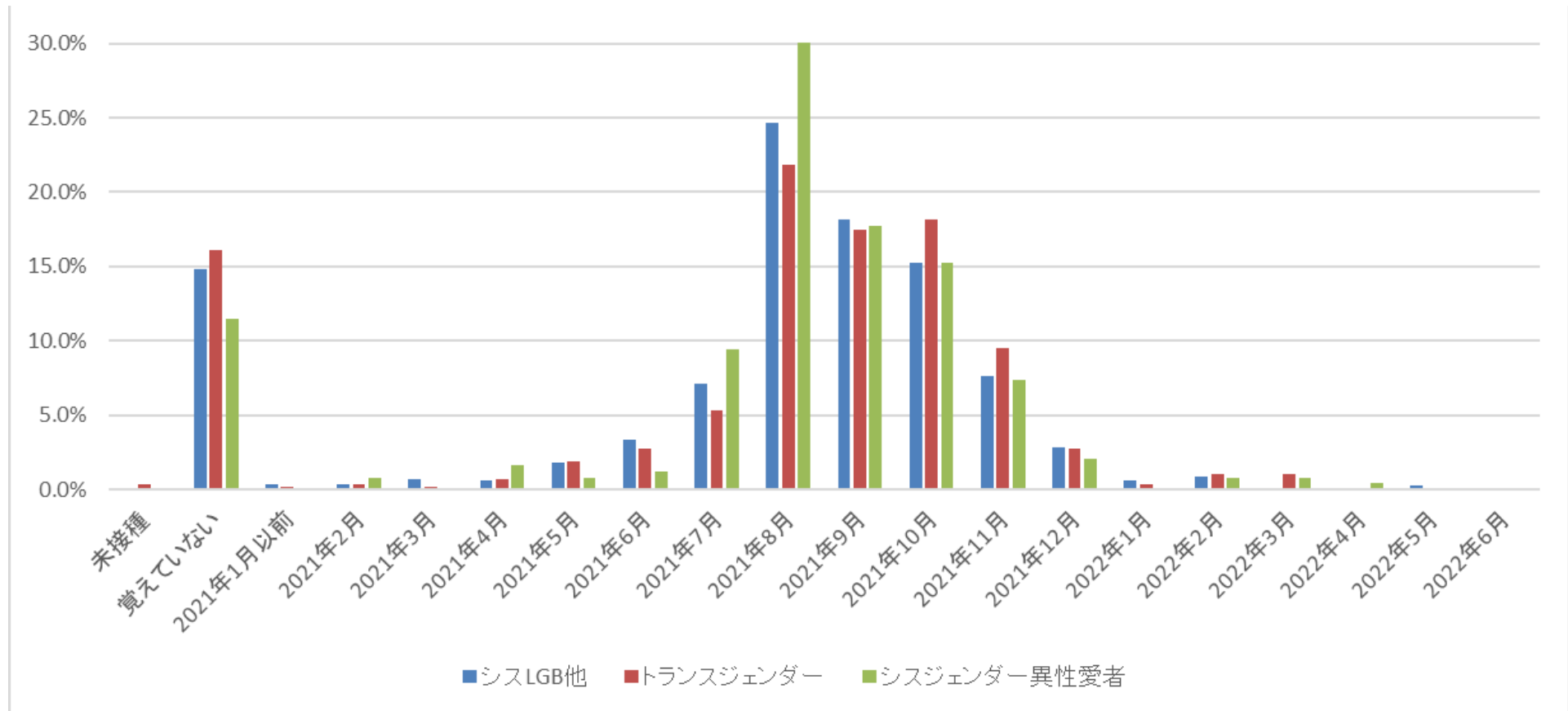
✓トランスジェンダーで未接種の割合が高い。(2022年5月～6月時点)

ワクチン1回目の接種時期



✓1回目のワクチン接種の時期は、特にトランスジェンダーが遅めであった。回答者の年代が若いことも影響している可能性がある

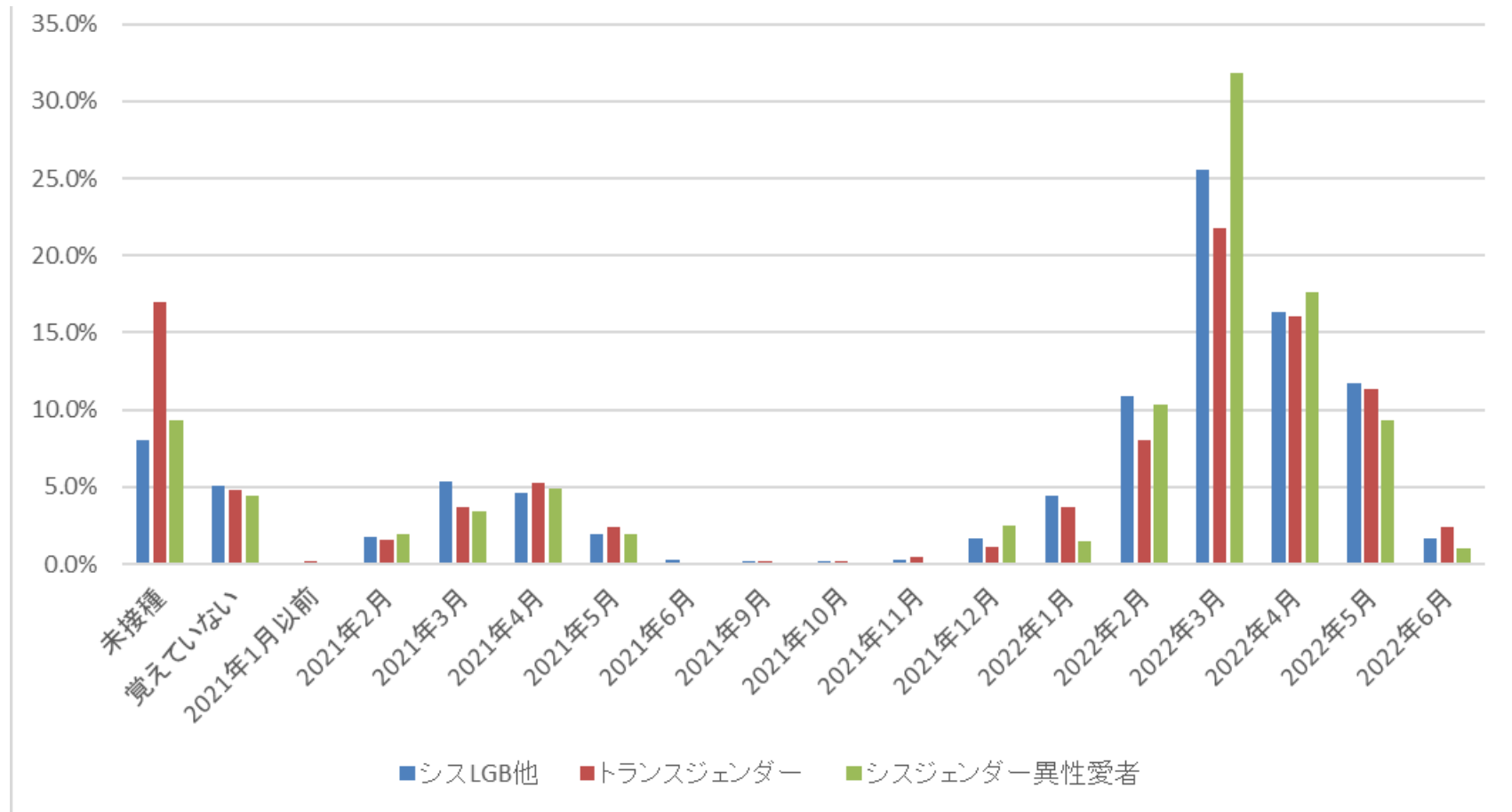
ワクチン2回目の接種時期



	シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
N=	811	578	243

✓2回目のワクチン接種の時期は統計的に有意な差は見られなかった。

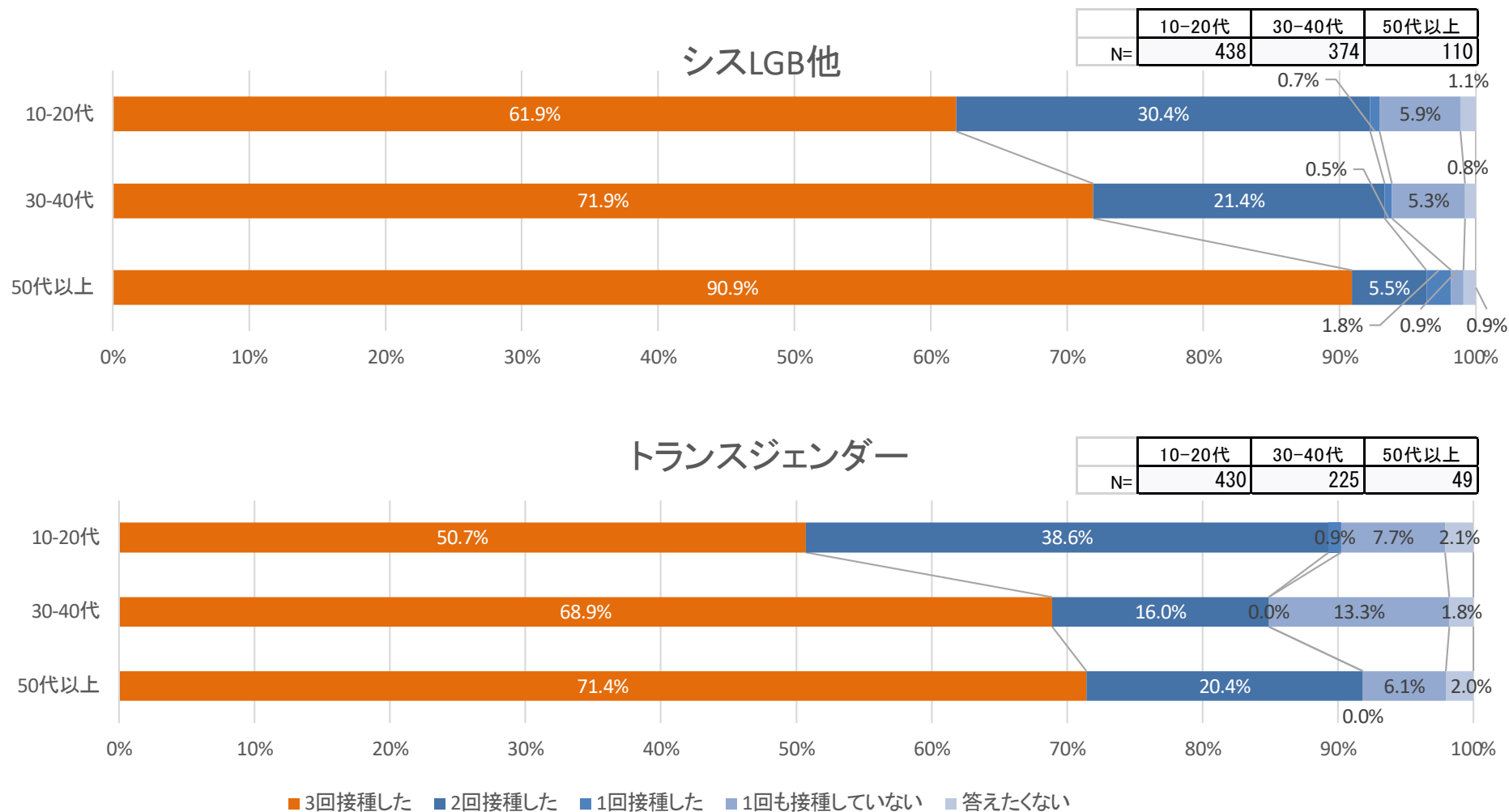
ワクチン3回目の接種時期



	シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
N=	672	460	204

✓3回目のワクチン接種の時期は統計的に有意な差は見られなかった。

ワクチン接種回数(年代別)(LGBT)



✓年代別でも、トランスジェンダーの方が未接種が多く、3回接種率が低い

カミングアウトの範囲（職場、複数回答）

	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	トランス男性	生まれ女性X	トランス女性	生まれ男性X	シス異性愛女性	シス異性愛男性
上司	30.3%	33.5%	20.1%	32.3%	12.9%	9.1%	75.4%	30.8%	85.3%	45.0%	11.1%	71.4%
同僚	41.8%	40.6%	34.7%	43.8%	16.5%	18.2%	70.7%	33.4%	85.3%	51.7%	22.2%	44.4%
部下	25.2%	30.5%	14.6%	21.7%	13.4%	0.0%	46.7%	15.8%	70.8%	27.9%	11.1%	37.5%
取引先・仕入先	8.5%	17.3%	8.2%	8.0%	3.8%	0.0%	23.1%	9.7%	53.8%	19.2%	11.1%	25.0%
顧客	8.0%	16.1%	7.1%	4.2%	5.1%	0.0%	27.8%	9.7%	48.3%	15.4%	11.1%	25.0%
その他関係者	23.6%	24.3%	17.2%	33.3%	8.6%	10.0%	44.1%	21.4%	57.1%	30.2%	11.1%	25.0%

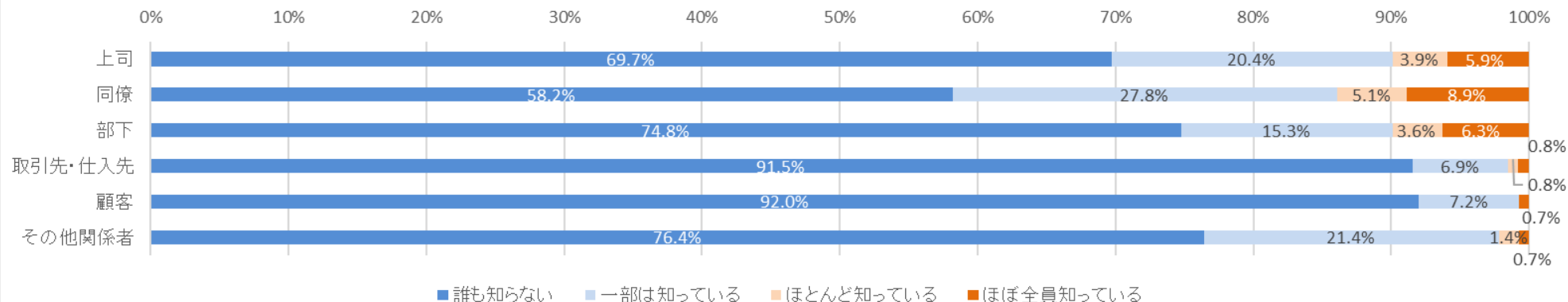
	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	トランス男性	生まれ女性X	トランス女性	生まれ男性X	シス異性愛女性	シス異性愛男性	合計
N=	160	302	161	33	125	16	66	344	37	63	174	71	1552

※Nは「上司」に関する回答があった人数を参考情報として記載。項目によってケース数が若干異なる。

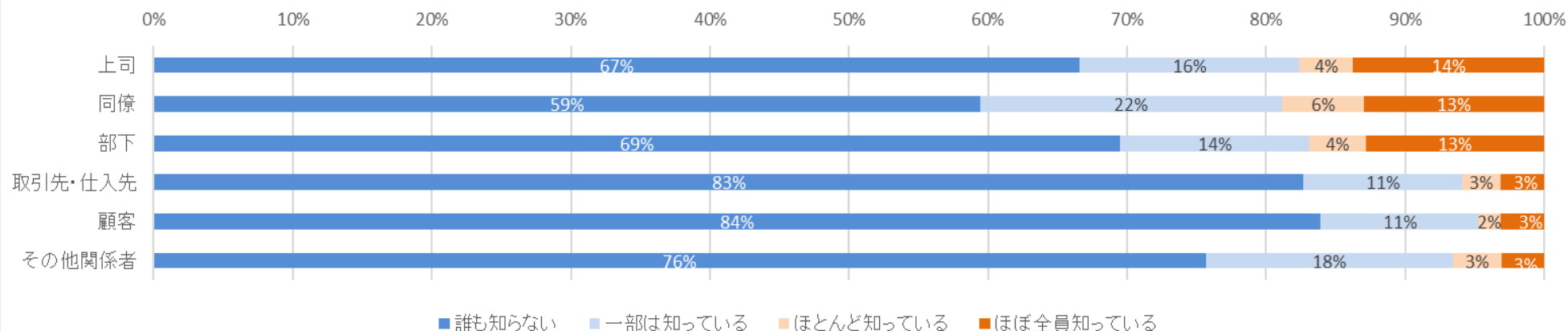
✓SOGIや同僚・上司などの職業上の関係性によってカミングアウトの度合いが異なる

職場でのカミングアウト1/2

シス・レズビアン

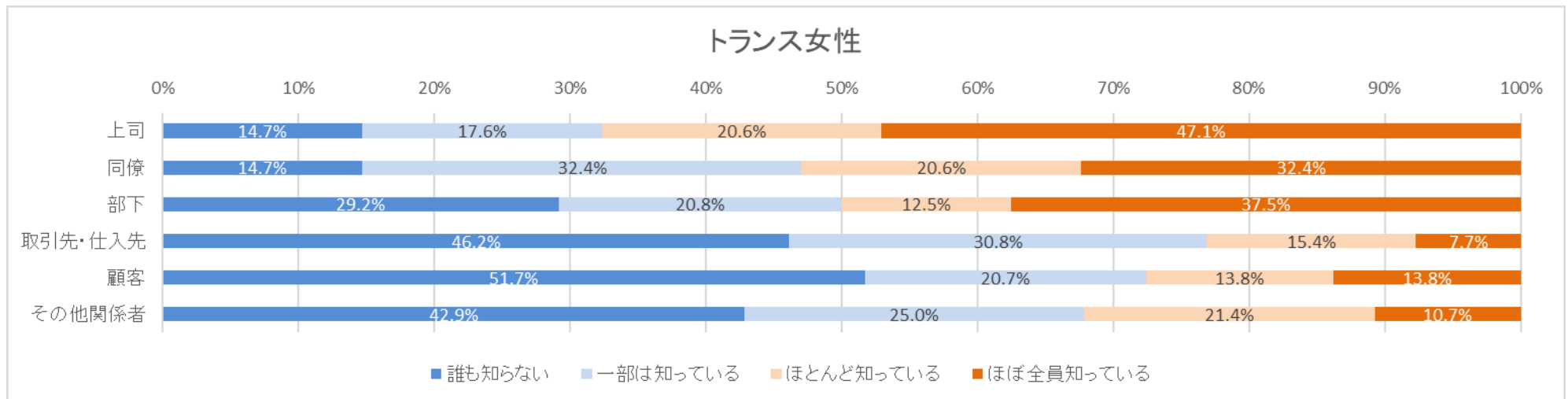
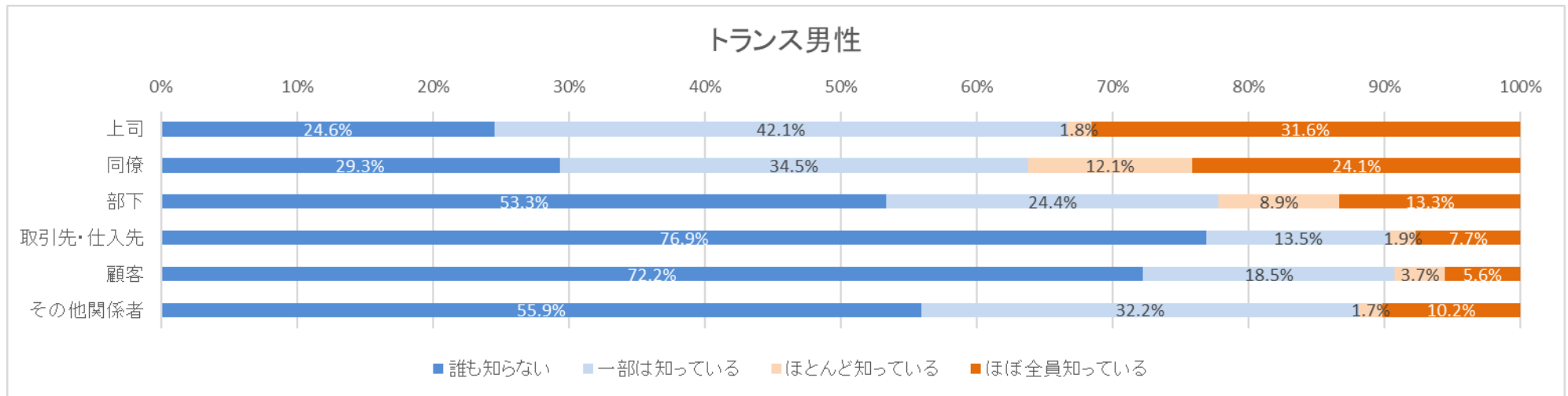


シス・ゲイ



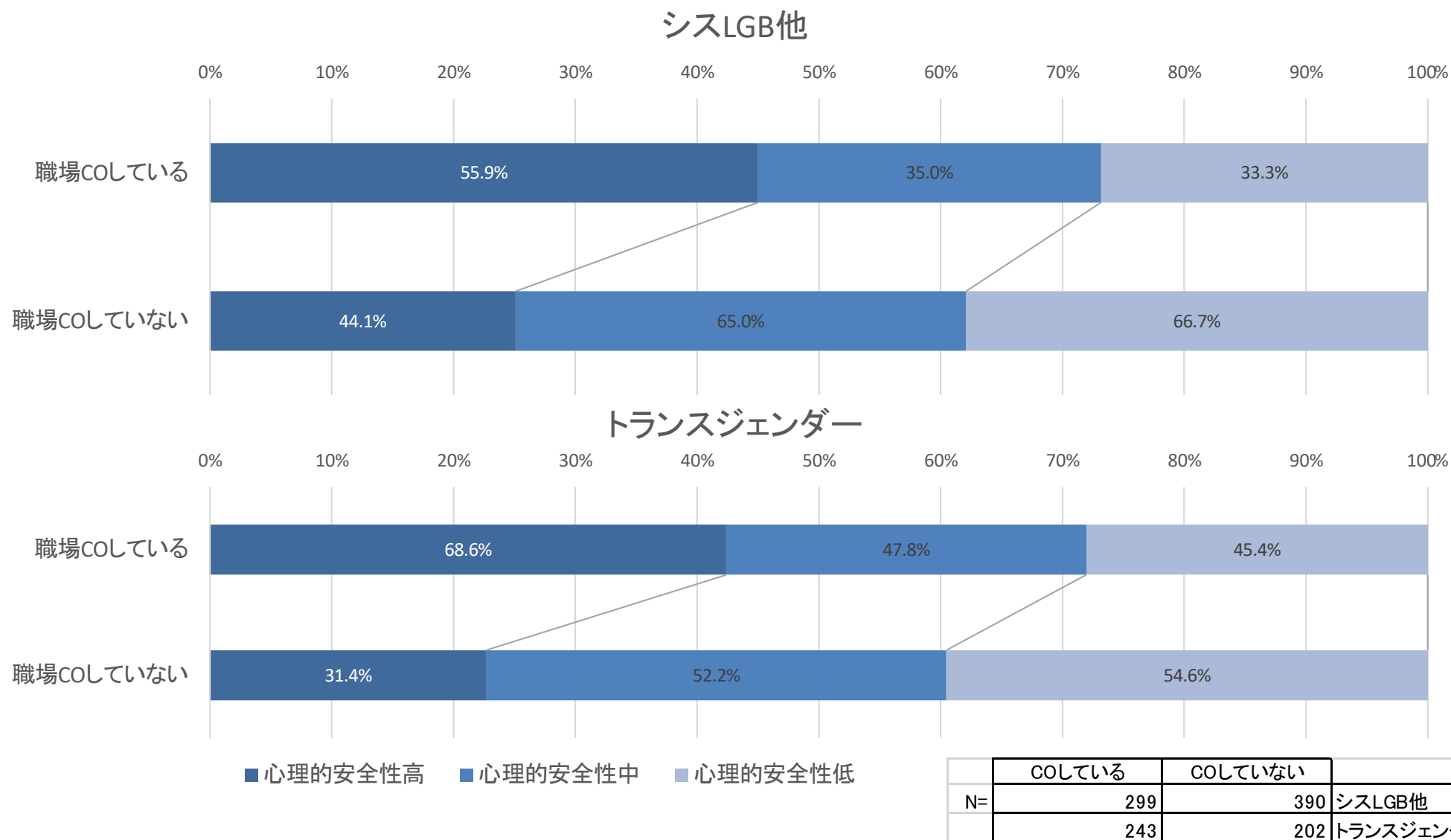
✓カミングアウトしている場合も、相手の立場により度合いが異なり、ほぼ全員が知っているという人はまだ非常に少ない(アウティングのリスクを抱えた状態)。

職場でのカミングアウト2/2



✓職場でのカミングアウトは、トランス女性、トランス男性を比較するとトランス女性の方がカミングアウトしているor周囲に知られている人が多い。

職場でのカミングアウト×心理的安全性



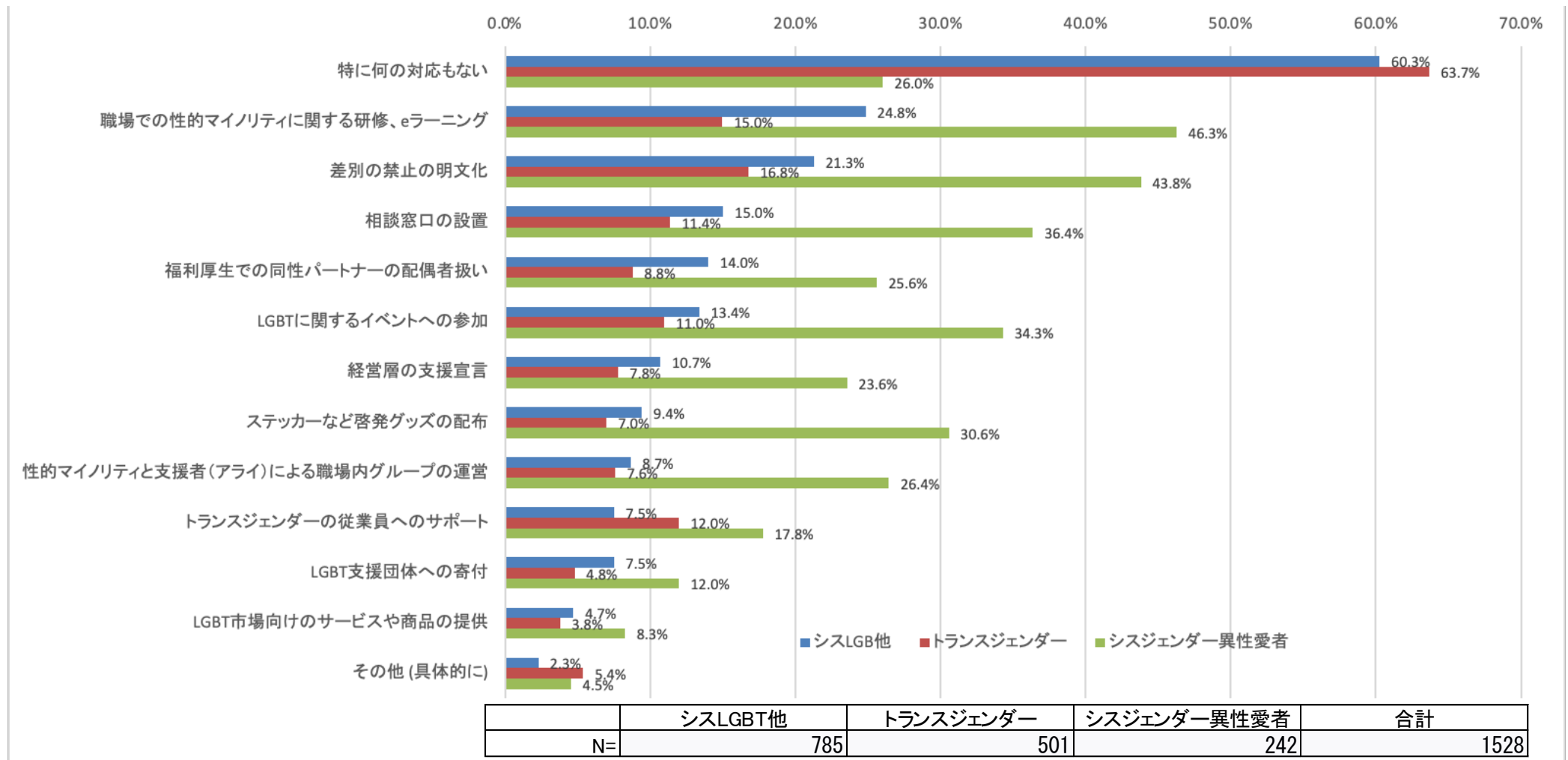
カミングアウト範囲（職場以外、複数回答）

	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	トランス男性	生まれ女性X	トランス女性	生まれ男性X	シス異性愛女性	シス異性愛男性
誰にも知られていない	5.2%	7.3%	10.0%	12.1%	33.0%	36.4%	1.3%	10.5%	2.3%	14.7%	28.6%	33.3%
配偶者・パートナー	57.6%	50.5%	50.6%	48.5%	12.8%	27.3%	57.3%	30.1%	40.9%	32.0%	21.4%	33.3%
母親（義理を含む）	43.6%	36.3%	41.3%	27.3%	17.0%	9.1%	80.0%	39.2%	65.9%	42.7%	14.3%	33.3%
父親（義理を含む）	25.0%	24.9%	20.6%	21.2%	3.2%	9.1%	72.0%	22.8%	47.7%	29.3%	14.3%	33.3%
その他の親族（きょうだいなど）	45.9%	34.9%	33.1%	24.2%	8.5%	9.1%	81.3%	31.7%	45.5%	29.3%	7.1%	66.7%
友人	87.2%	78.9%	81.3%	54.5%	50.0%	45.5%	90.7%	74.0%	86.4%	70.7%	64.3%	66.7%
教職員・教育関係者	7.0%	9.7%	6.3%	15.2%	3.2%	0.0%	40.0%	16.2%	25.0%	25.3%	21.4%	0.0%
医療・福祉関係者	9.9%	18.7%	7.5%	12.1%	2.1%	0.0%	42.7%	12.3%	61.4%	26.7%	14.3%	66.7%
隣人、地域の方	3.5%	8.3%	3.1%	6.1%	1.1%	9.1%	6.7%	2.3%	34.1%	5.3%	0.0%	0.0%
インターネット・SNS上のつながり	67.4%	61.2%	50.0%	57.6%	33.0%	36.4%	62.7%	60.1%	70.5%	49.3%	28.6%	33.3%
その他（具体的に）	9.3%	5.9%	5.0%	9.1%	7.4%	9.1%	9.3%	9.6%	15.9%	12.0%	14.3%	66.7%

	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	トランス男性	生まれ女性X	トランス女性	生まれ男性X	シス異性愛女性	シス異性愛男性
N=	172	289	160	33	94	11	75	439	44	75	14	3

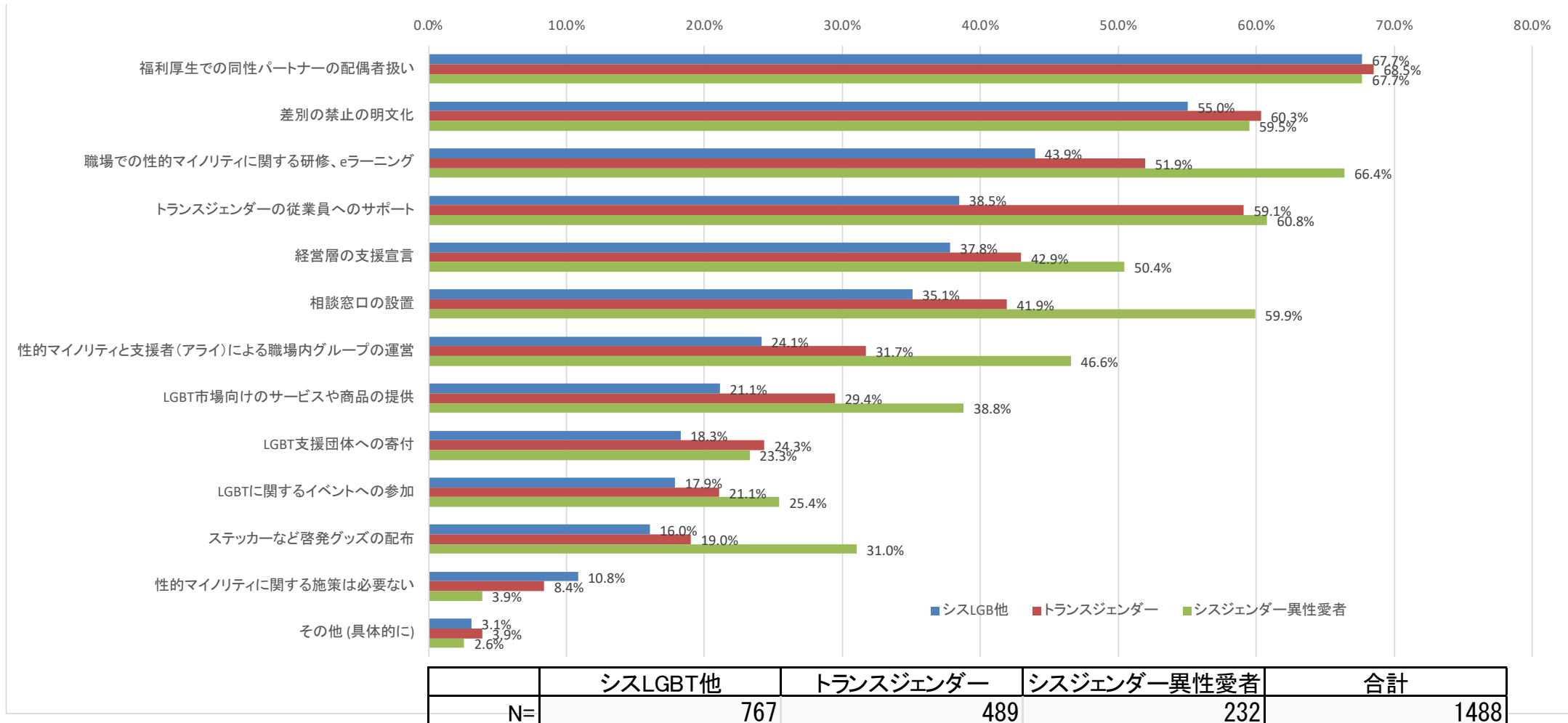
※該当なしを除く

職場のLGBT施策（実際、複数回答）



✓特にLGBTに関する施策がないという回答はLGBTでは60%以上になる。

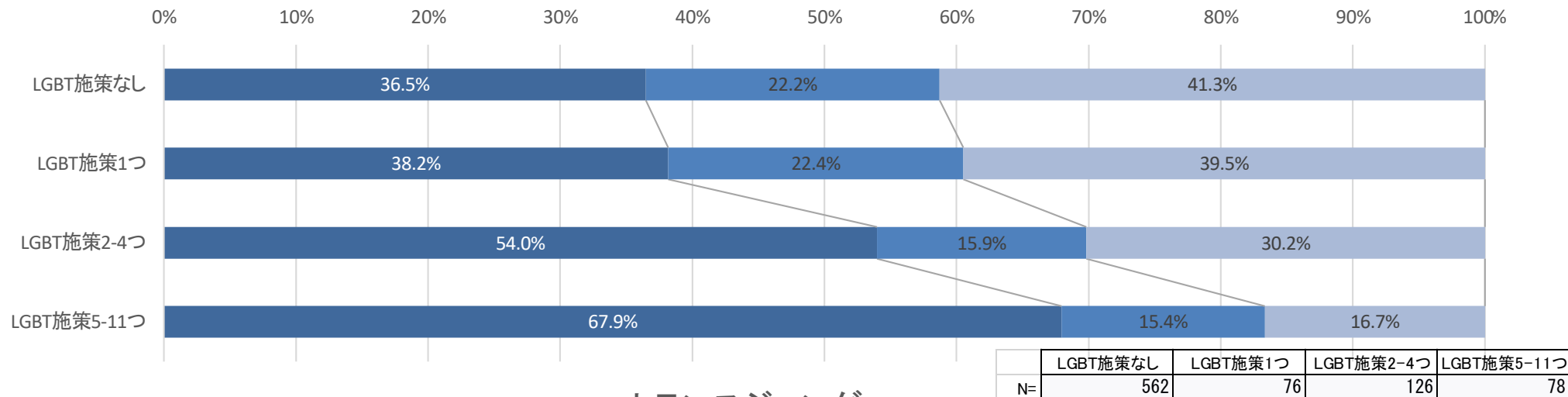
職場のLGBT施策（希望、複数回答）



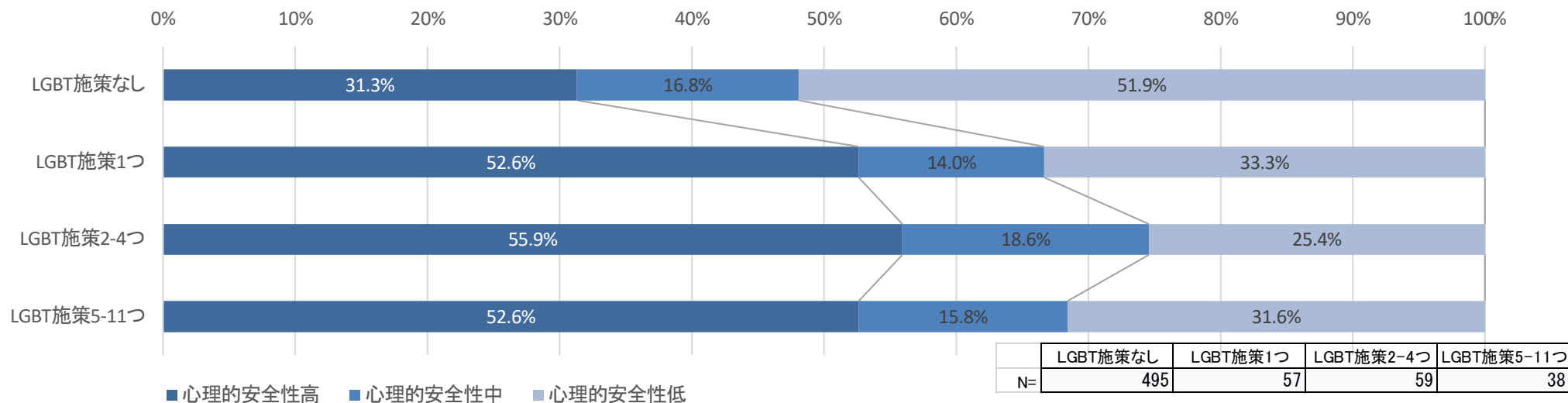
✓LGBTとシス異性愛者で希望する施策にズレがある。福利厚生で同性パートナーの配偶者扱いが必要だという認識は一致しているが、実際に導入されている職場は少ない。

LGBT施策 × 心理的安全性

シスLGB他

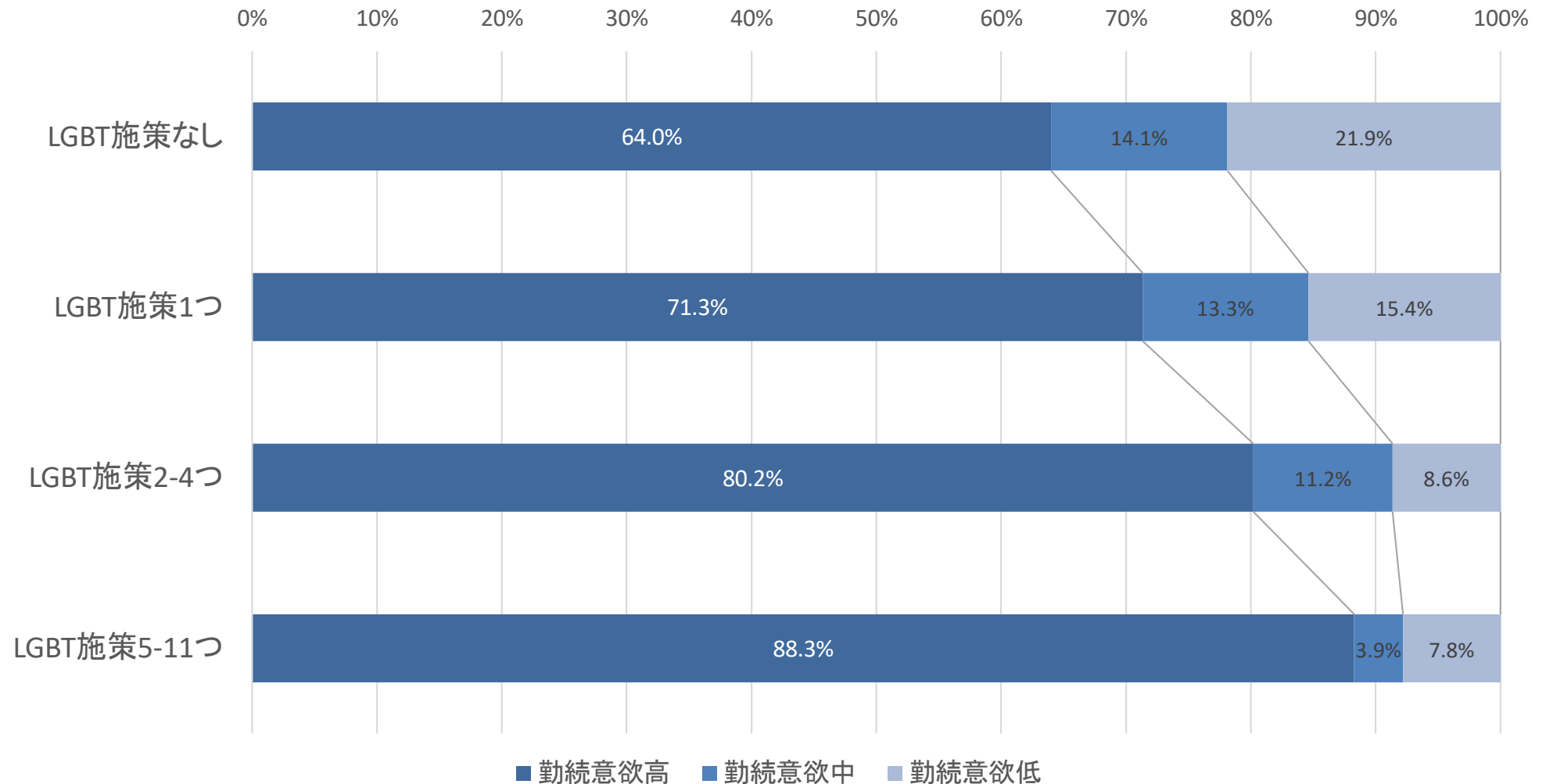


トランスジェンダー



有意

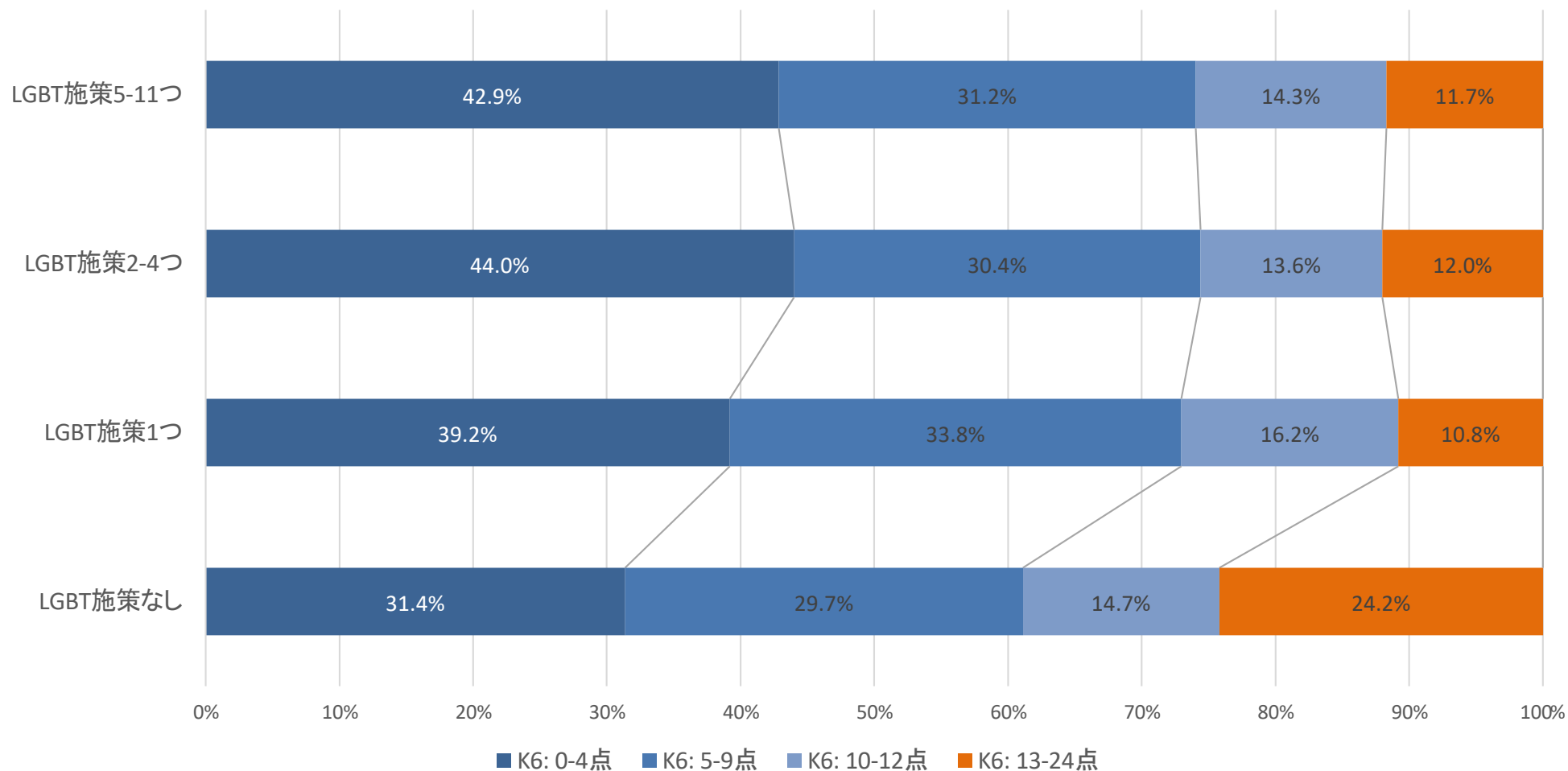
LGBT施策の数 × 勤続意欲(LGBT)



	LGBT施策なし	LGBT施策1つ	LGBT施策2-4つ	LGBT施策5-11つ
N=	800	143	197	128

LGBT施策 × メンタルヘルス(K6)

シスLGB他

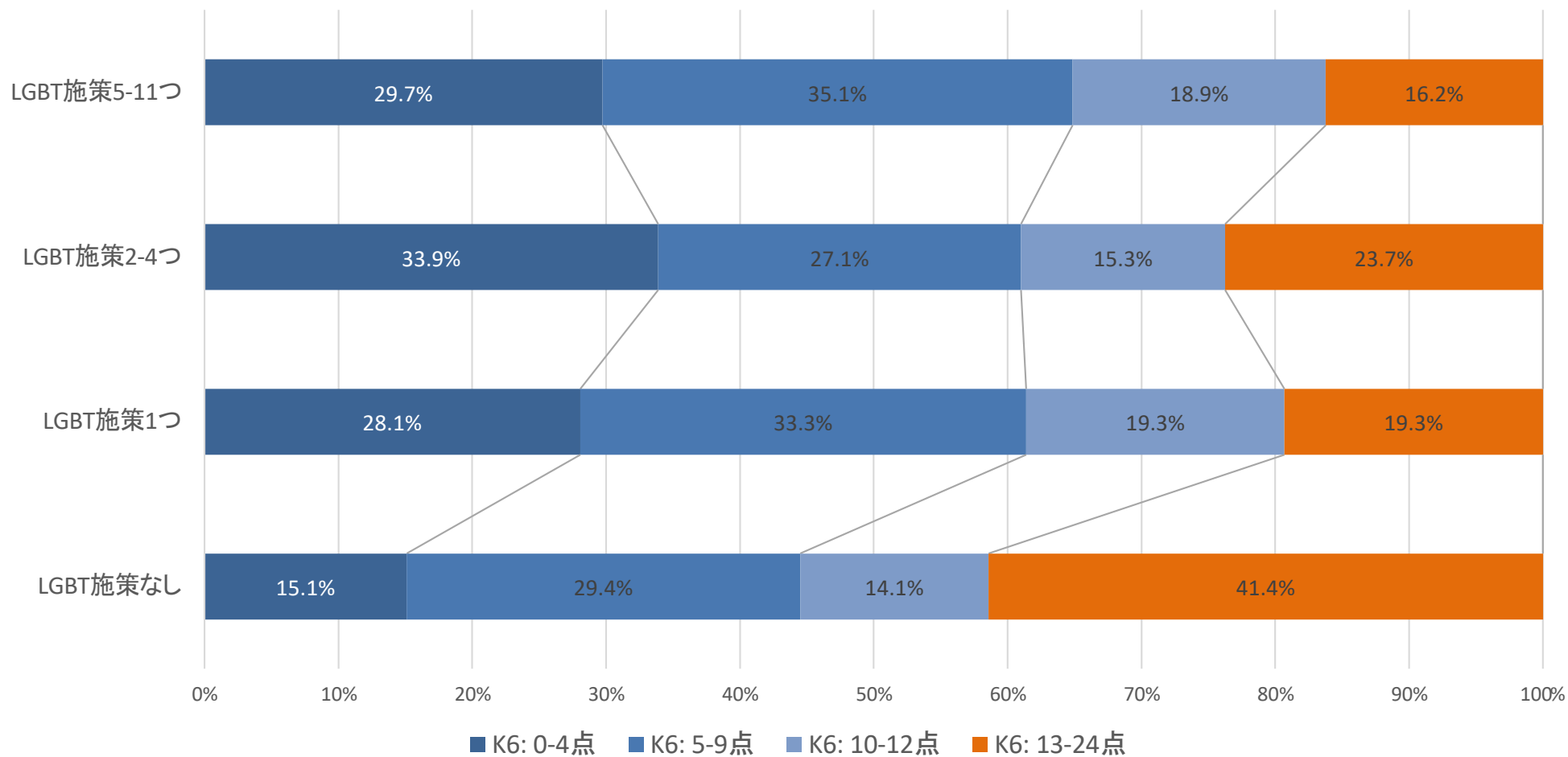


	LGBT施策なし	LGBT施策1つ	LGBT施策2-4つ	LGBT施策5-11つ
N=	558	74	125	77

有意

LGBT施策 × メンタルヘルス(K6)

トランスジェンダー

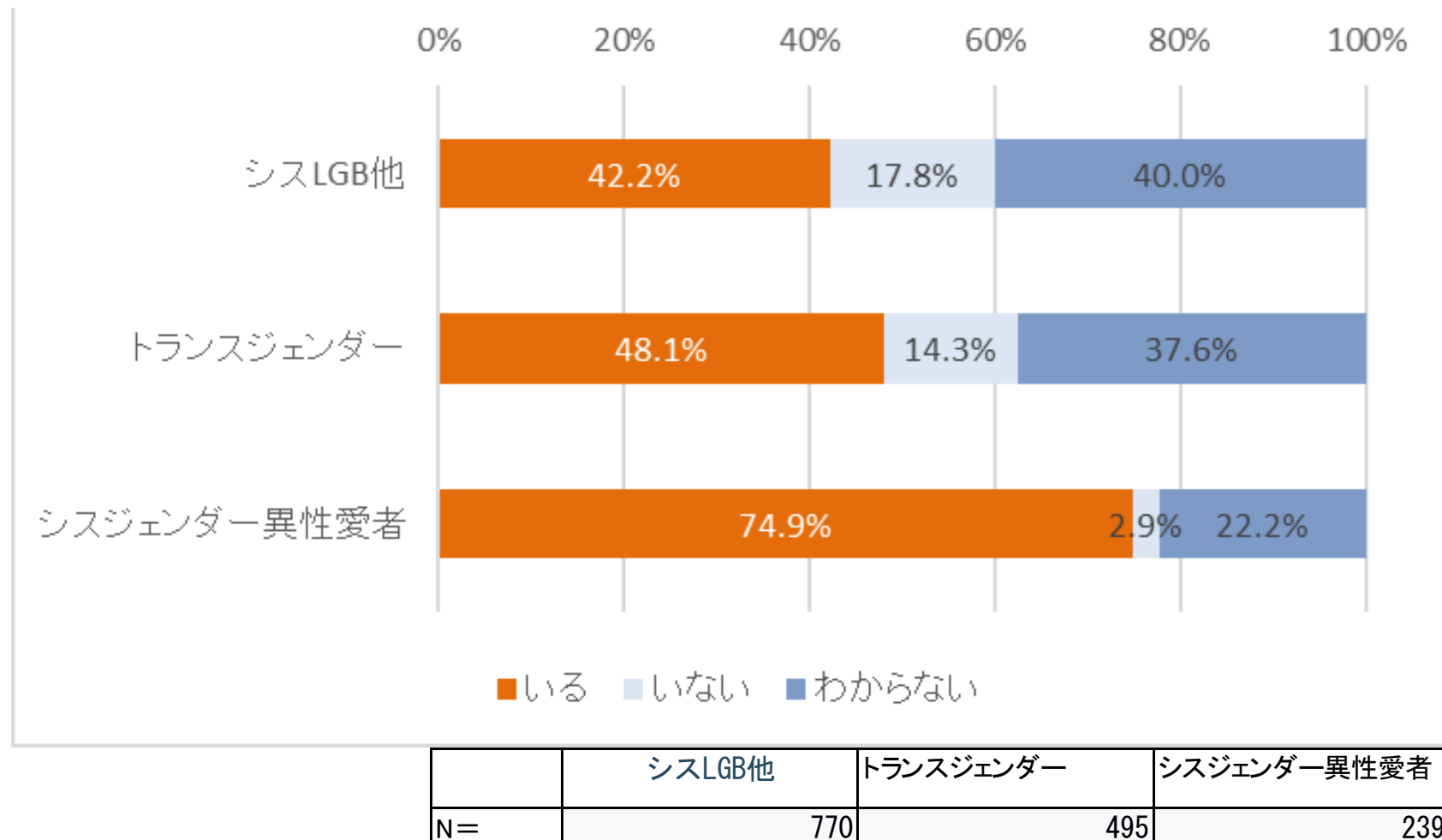


	LGBT施策なし	LGBT施策1つ	LGBT施策2-4つ	LGBT施策5-11つ
N=	483	57	59	37

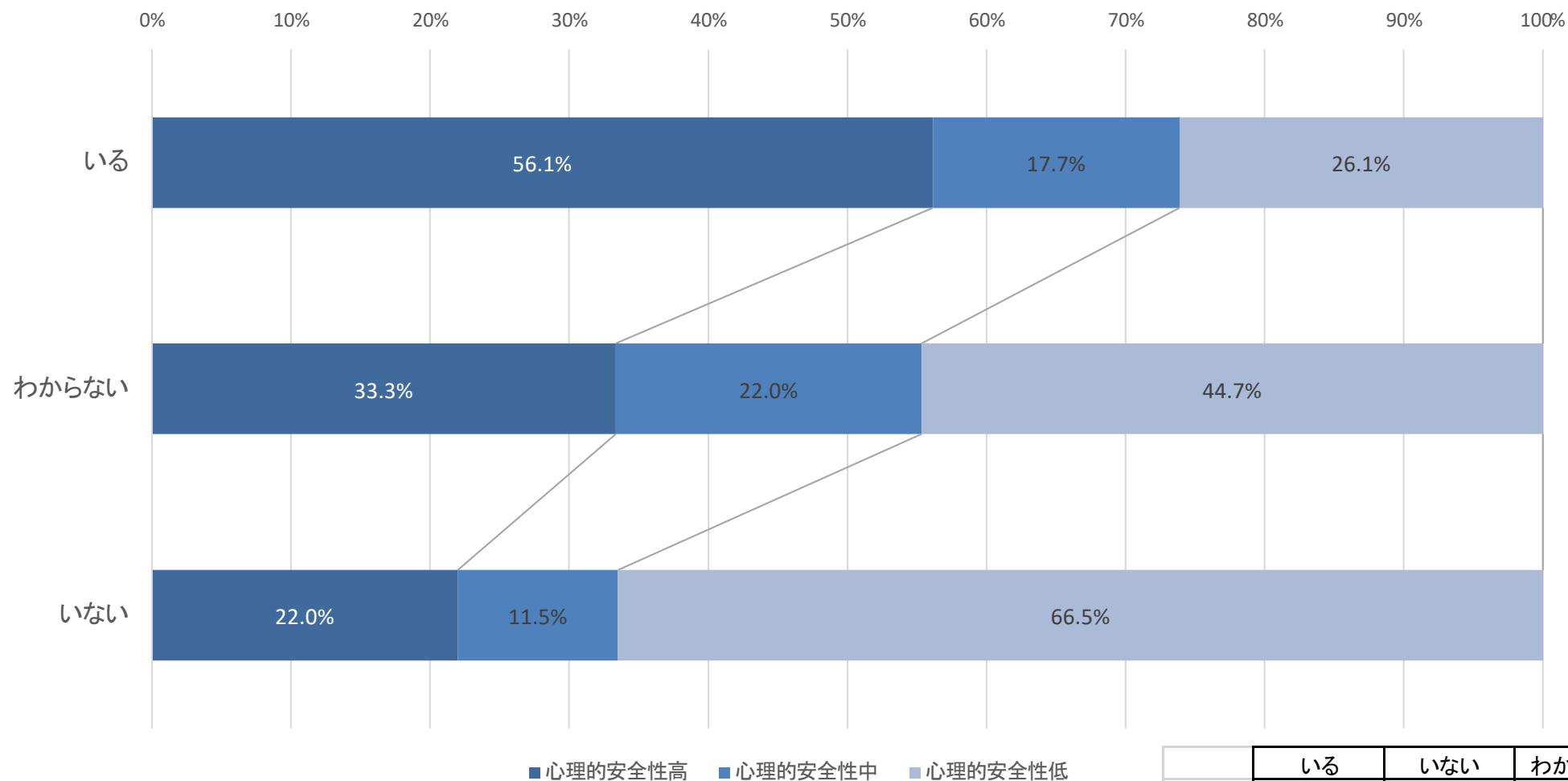
有意

(c) 認定NPO法人 虹色ダイバーシティ 2023

職場のアライの有無 (自分自身がアライの場合も含む)

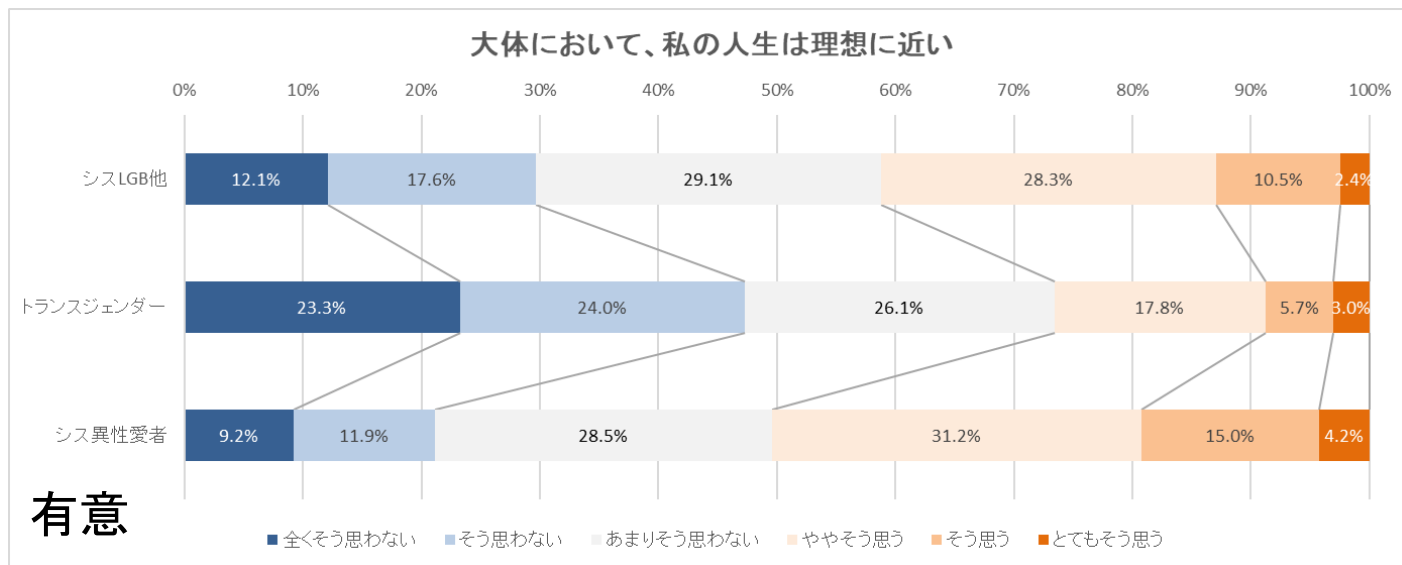


心理的安全性 × ALLY (LGBT)

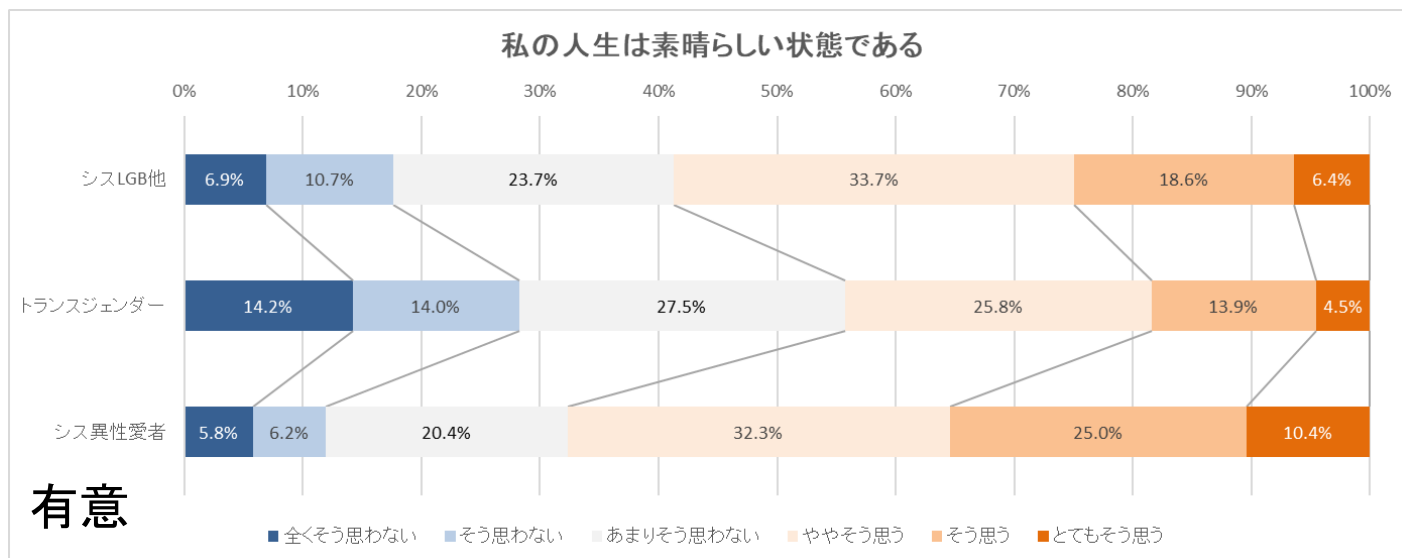


	いる	いない	わからない
N=	513	191	450

人生の満足度に対する回答 1/3

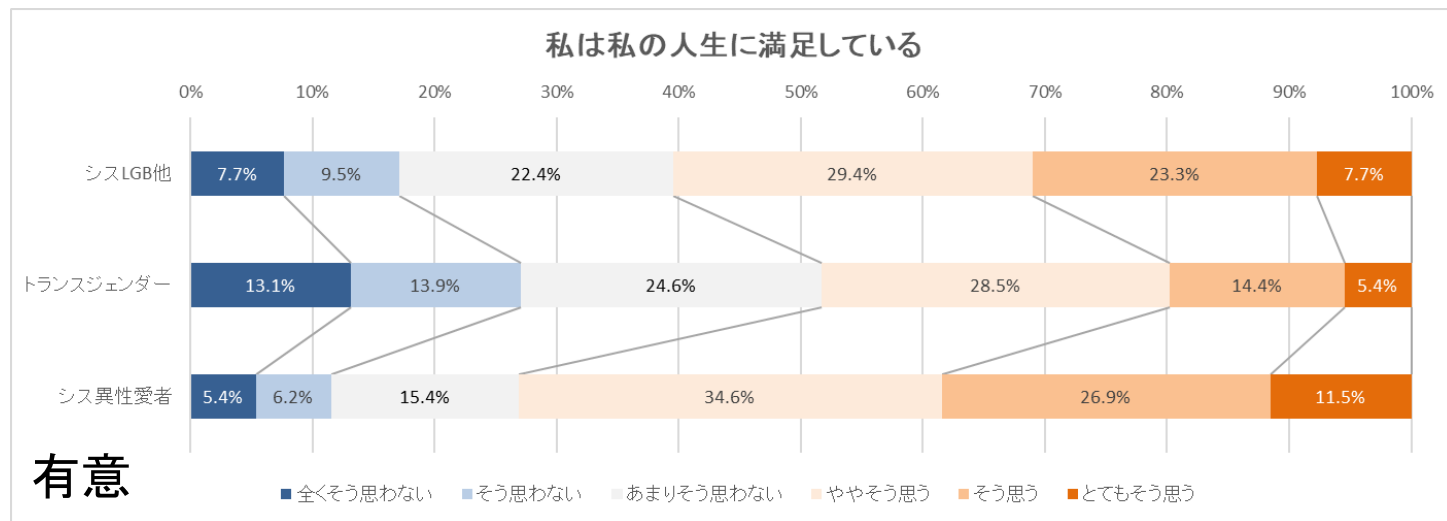


シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー 異性愛者
N = 859	662	260



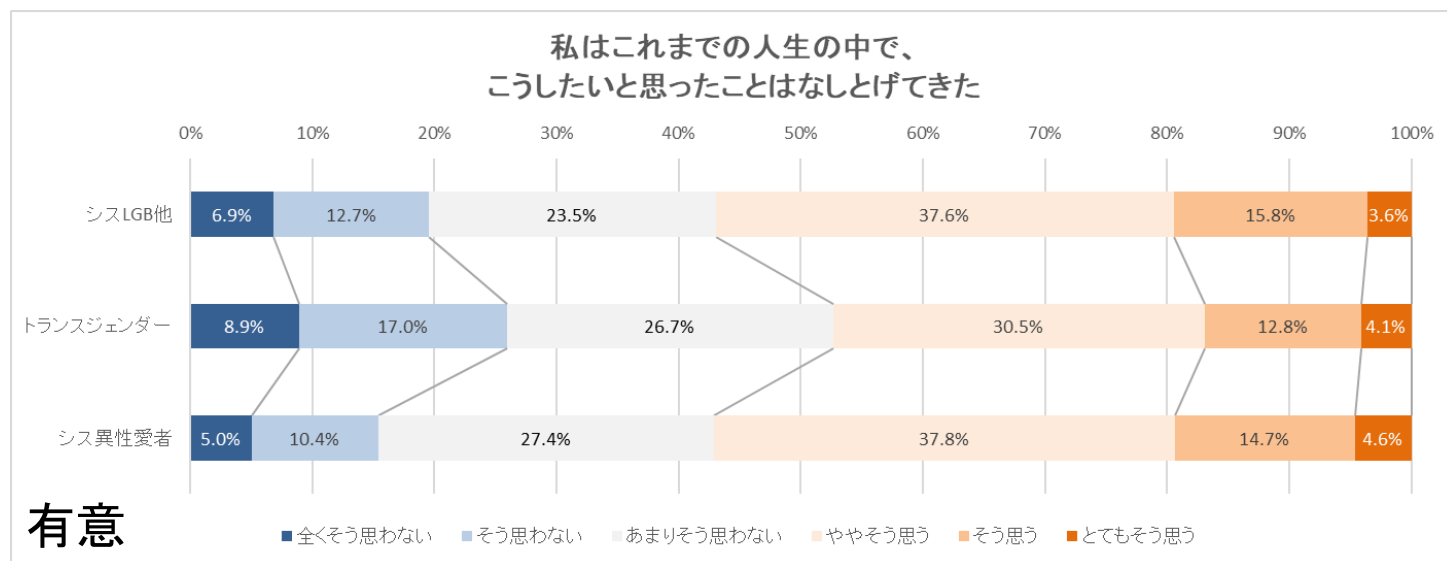
シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー 異性愛者
N = 857	662	260

人生の満足度に対する回答 2/3



N =

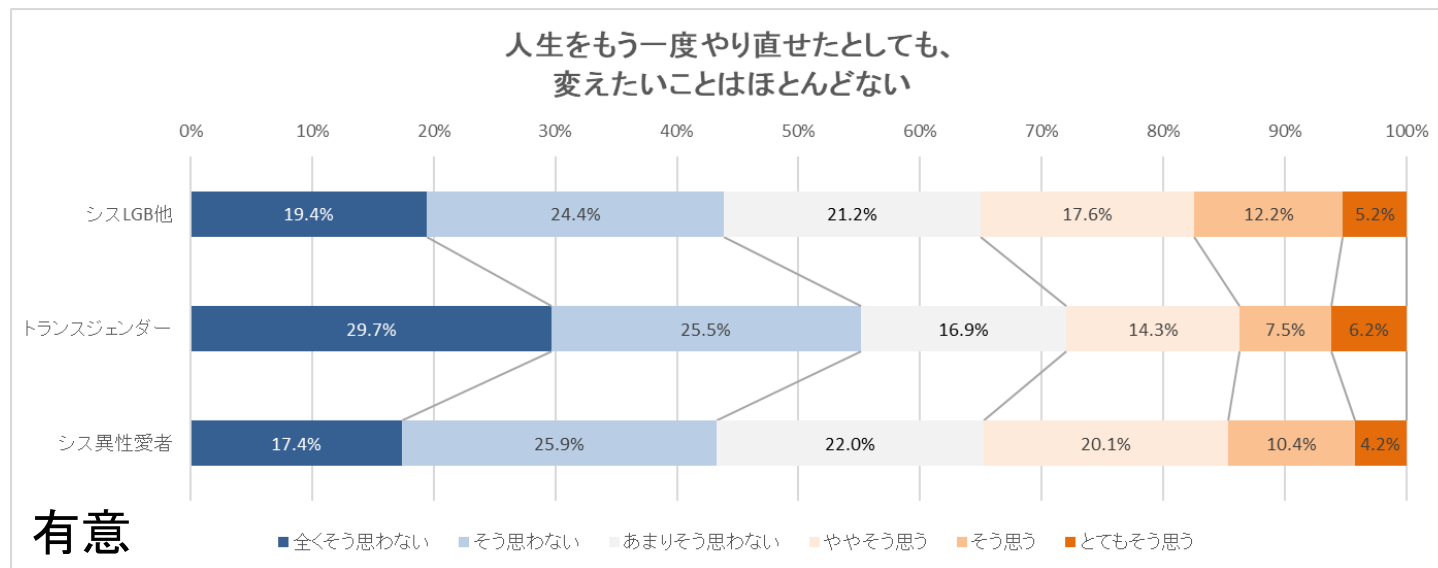
シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー 異性愛者
857	662	260



N =

シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー 異性愛者
860	663	259

人生の満足度に対する回答 3/3

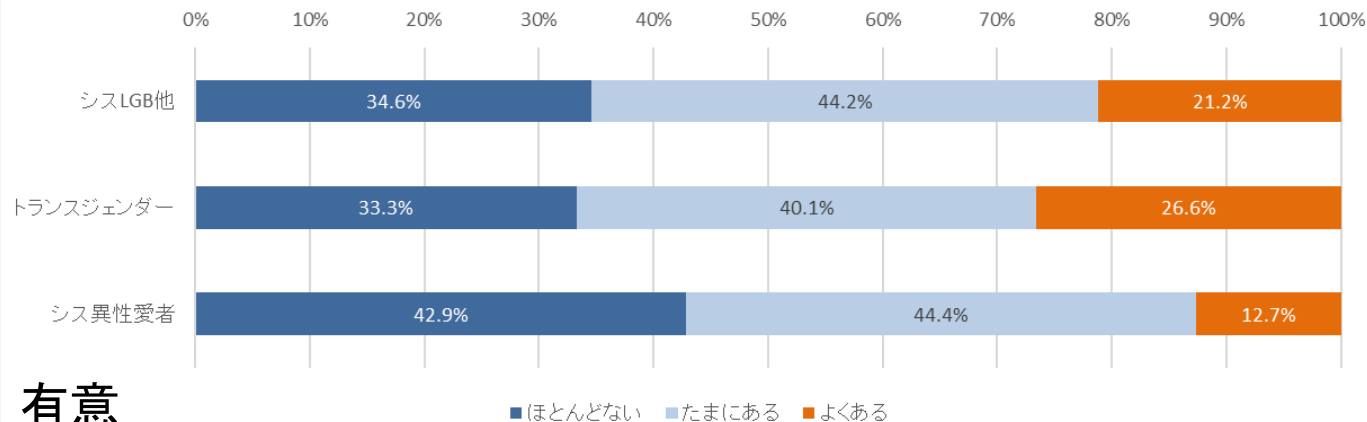


	シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー 異性愛者
N =	860	664	259

✓人生の満足度に関して、LGBTの方が低く、特にトランスジェンダーが低いという結果になった。

孤独感・公平感に対する回答1/3

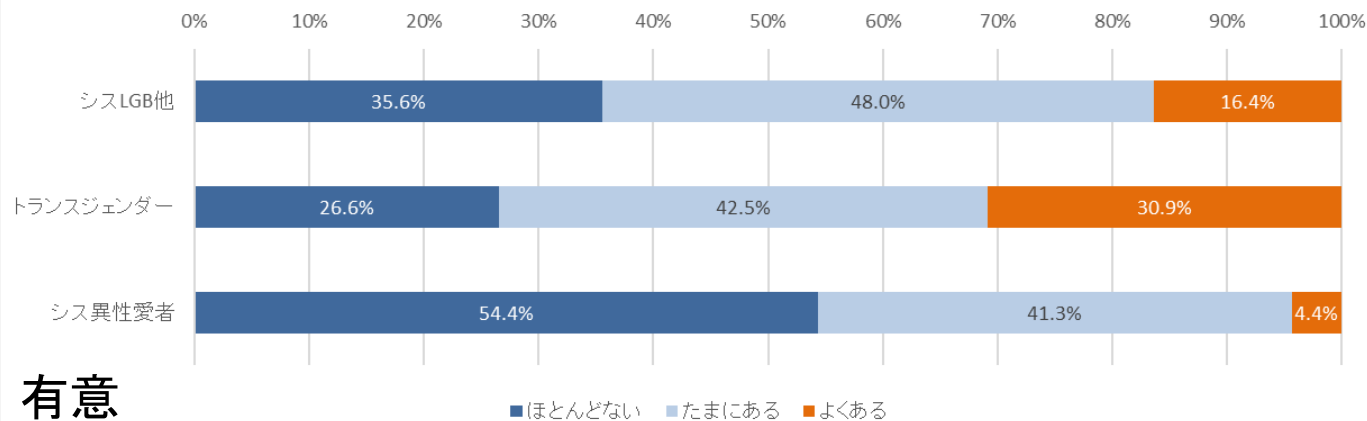
あなたは、自分に仲間付き合いがないと感じることがありますか



✓仲間がいないと感じるLGBTが多い

	シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
N=	841	651	252

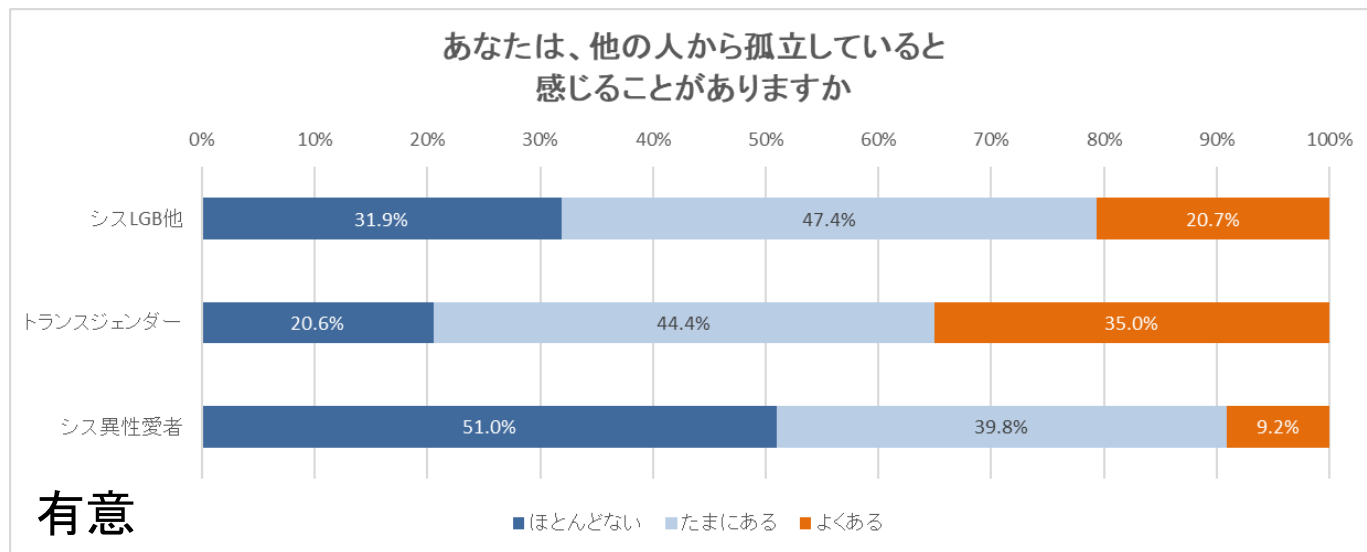
あなたは、疎外されていると感じることがありますか



✓LGBT、特にトランスジェンダーで疎外感が強い

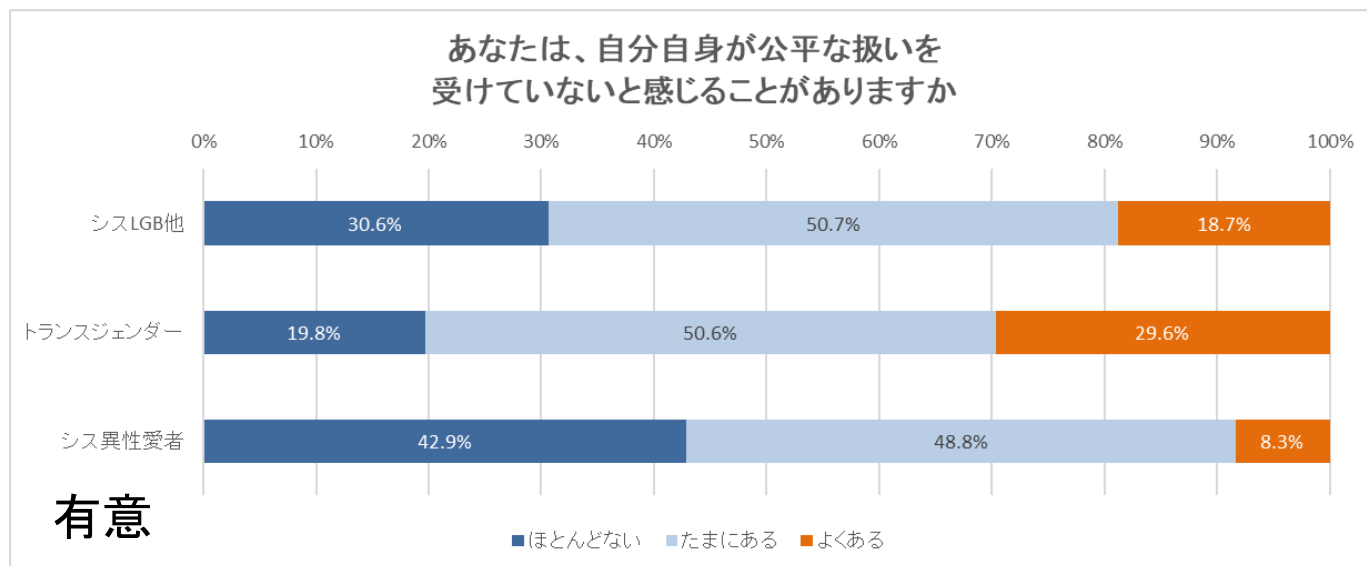
	シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
N=	841	651	252

孤独感・公平感に対する回答2/3



✓LGBT、特にトランスジェンダーで孤立感が強い

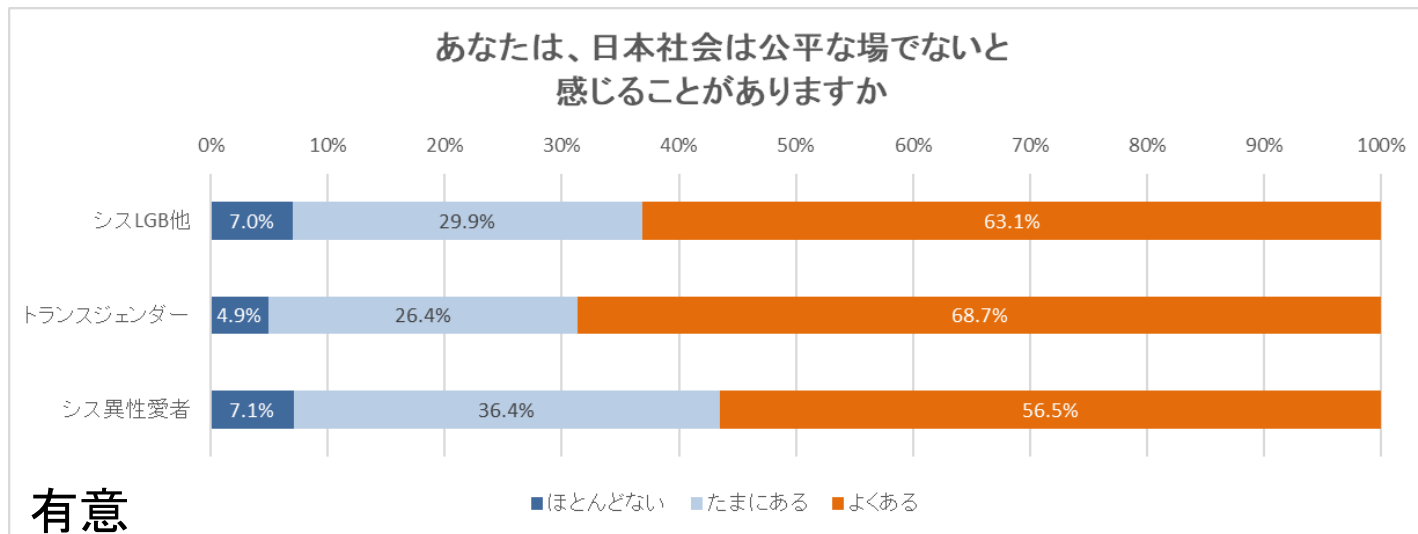
	シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
N=	841	651	252



✓LGBT、特にトランスジェンダーで不公平感が強い

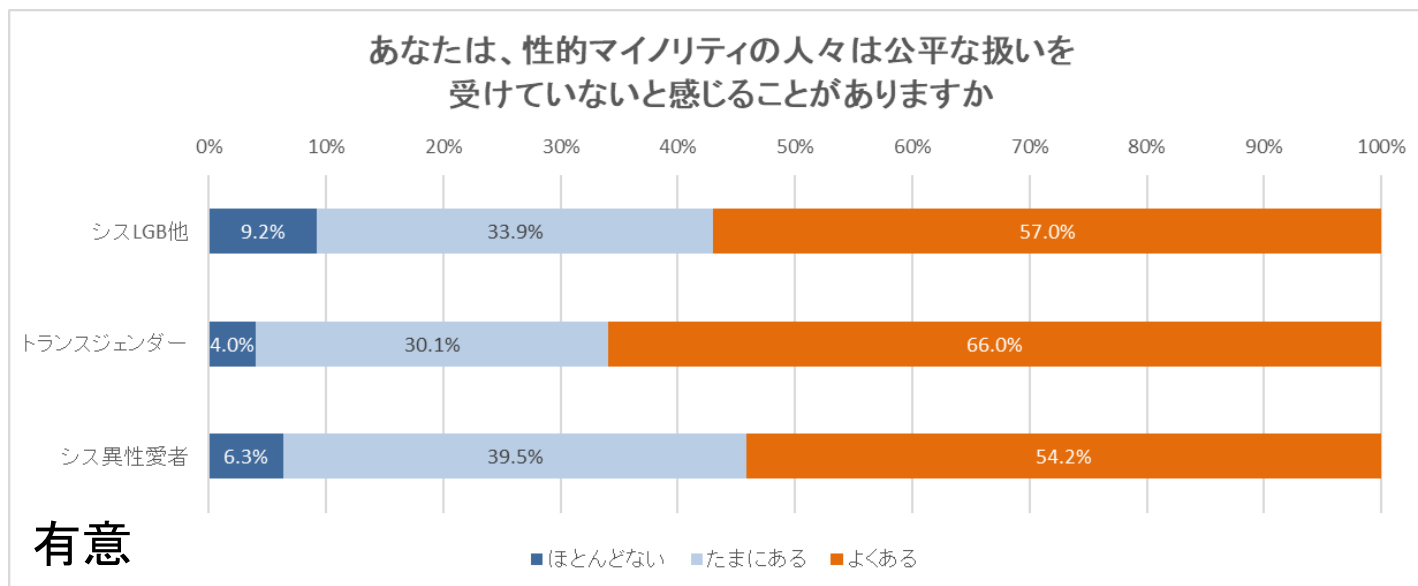
	シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
N=	841	651	252

孤独感・公平感に対する回答3/3



✓LGBT、特にトランスジェンダーで公平な社会ではないと感じている

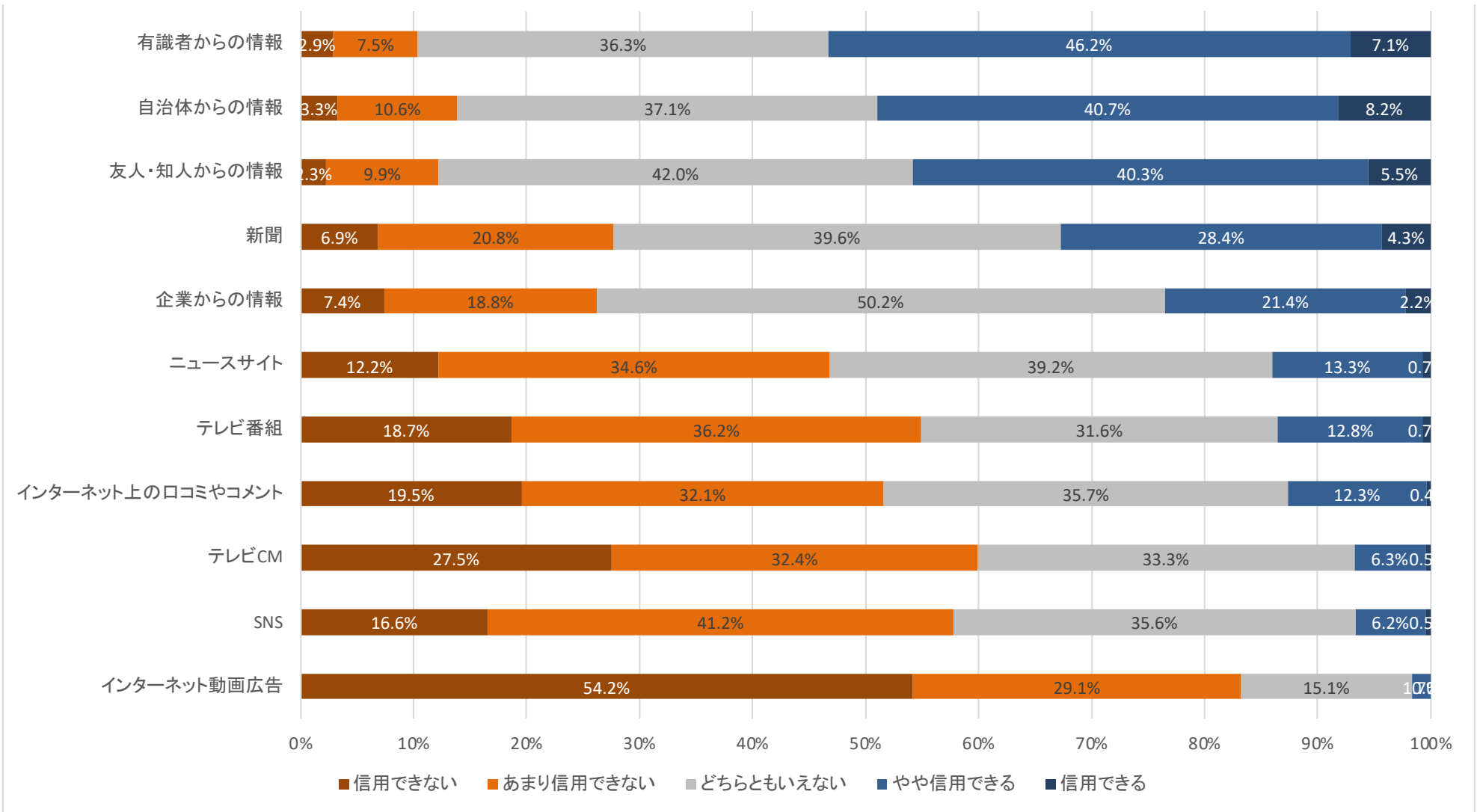
シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
841	651	252



✓LGBT、特にトランスジェンダーでLGBTは公平な扱いを受けていないと感じている

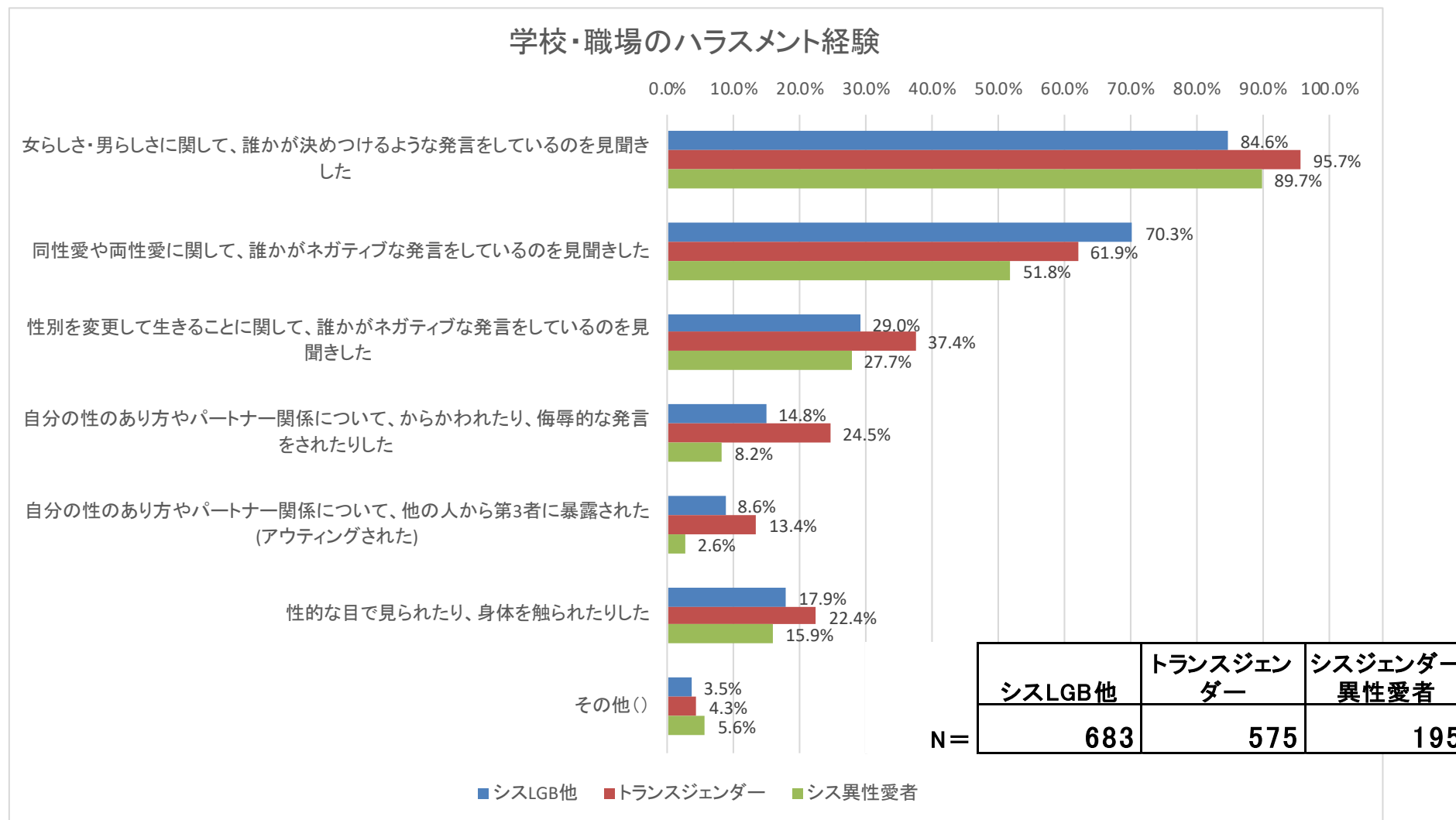
シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
841	651	252

メディアへの信頼度（シスLGB他）



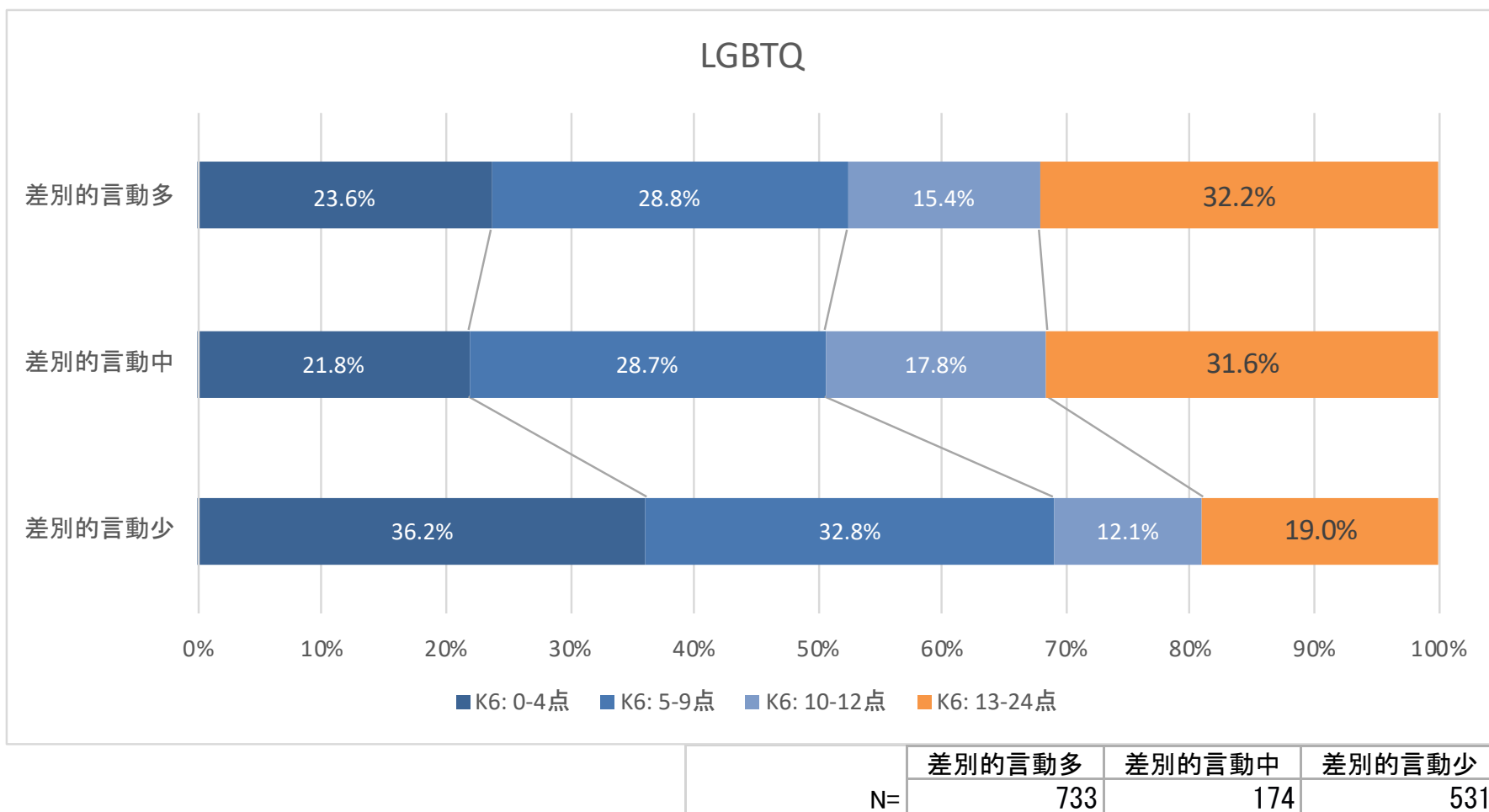
✓メディアへの信頼度では、回答者のLGBTとシス異性愛者で大きな違いは見られなかった

学校・職場でのハラスメント経験（複数回答）



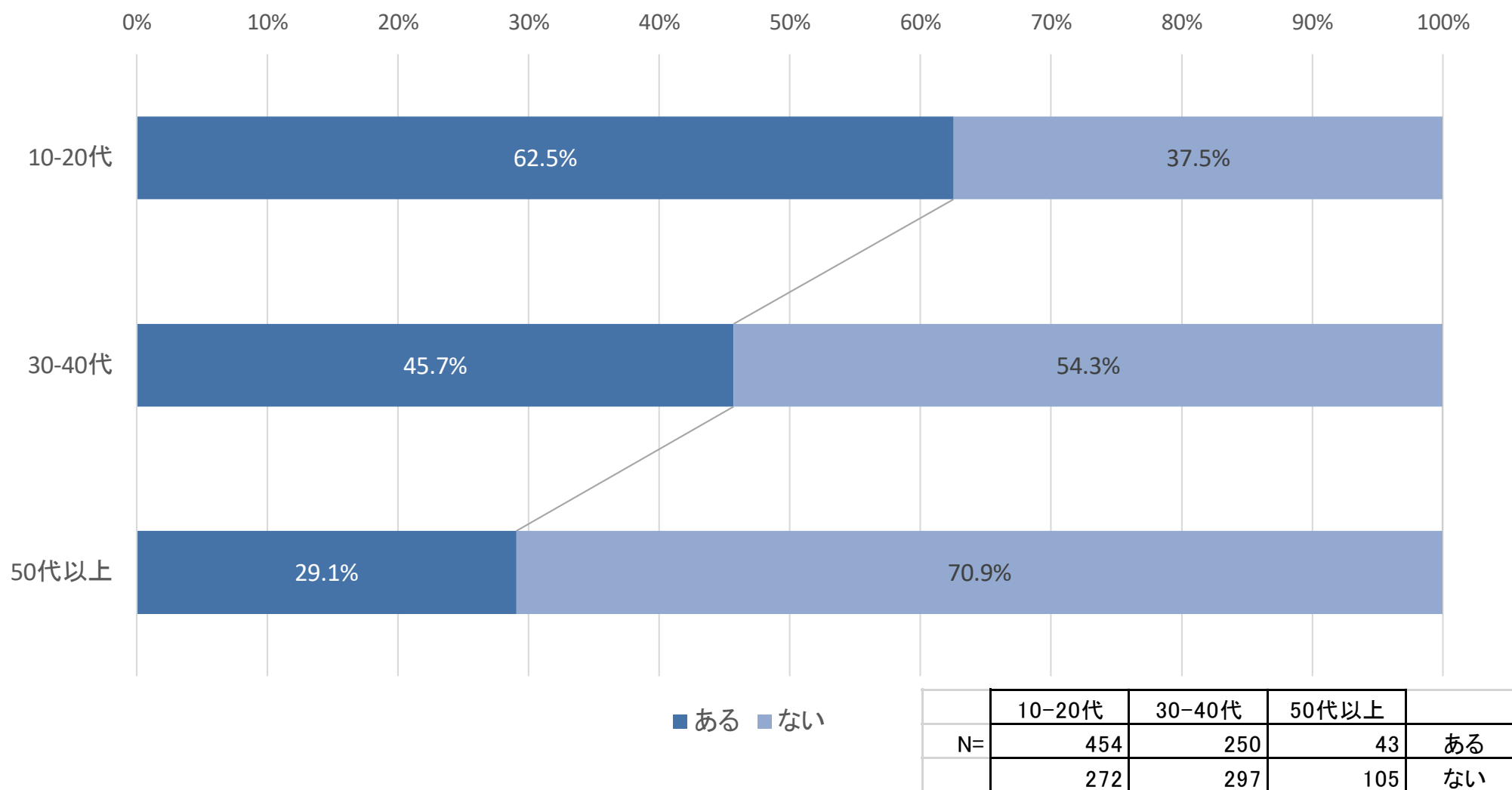
✓LGBTの方がハラスメントを経験している。ハラスメントへの感度の問題の他、職位や年齢の違いも要因と考えられる。

差別的言動×メンタルヘルス(K6) (LGBT)

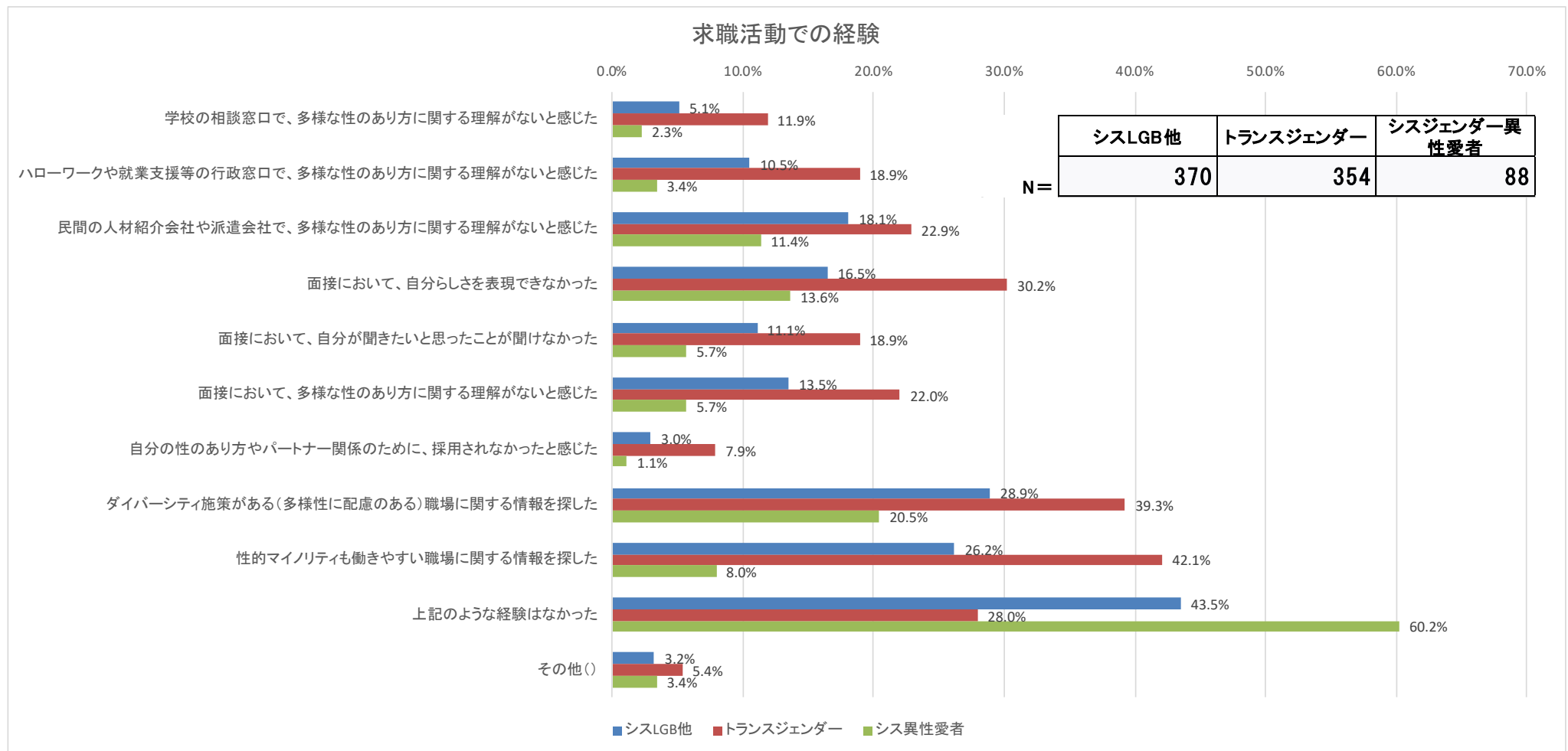


✓差別的言動のある(多い・中程度)職場ではメンタルヘルスの状況の悪いLGBTQが多い

直近1年間の求職状況(年代別) (LGBT)



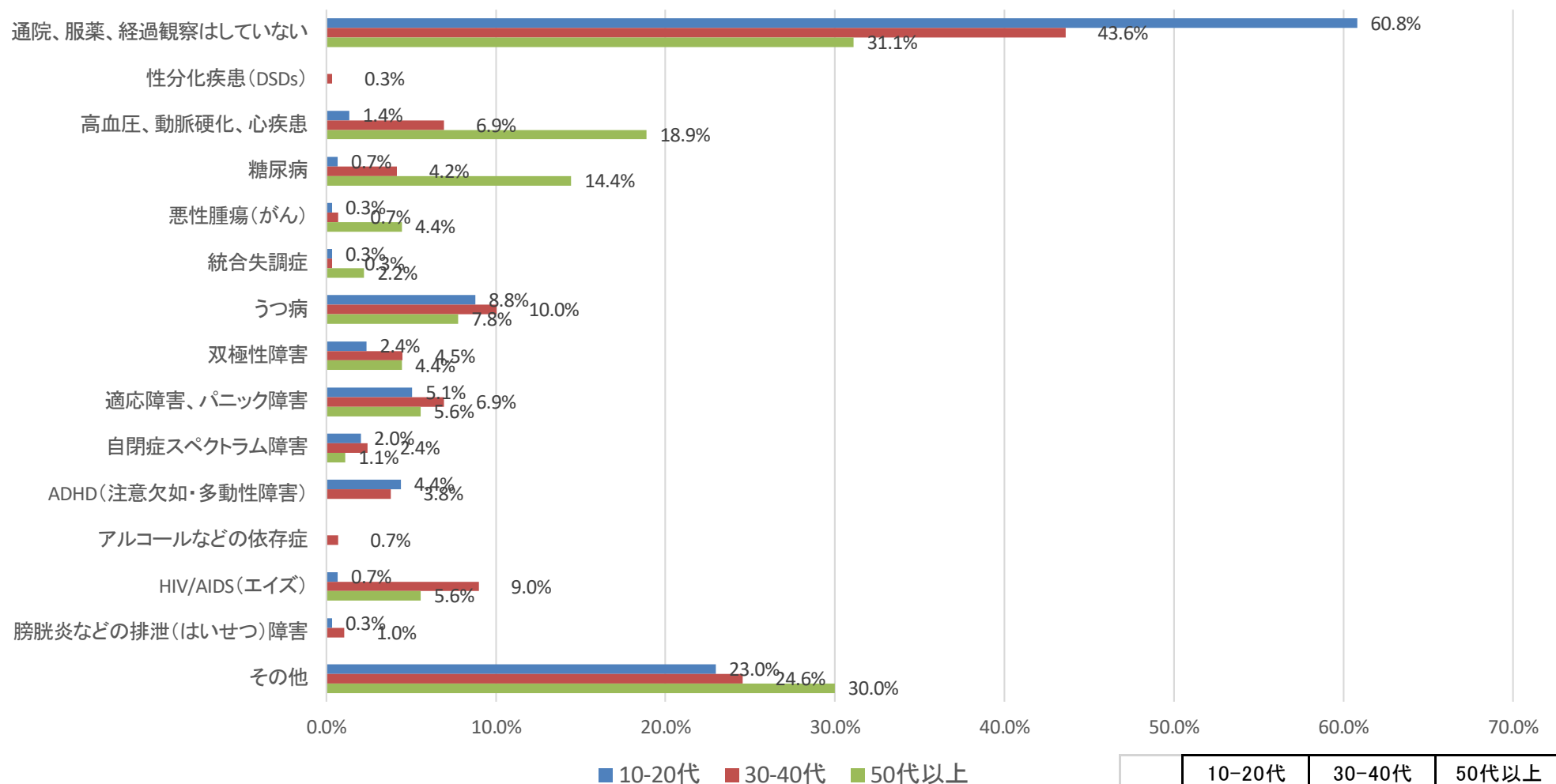
求職活動での経験（複数回答）



✓ 過去1年間の求職活動において、LGBTの方が困難を経験している。特にトランスジェンダーで、学校やハローワーク等の求職支援窓口で「理解がない」と感じる経験をしている。

現在の通院・服薬・経過観察状況(年代別)

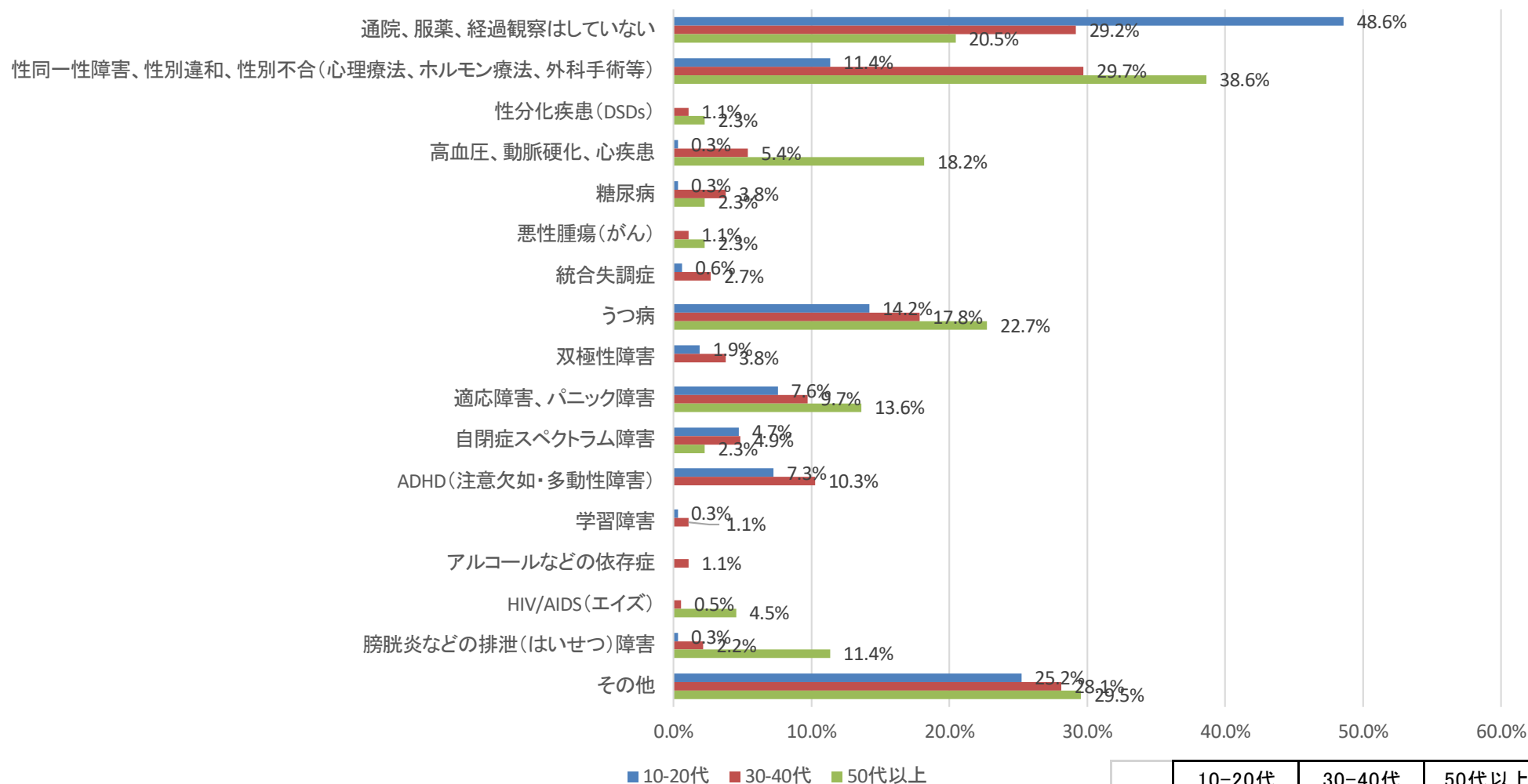
シスLGB他



	10-20代	30-40代	50代以上
N=	296	289	90

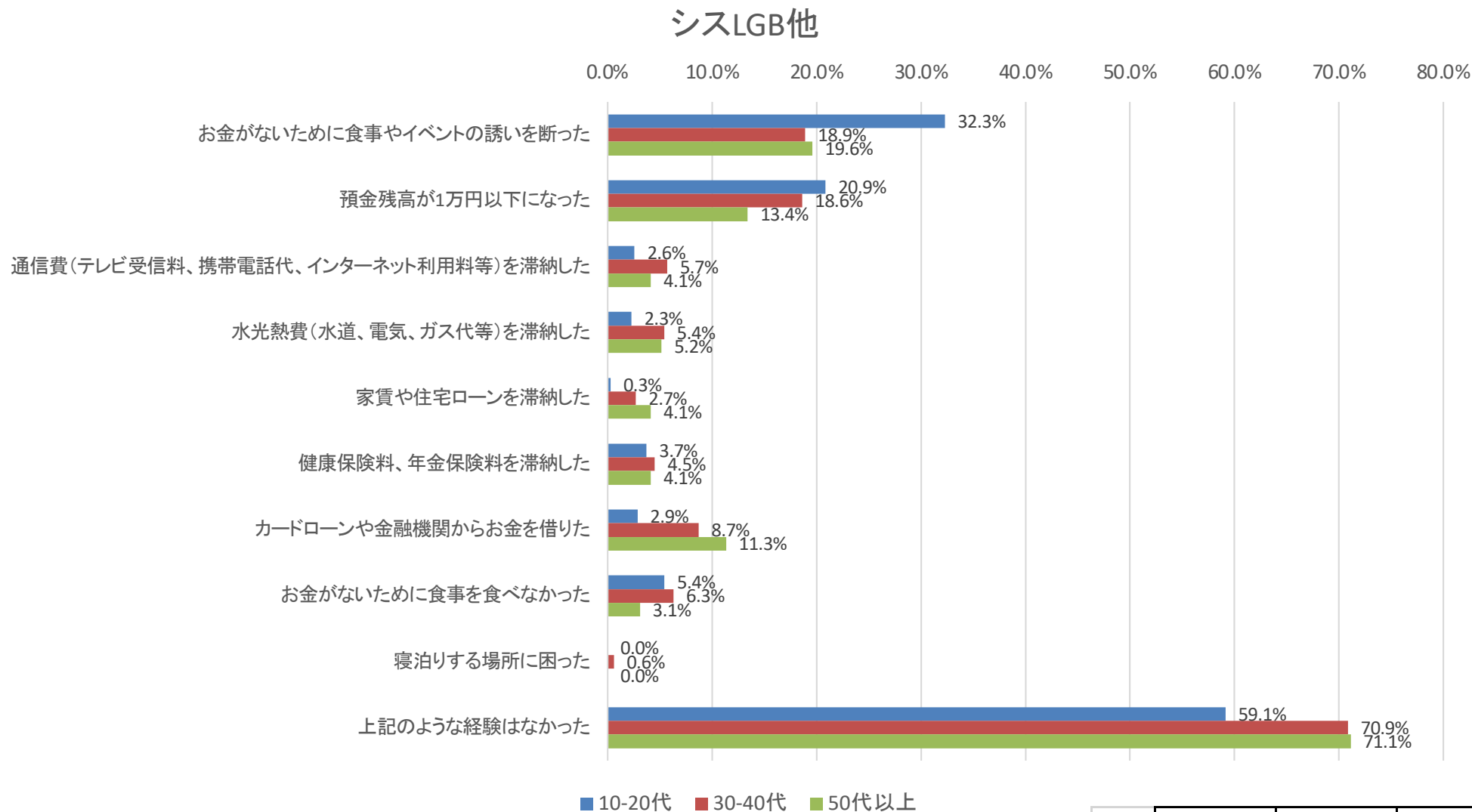
現在の通院・服薬・経過観察状況(年代別)

トランスジェンダー



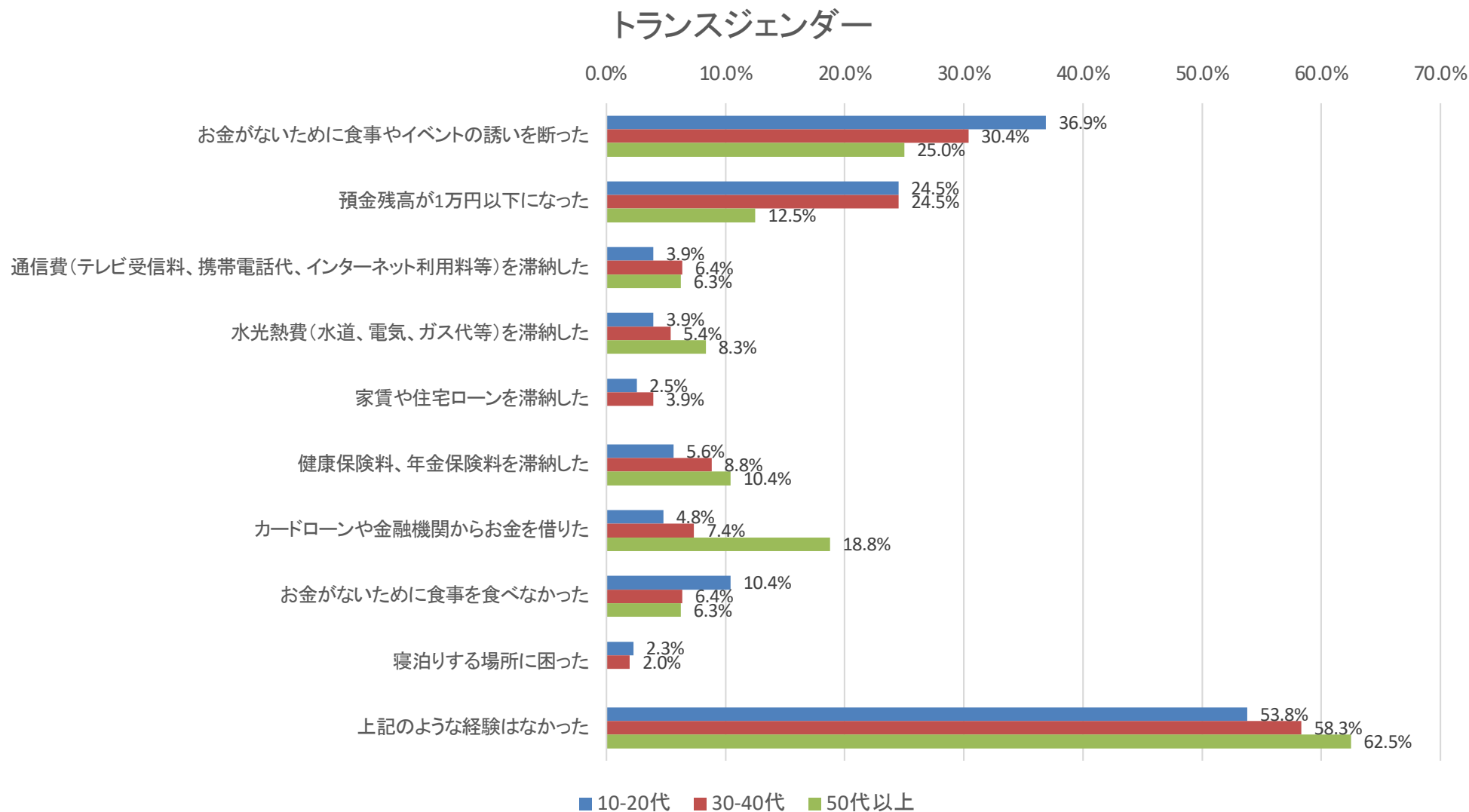
	10-20代	30-40代	50代以上
N=	317	185	44

直近1年間の貧困に関する経験(年代別)



	10-20代	30-40代	50代以上
N=	350	333	97

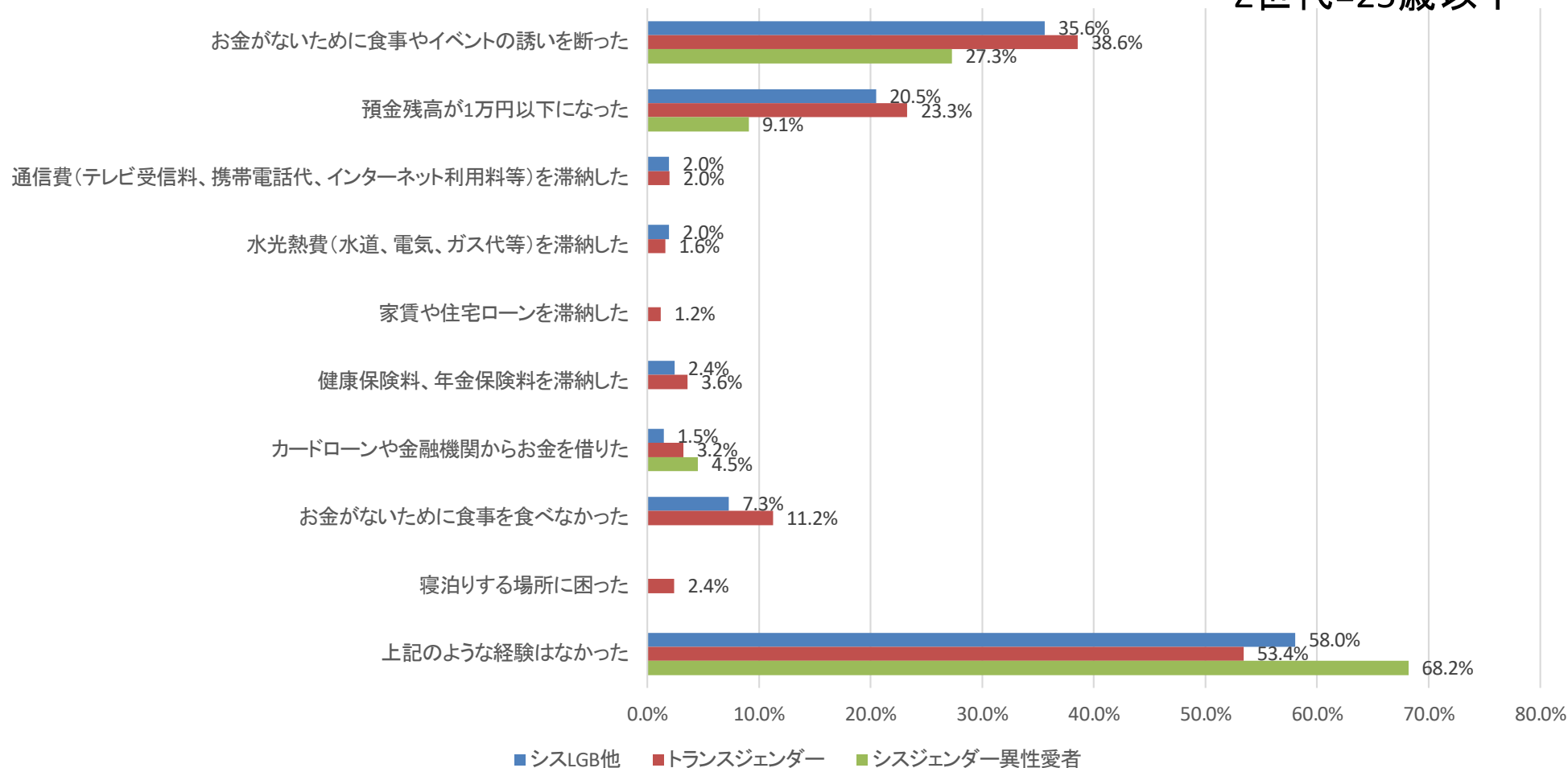
直近1年間の貧困に関する経験(年代別)



	10-20代	30-40代	50代以上
N=	355	204	48

直近1年間での貧困に関する経験(Z世代)

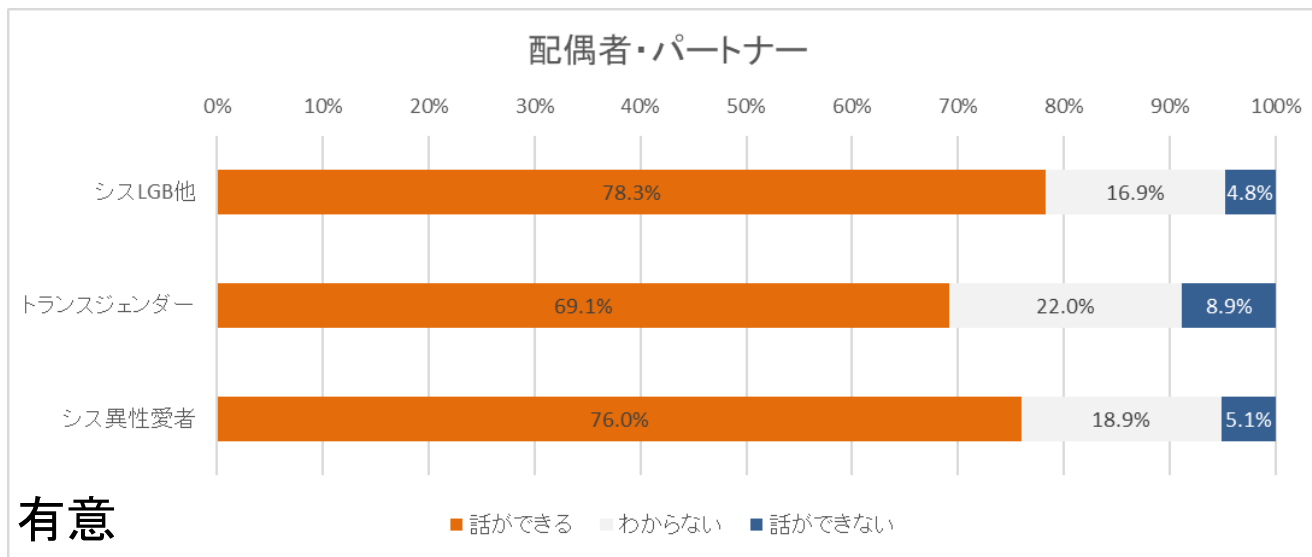
Z世代=25歳以下



	シスLGB他	トランスジェンダー	シス異性愛者
N=	205	249	22

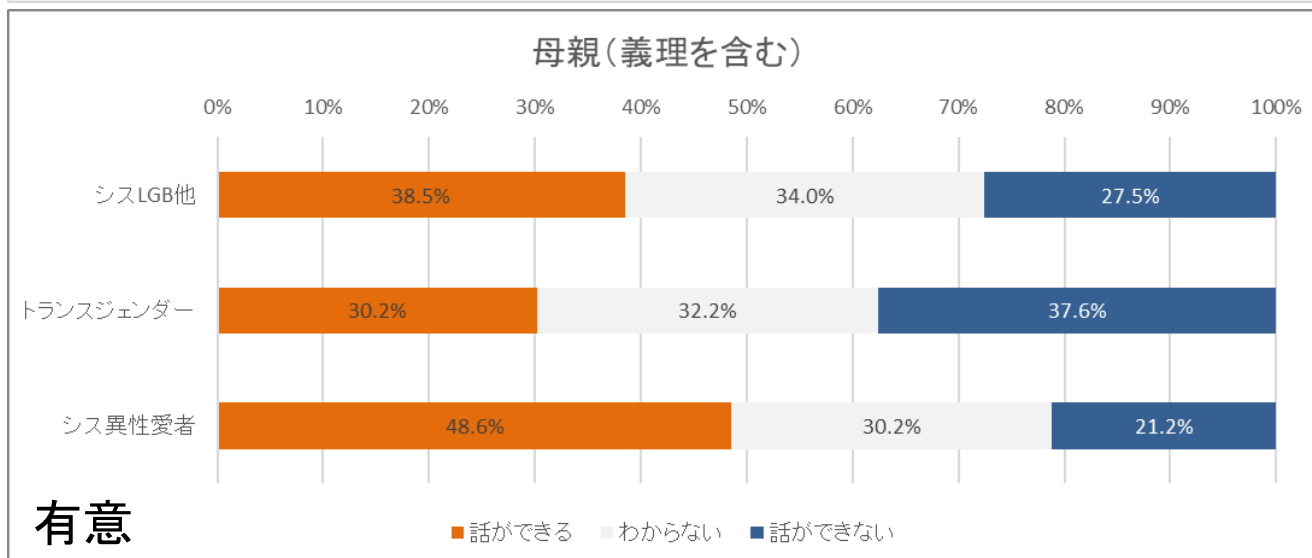
相談相手（該当なしを除く）1/6

Q. 何らかの不安や悩みがあるとしたら、以下の人に話すことができますか



N =

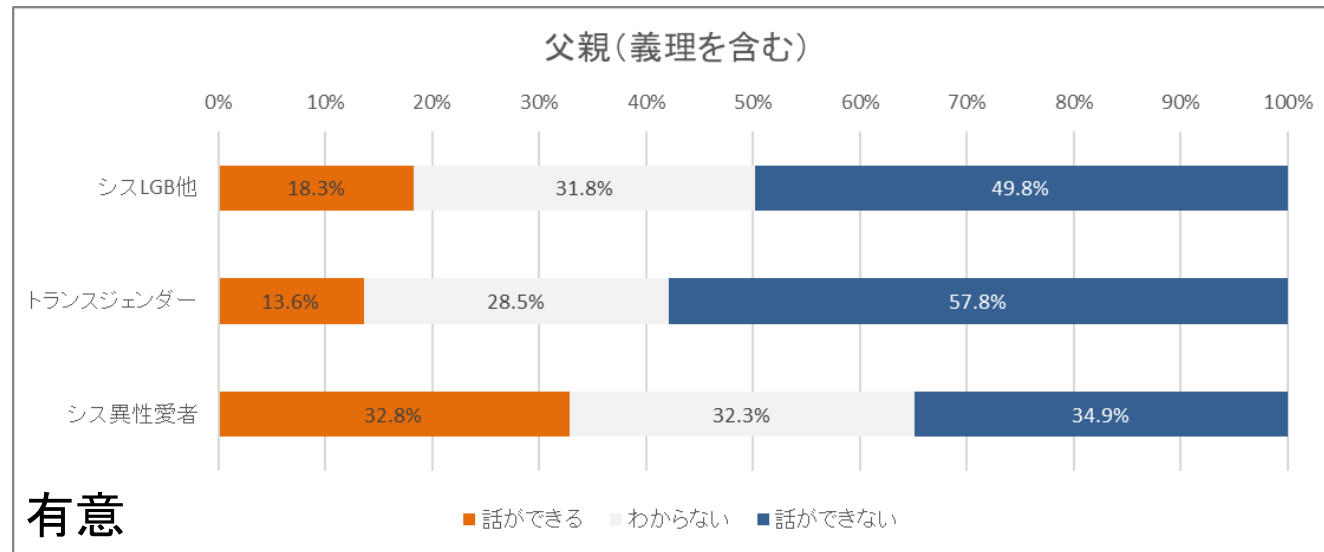
シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
793	614	233



N =

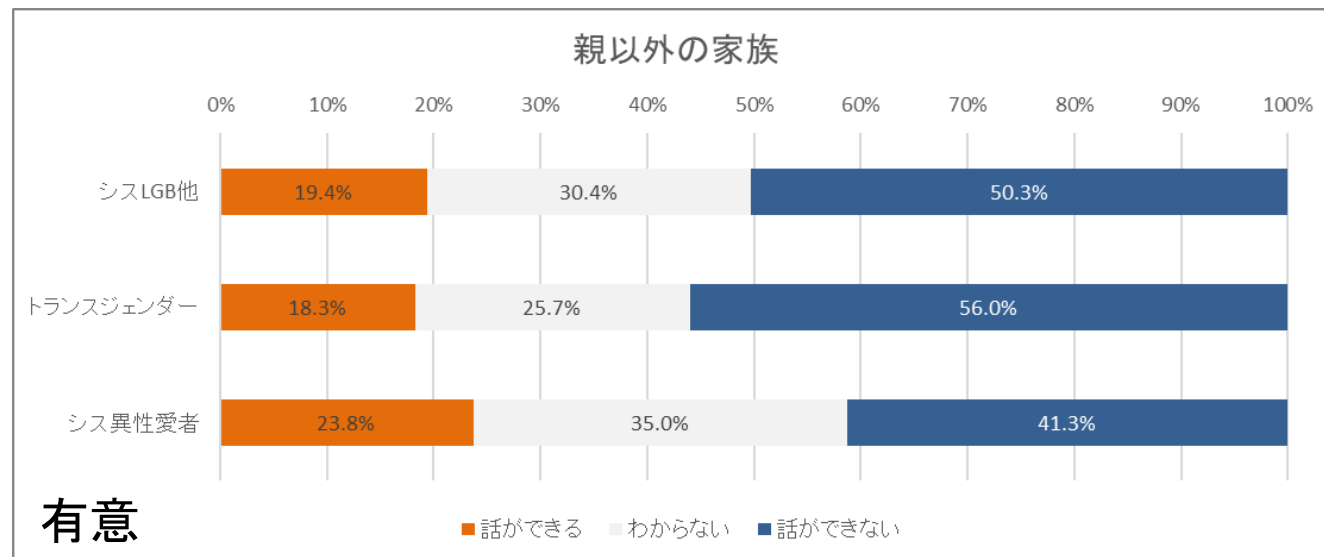
シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
792	613	234

相談相手（該当なしを除く）2/6



N=

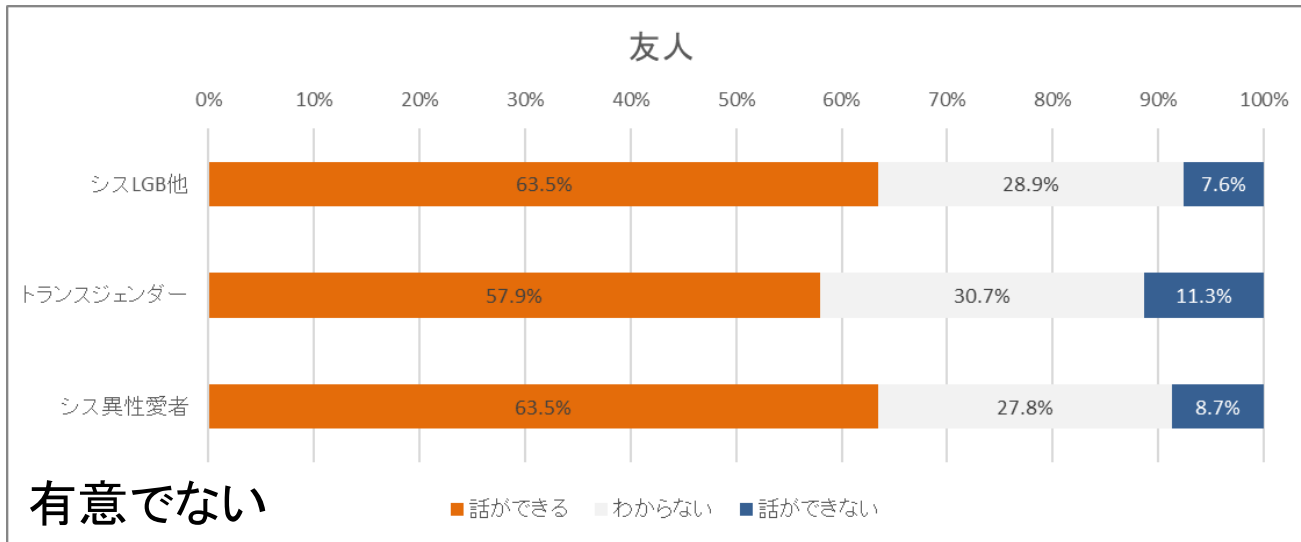
シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
791	612	234



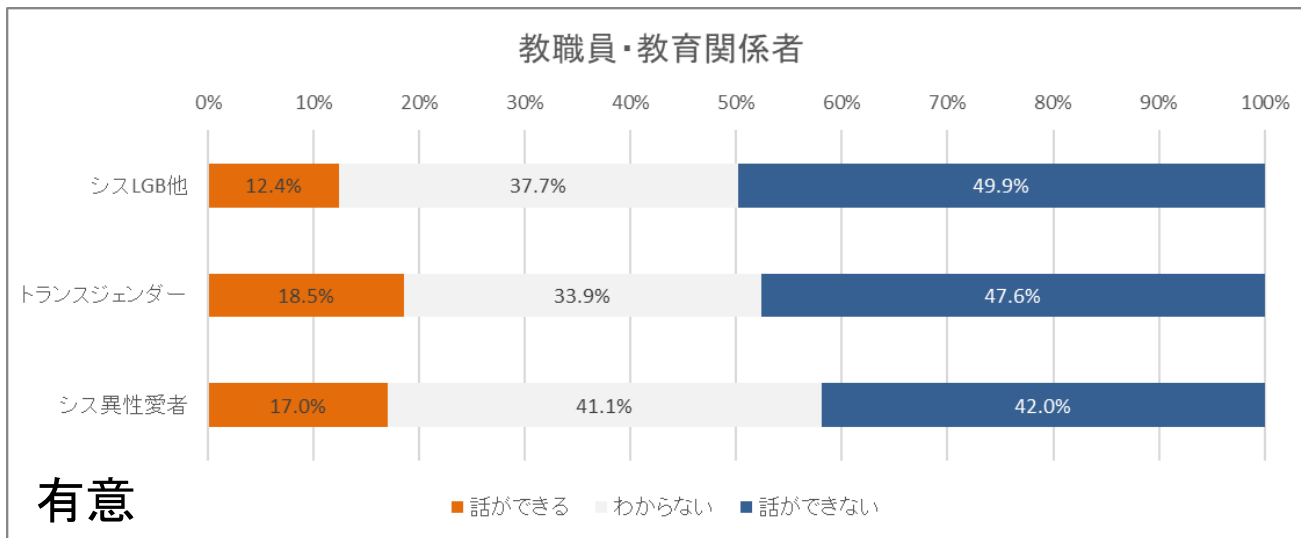
N=

シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
793	613	233

相談相手（該当なしを除く）3/6

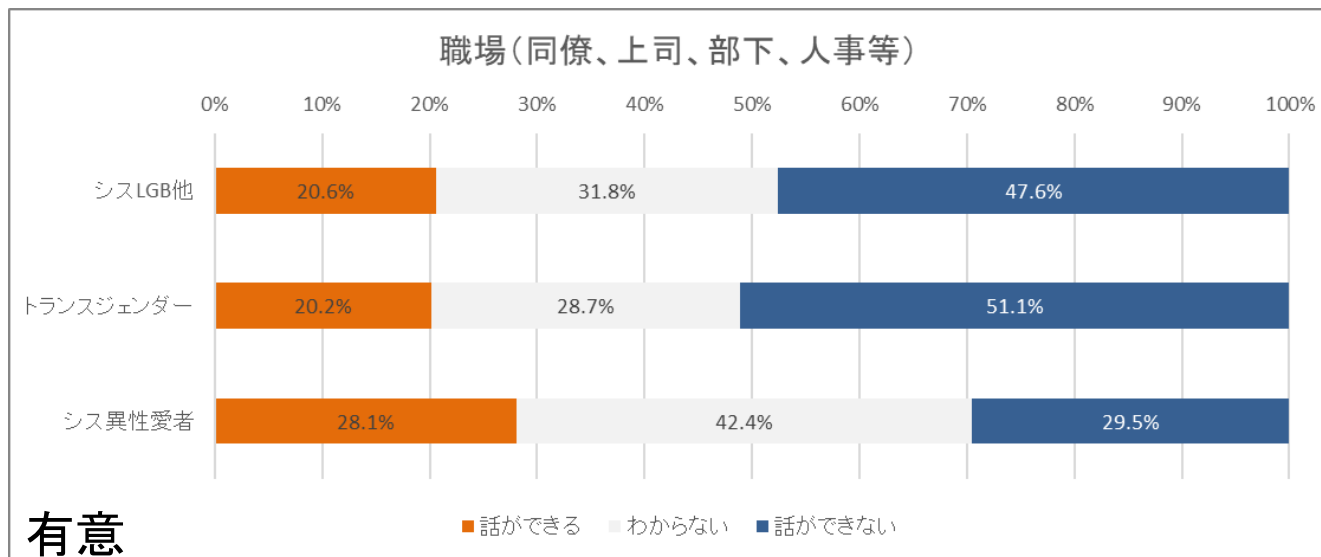


	シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
N=	794	614	234



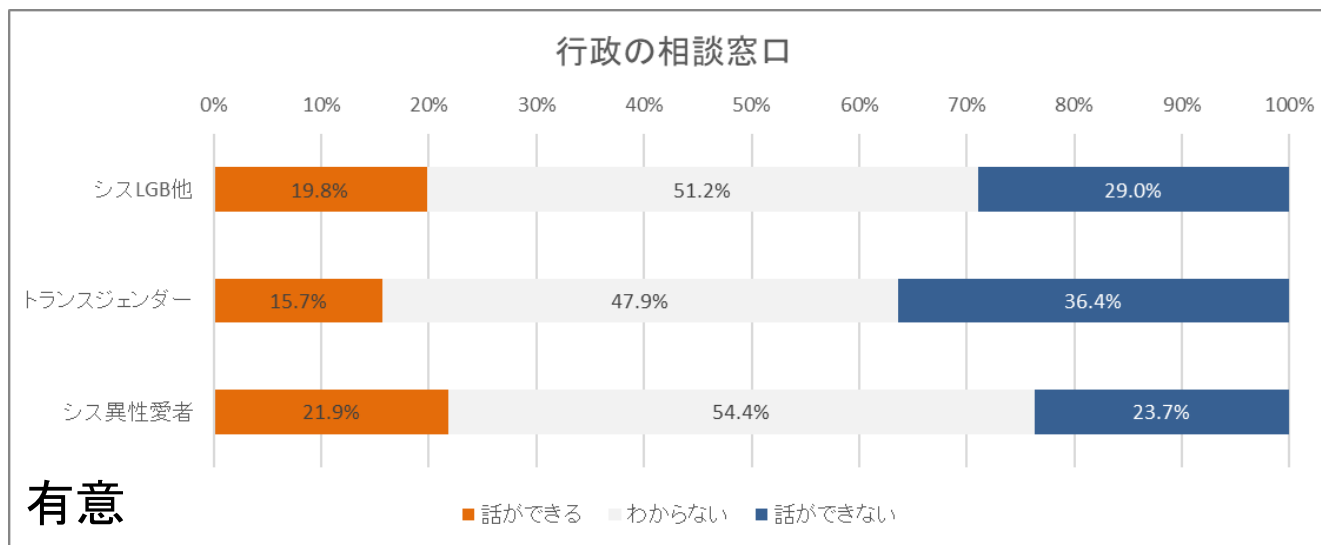
	シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
N=	786	614	229

相談相手（該当なしを除く）4/6



N =

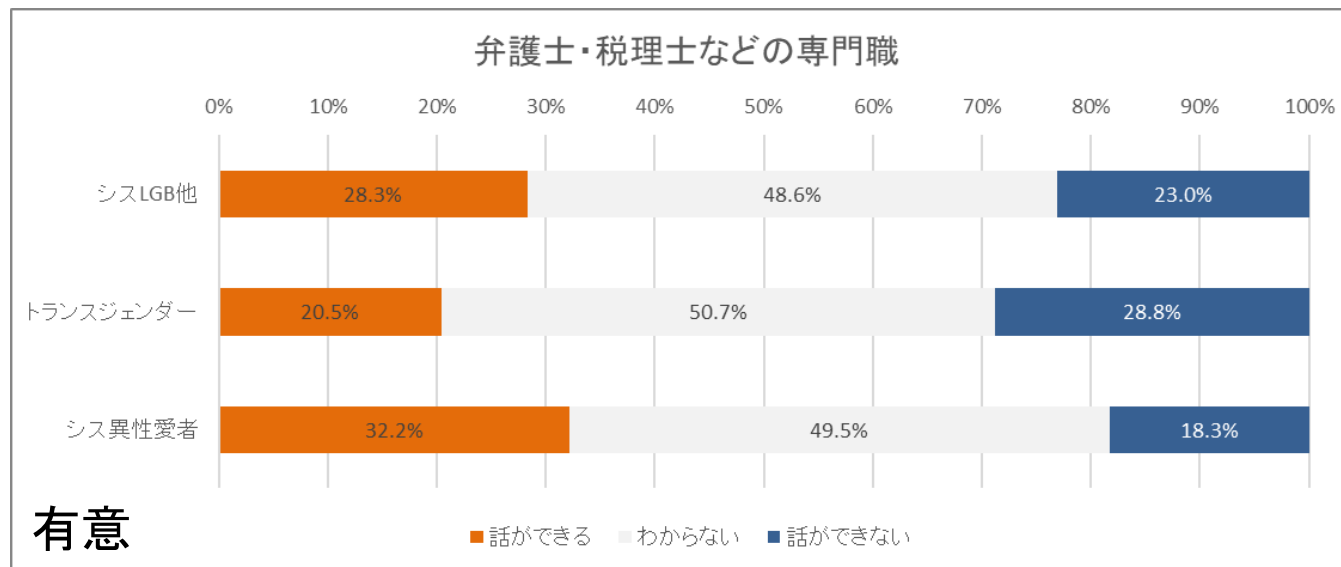
シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
789	612	233



N =

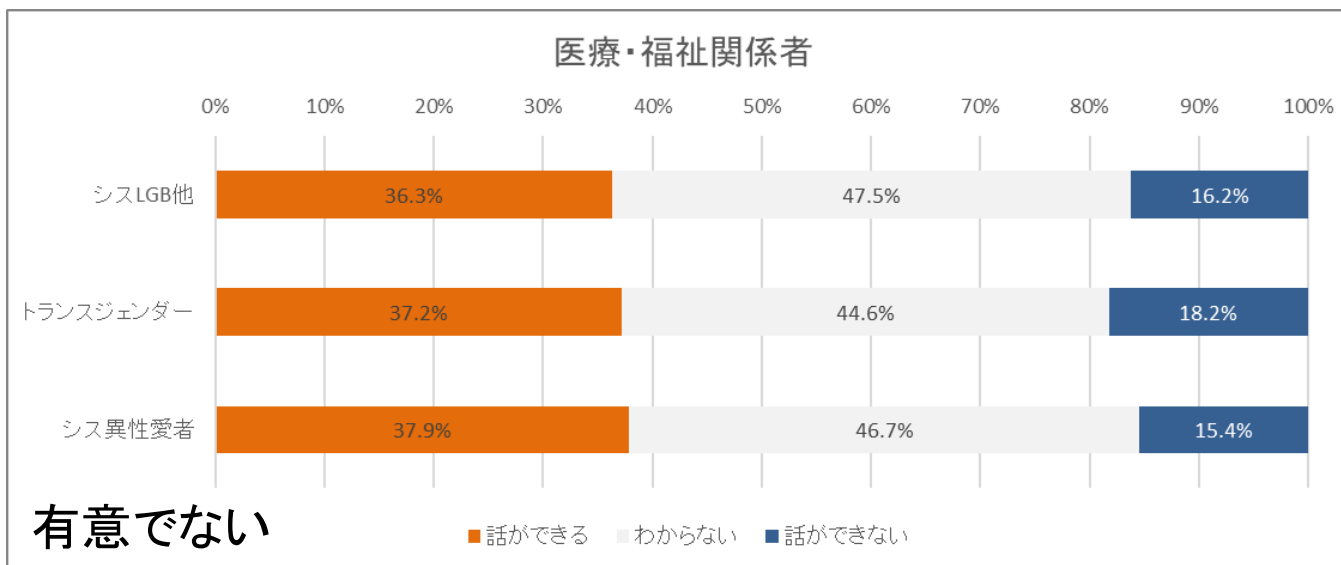
シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
790	612	234

相談相手（該当なしを除く）5/6



N =

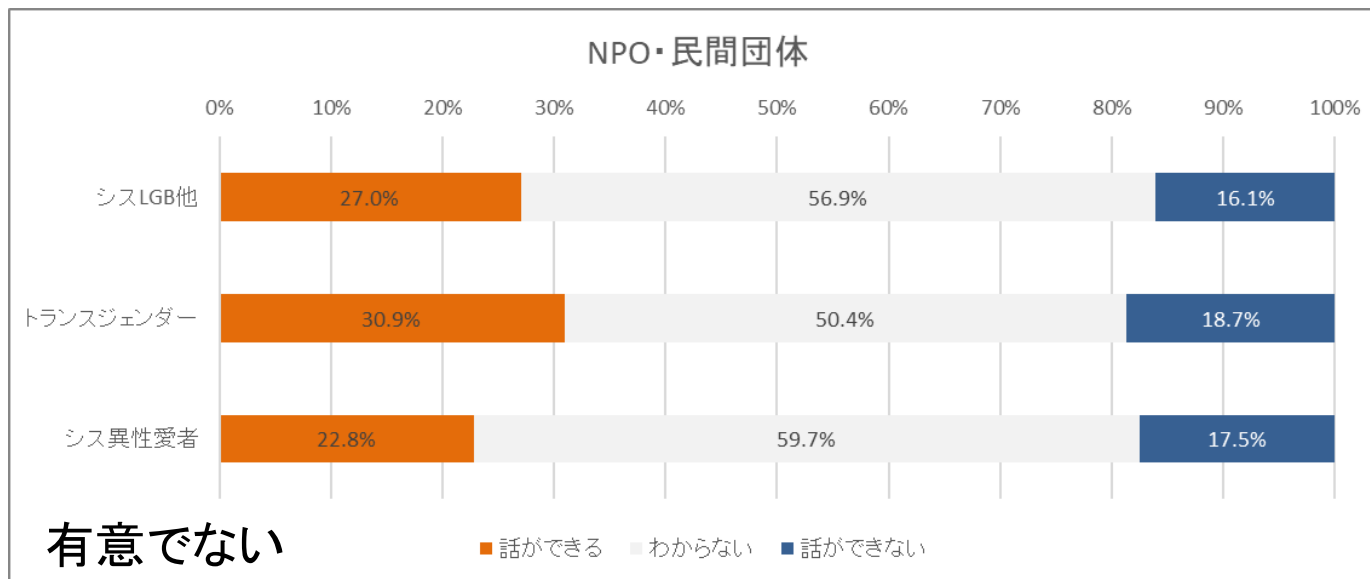
シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
790	613	232



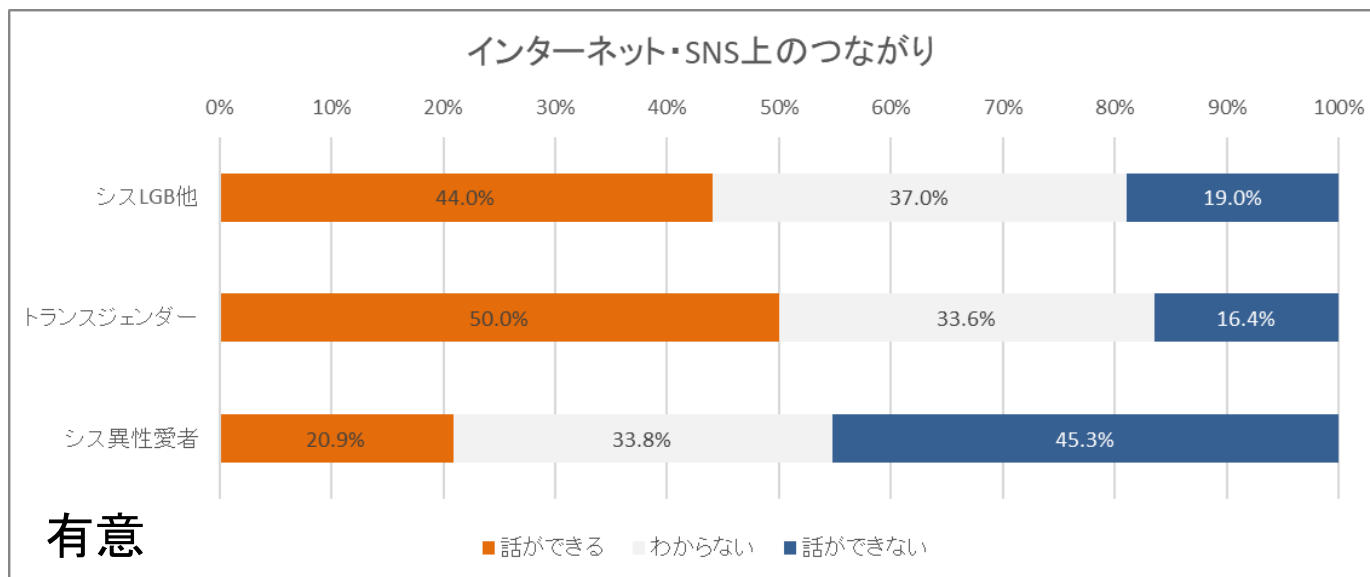
N =

シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
789	612	232

相談相手（該当なしを除く）6/6

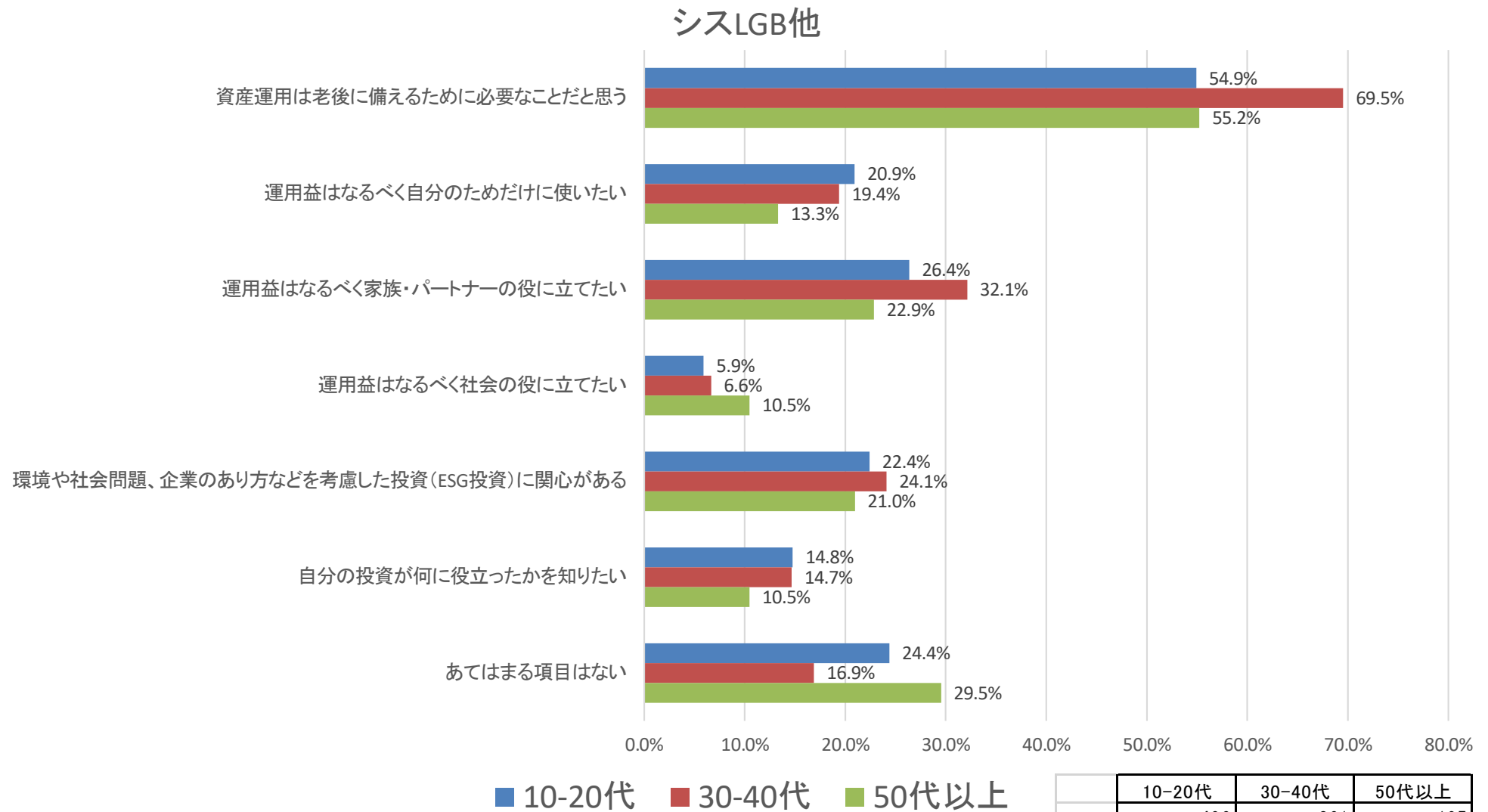


シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
788	610	232



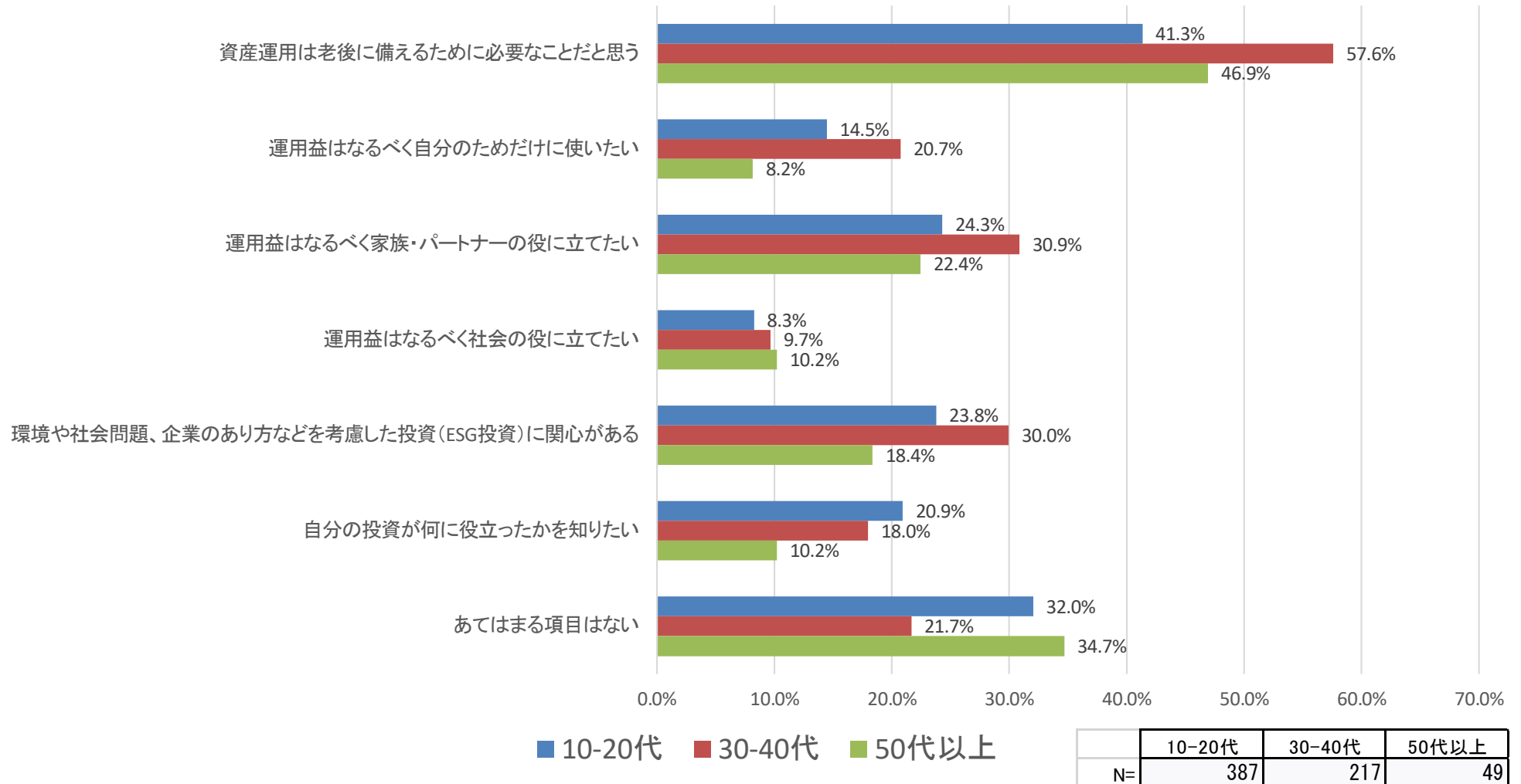
シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
788	613	232

資産運用に関する意識(年代別)

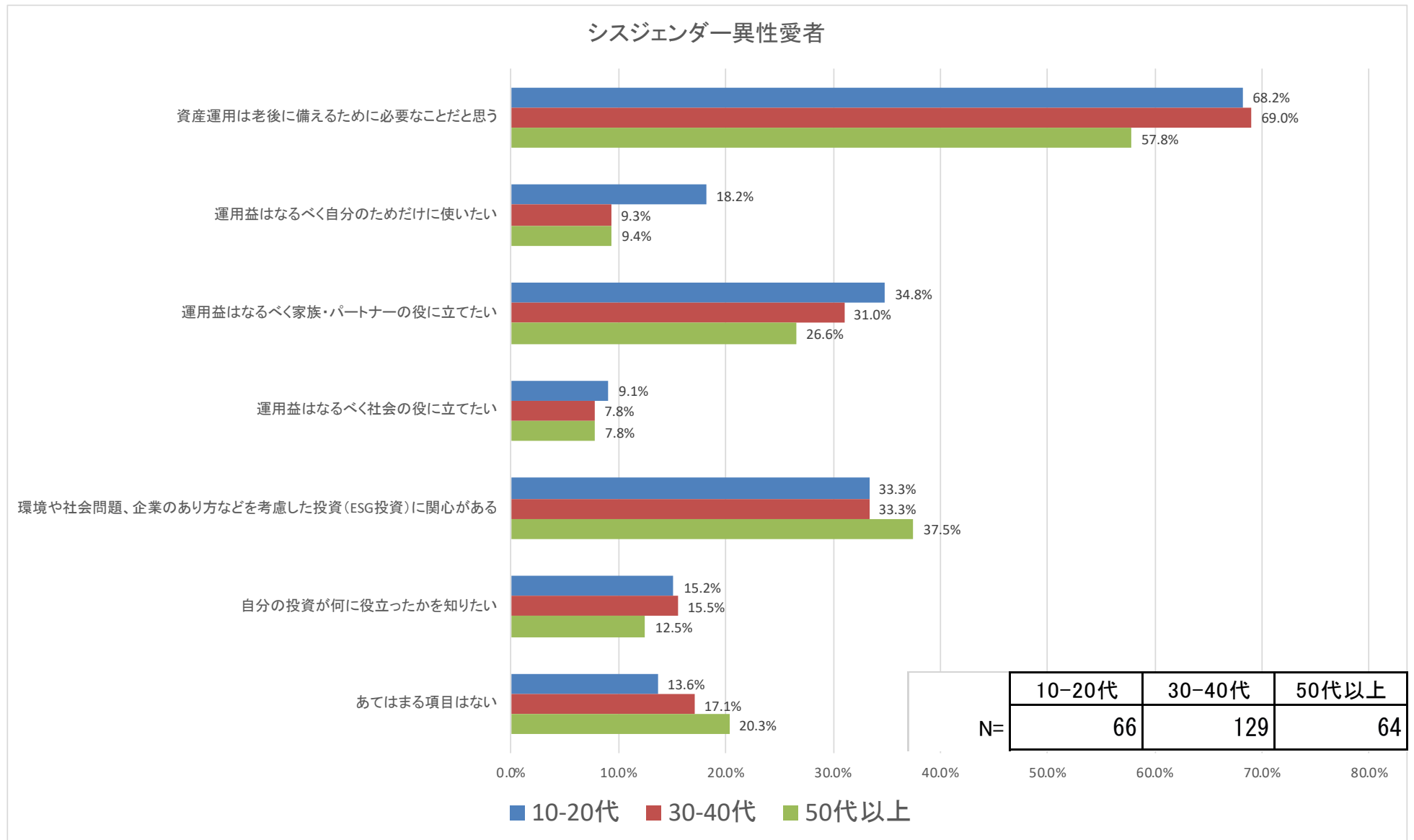


資産運用に関する意識(年代別)

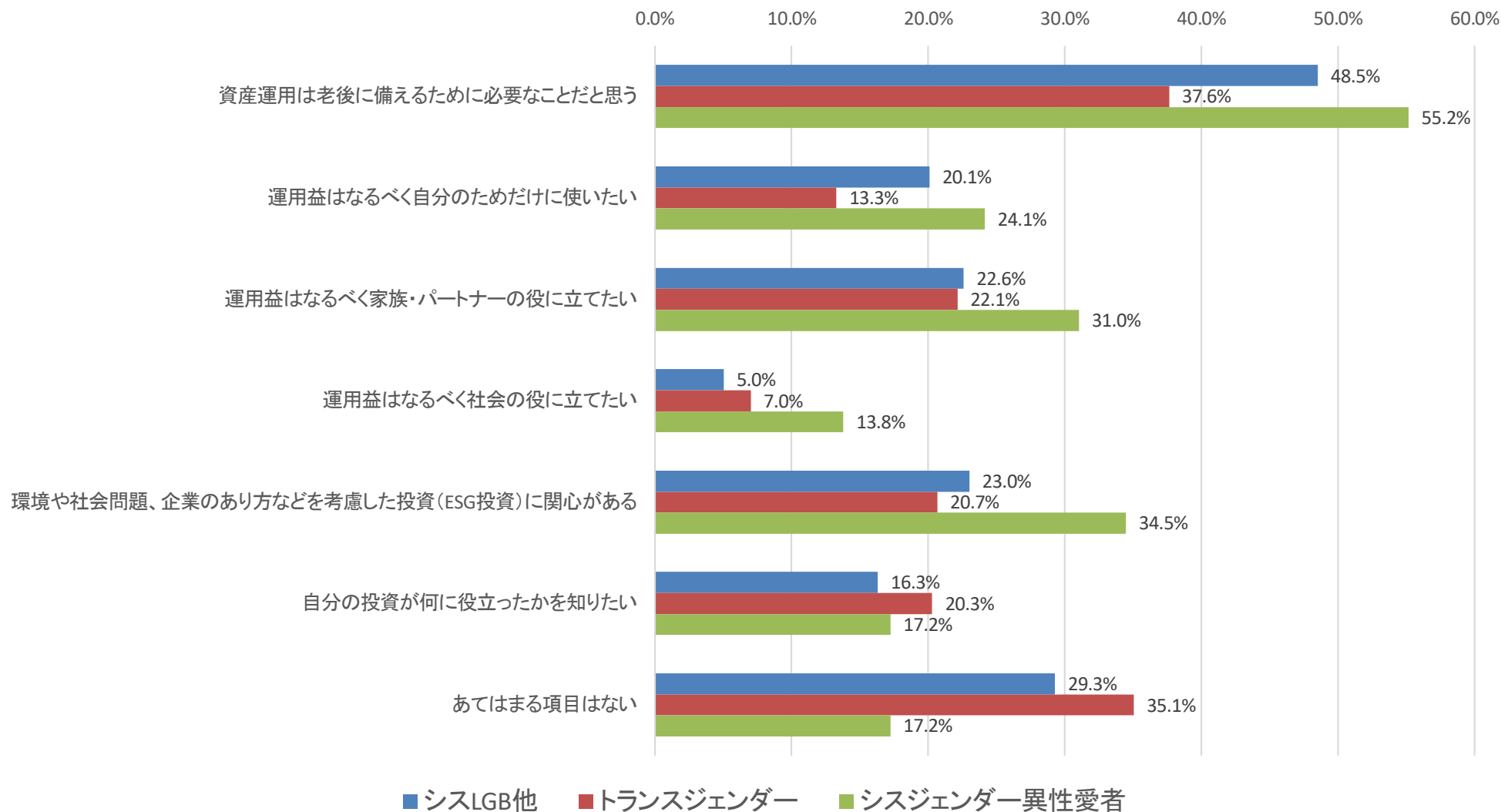
トランスジェンダー



資産運用に関する意識(年代別)

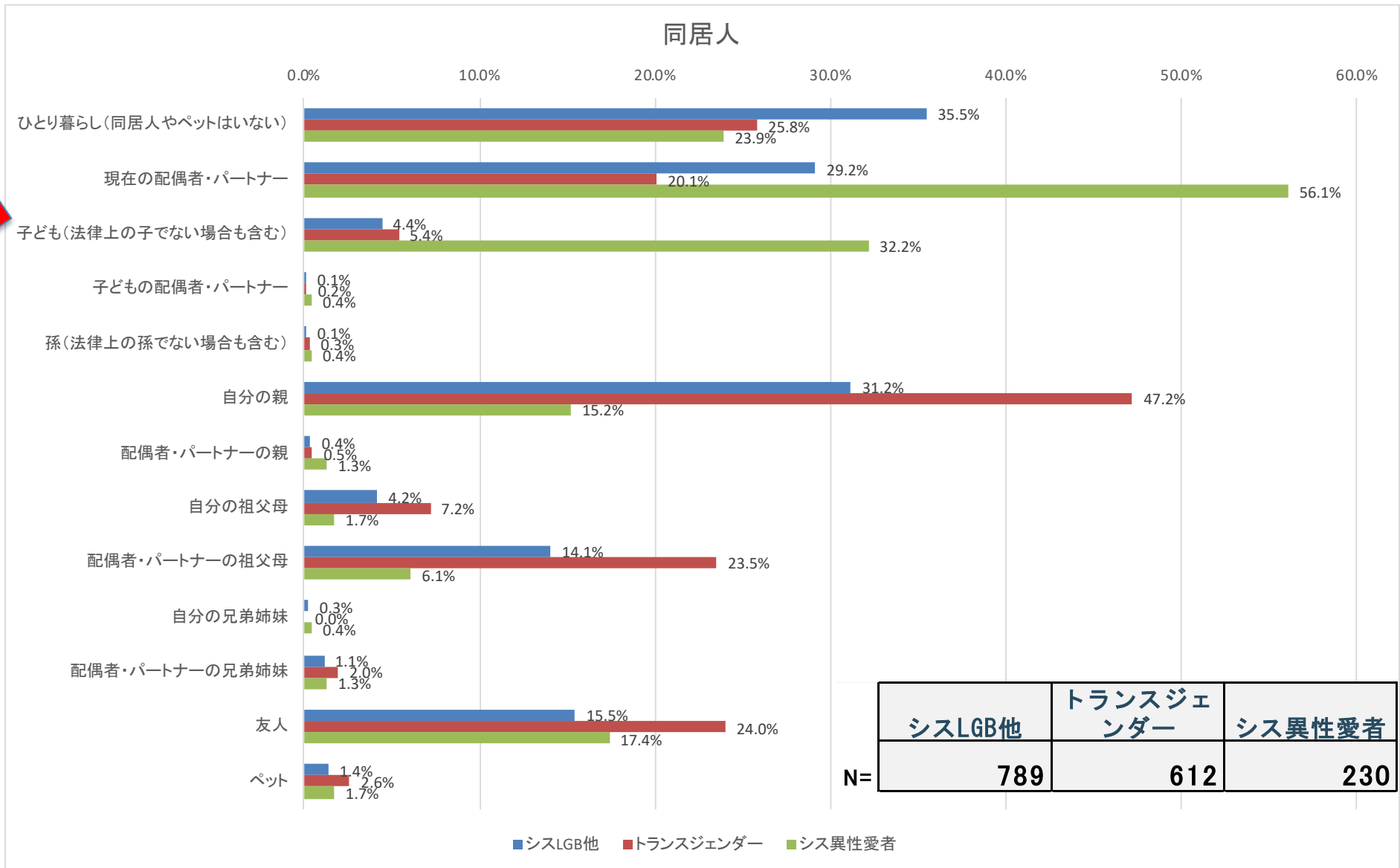
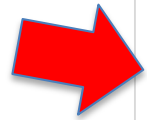


資産運用に関する意識(Z世代)

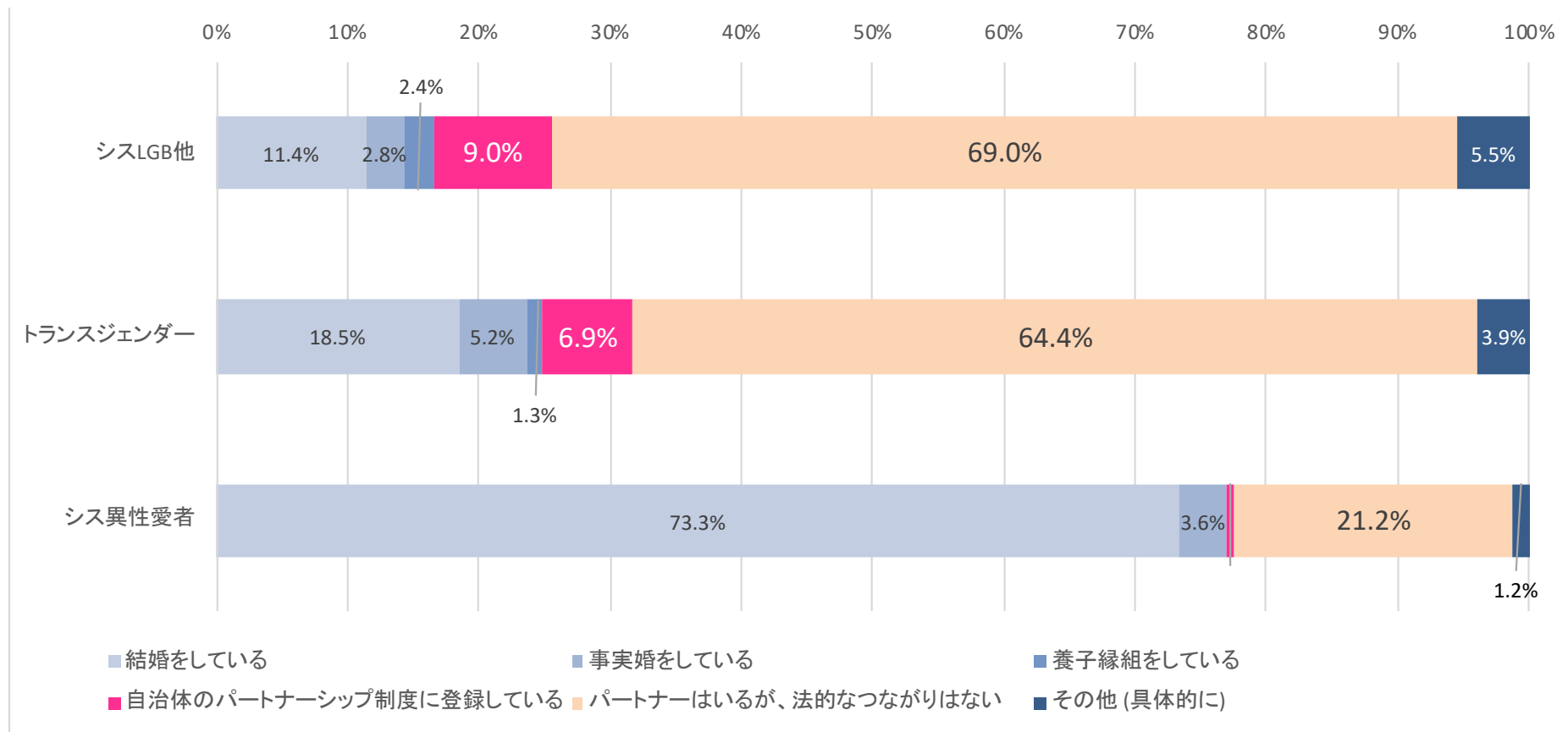


	シスLGB他	トランスジェンダー	シス異性愛者
N=	239	271	29

同居人



パートナーとの法的関係

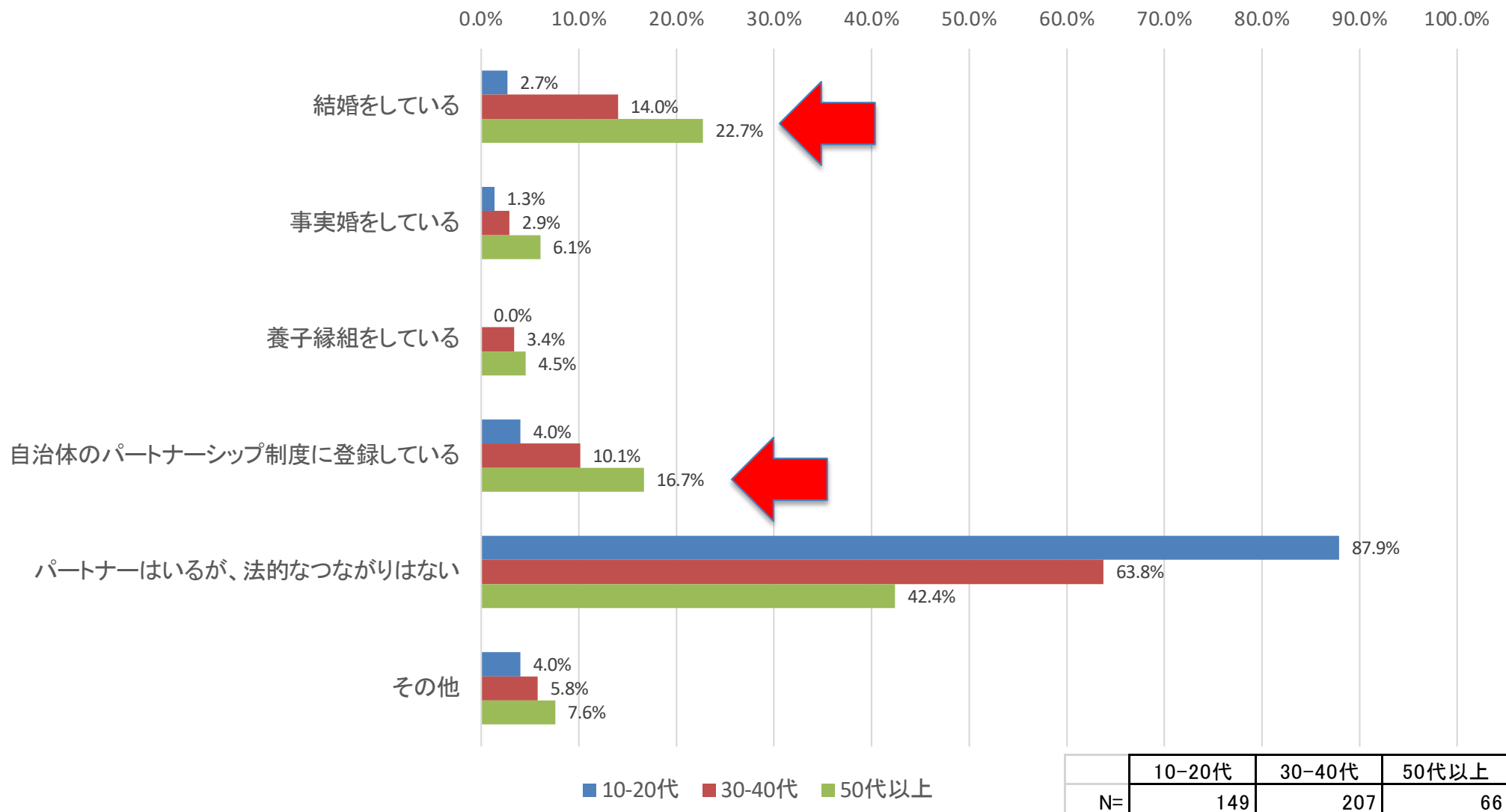


	シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー 異性愛者
N=	422	233	165

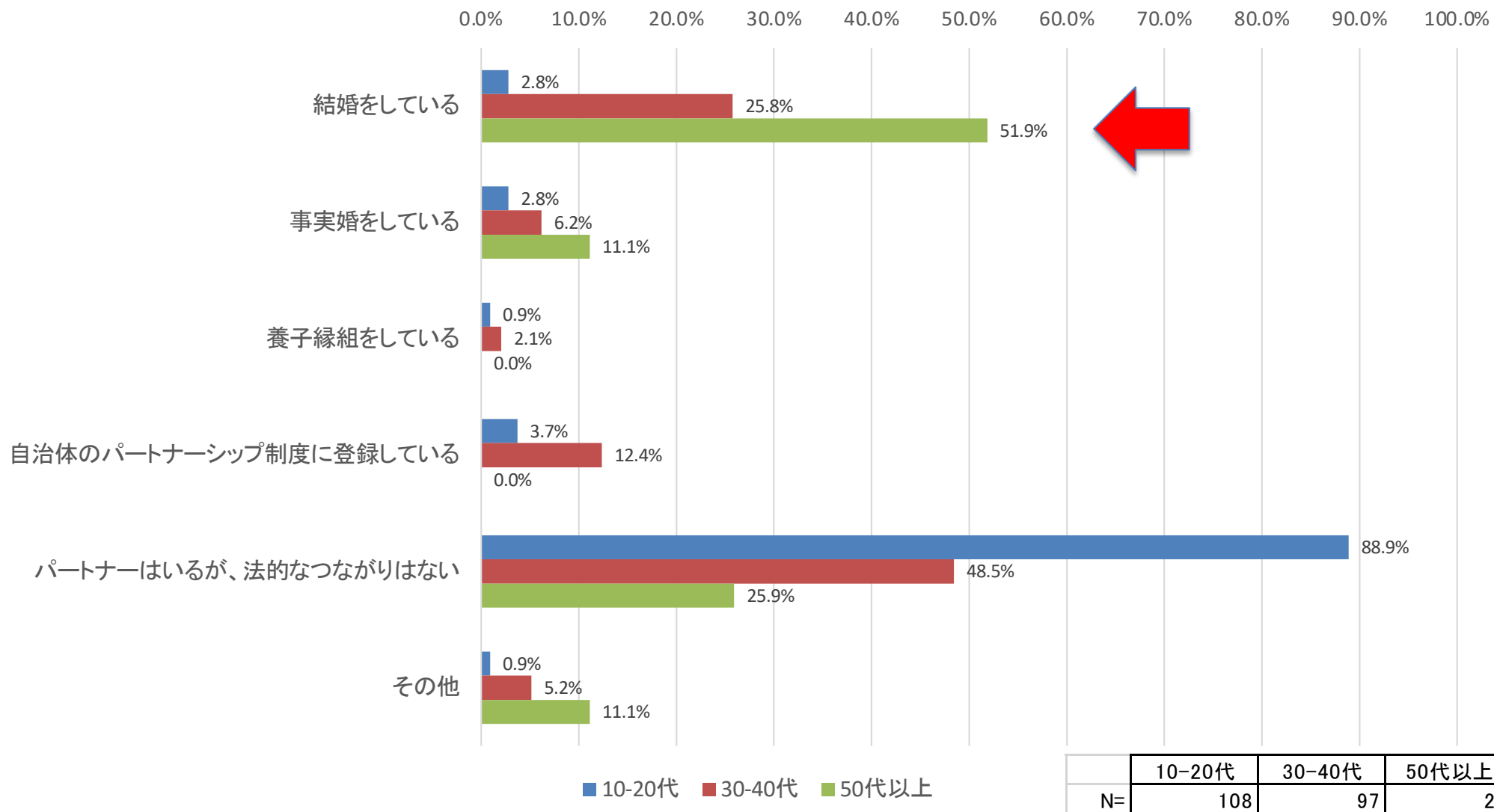
※該当なしを除く

✓パートナーがいても法的なつながりがないLGBTQが多い。パートナーシップ制度は2022年4月1日時点で人口の52.1%に普及したが、利用している人はシスLGB他で9%にとどまる。

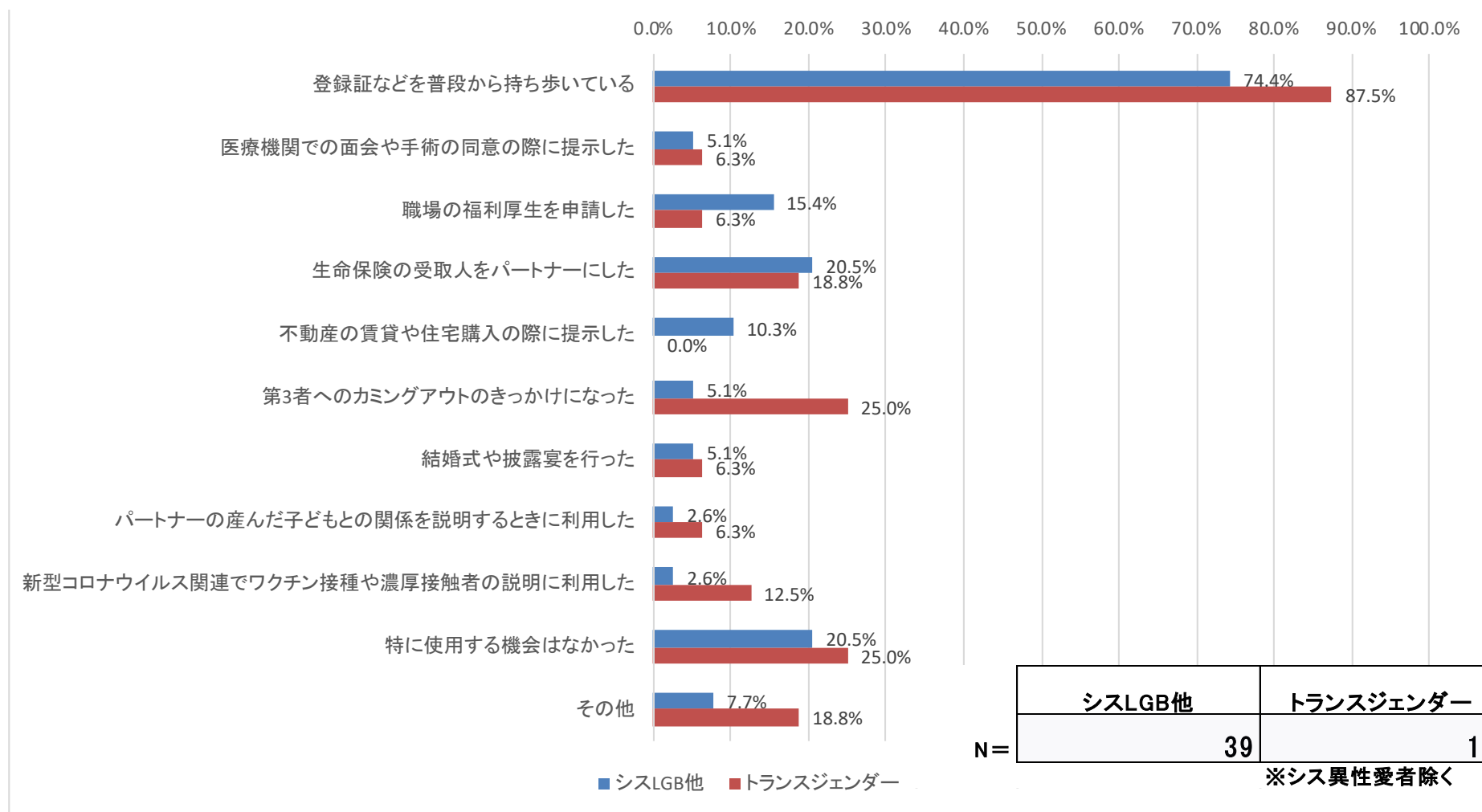
パートナーとの法的関係(シスLGB) (年代別/該当なしを除く)



パートナーとの法的関係(トランスジェンダー) (年代別/該当なしを除く)



パートナーシップ制度の活用方法



✓ パートナーシップ制度に登録している人は、多くの人が普段から携帯していると回答した。職場での福利厚生への申請、生命保険や住宅取得、濃厚接触者の説明で利用したケースもある。医療機関で提示した人、結婚式等を行なった人もいる。

まとめ



KEY FINDINGS 1/5

【過去の調査（2014年～2020年）と同じ傾向が確認できた点】

- ✓ シスジェンダーのバイセクシュアル女性・その他女性、トランスジェンダーで就業している率が低く、非正規雇用が多く、学歴が低く、収入が少ない傾向にある。
- ✓ 学校・職場でのハラスメントは多くの人が見聞きしている。差別的言動が多い環境ほど、メンタルヘルスが悪い。
- ✓ 求職活動における経験を聞いたところ、多くのLGBTが就業支援の場や面接において「理解がない」と感じる経験をしていた。
- ✓ 職場のLGBT施策は「特にない」という回答がLGBTで60%を超える。パワハラ指針にSOGIに関する侮辱やアウティングが入ったものの、現場での対応はまだまだ進んでいない。LGBT施策の数が多い職場ほど、心理的安全性や勤続意欲が高く、メンタルヘルスが良好な傾向にある。
- ✓ 直近1年間で「預金残高が1万円以下になった」「家賃などを滞納した」という経験をしているLGBTQも多いが、特にトランスジェンダーが多い。
- ✓ LGBTQも多様な家族を形成している。子どもと同居している人はシスLGB他で4.4%、トランスジェンダーで5.4%であった。

KEY FINDINGS 2/5

【パンデミックの影響】

- ✓ 新型コロナウイルス感染拡大の仕事への影響は、LGBTと、シスジェンダー異性愛者で違いが見られ、特にトランスジェンダーで仕事の時間減、収入減、ストレス増という回答が多かった。元々非正規雇用が多いことが影響していると考えられる。
- ✓ 新型コロナウイルス感染拡大の人間関係への影響は、LGBTと、シスジェンダー異性愛者で違いが見られ、職場の同僚、上司などとの関係はシス異性愛者が悪化したという回答が多かった。在宅勤務が増え、職場のコミュニケーションが減ったことも要因と考えられる。
- ✓ 今回の調査では関係性の変化を聞いており、カミングアウトの壁もあり、LGBTの方が元々の関係性が薄かった可能性はある。一方で、LGBTでは家族との関係が悪化したという回答が多かったが、パートナーやネット上のつながりは改善したという回答も見られた。
- ✓ 新型コロナウイルスのワクチン接種では、トランスジェンダーで接種率が低く、50代以上の3回接種率はシスLGB 91%に対して、トランスジェンダーが71%であった。医療への忌避感が影響している可能性がある。

KEY FINDINGS 3/5

【お金に関すること】

- ✓ 資産運用に関する意識を聞くと、シスジェンダー異性愛者の方が若いうちから資産運用を検討していた。LGBTQの若者が将来への見通しが難しいことが影響しているのではないかと考えられる。ESG投資に関心が高いのはシスジェンダー異性愛者であるが、このアンケートに回答している層が社会課題に敏感な層であることが影響していると考えられる。
- ✓ Z世代のLGBTQの35%以上が「お金がないために食事やイベントの誘いを断った」経験をしている。
- ✓ 世帯の年収を聞くと、LGBTでは「生計を同じくする人はいない」「わからない・答えたくない」の比率が高かった。政府等による一般的な統計調査でLGBTの生活実態が十分に把握できていない可能性がある。

KEY FINDINGS 4/5

【メンタルヘルス】

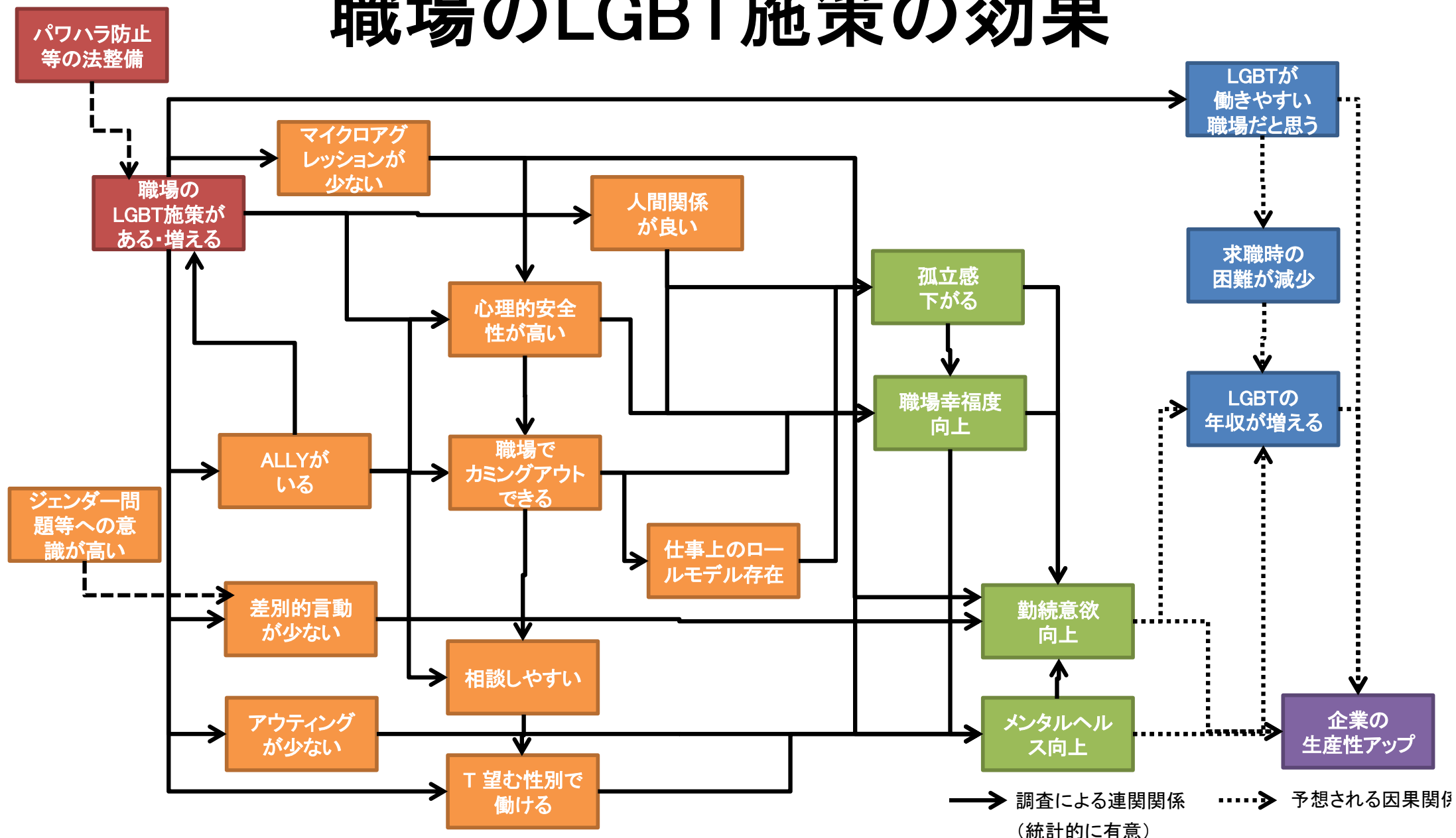
- ✓ 人生の満足度に関する設問では、特にトランスジェンダーで低い数値になった。孤独感、公平感に関する設問では、強い孤立感、不公平感があった。
- ✓ 現在の健康状況を聞いたところ、シスLGBでは、9%(10-20代)、10%(30-40代)、8%(50代以上)がうつ病と回答したが、トランスジェンダーでは14% (10-20代)、18% (30-40代)、23%(50代以上)と年代が高くなるにつれてうつ病という回答が多くなった。
- ✓ 不安や悩みを相談できる相手を聞いたところ、親や学校、職場に「話ができる」割合はLGBTQの方が低く、LGBTQの方がシスジェンダー異性愛者より周囲に頼ることが難しい傾向だった。インターネット・SNS上のつながりに関してはLGBTQの方が「話ができる」割合が高かった。

KEY FINDINGS 5/5

【パートナーシップ制度】

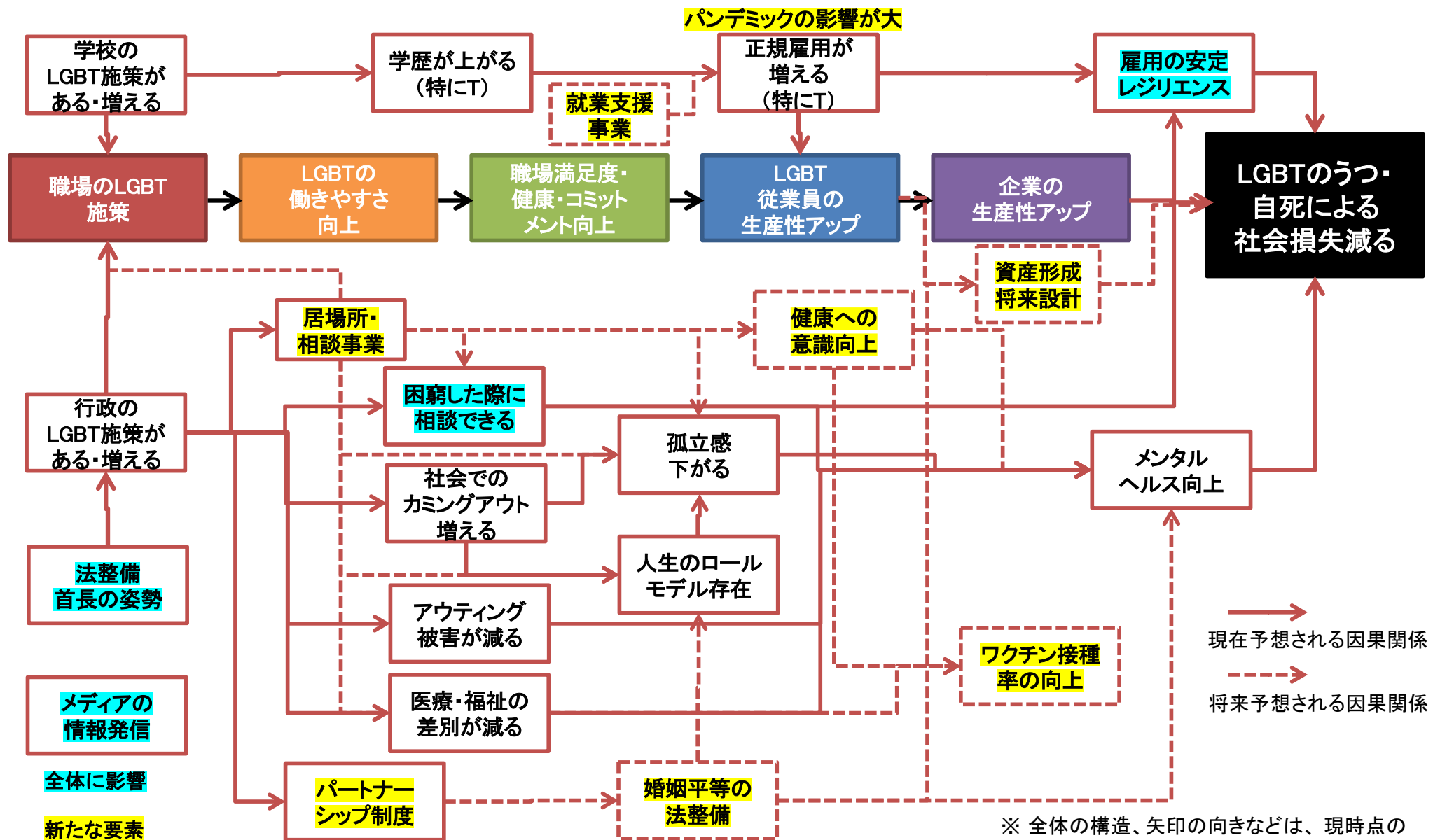
- ✓ パートナーがいても法的なつながりが何もないLGBTQが多い。パートナーシップ制度は2022年4月1日時点で人口の52.1%に普及したが、利用している人はシスLGB他で9%にとどまる。
- ✓ 自治体のパートナーシップ制度に登録している人は、7割以上が普段から携帯していると回答した。他にパートナーとの関係を証明するものがないためと考えられる。職場での福利厚生申請、生命保険や住宅取得、濃厚接触者の説明で利用したケースもある。医療機関で提示した人、結婚式等を行なった人もいる。

職場のLGBT施策の効果



※ 全体の構造、矢印の向きなどは、現時点のデータ分析結果に基づく、虹色ダイバーシティによる考察(仮説)です。

職場以外のLGBT施策の効果



メンタルヘルスに影響なし

© 認定NPO法人 虹色ダイバーシティ 2023

※ 全体の構造、矢印の向きなどは、現時点のデータ分析結果に基づく、虹色ダイバーシティによる考察(仮説)です。

Thank you

- ❖ 回答者の皆さま、広報にご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。是非継続的に声を聞かせて頂きたく、お願いいたします。
- ❖ 企業、行政の皆さま、貴重なご意見をありがとうございました。是非このデータを、LGBTQに関する施策をより一層推進する材料にして頂きたいと思います。
- ❖ メディア関係の皆さま、是非この 이슈ーについて、社会的な関心の喚起にご協力ください。
- ❖ 虹色ダイバーシティの活動に、ご支援をお願いいたします。



参加者アンケート

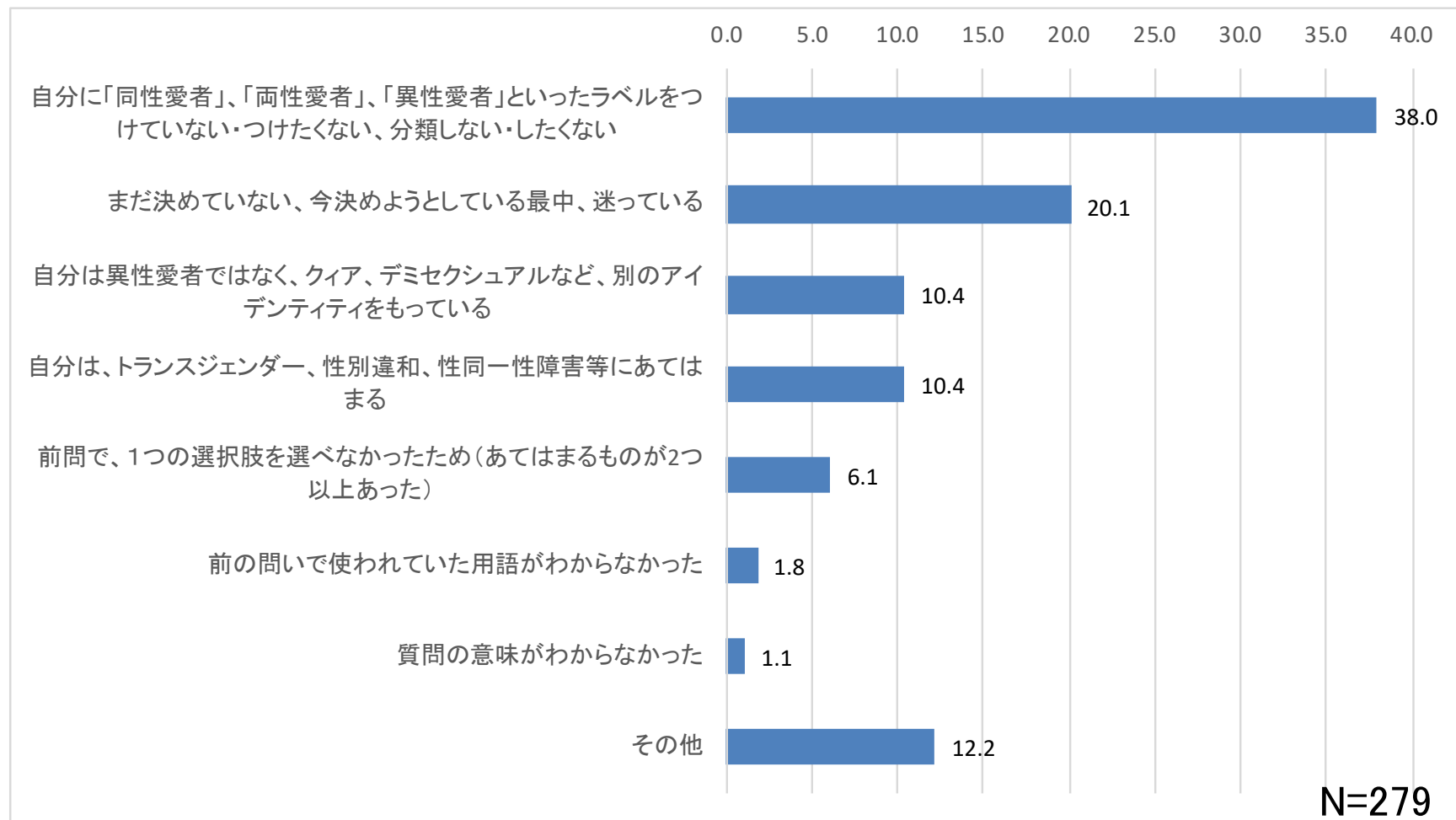
<https://jp.surveymonkey.com/r/nv2022report>



添付資料

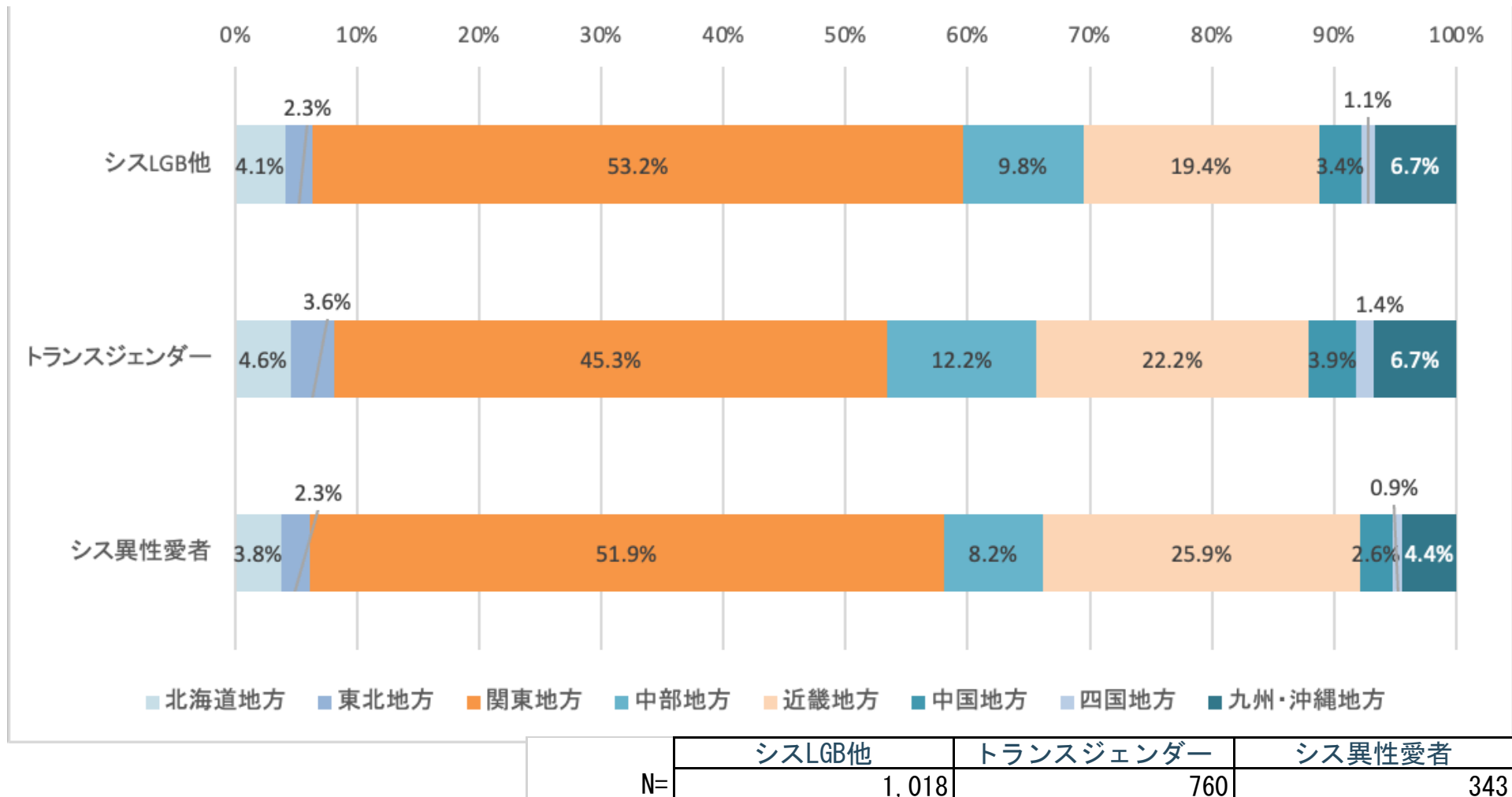


「決めたくない・決めていない」理由



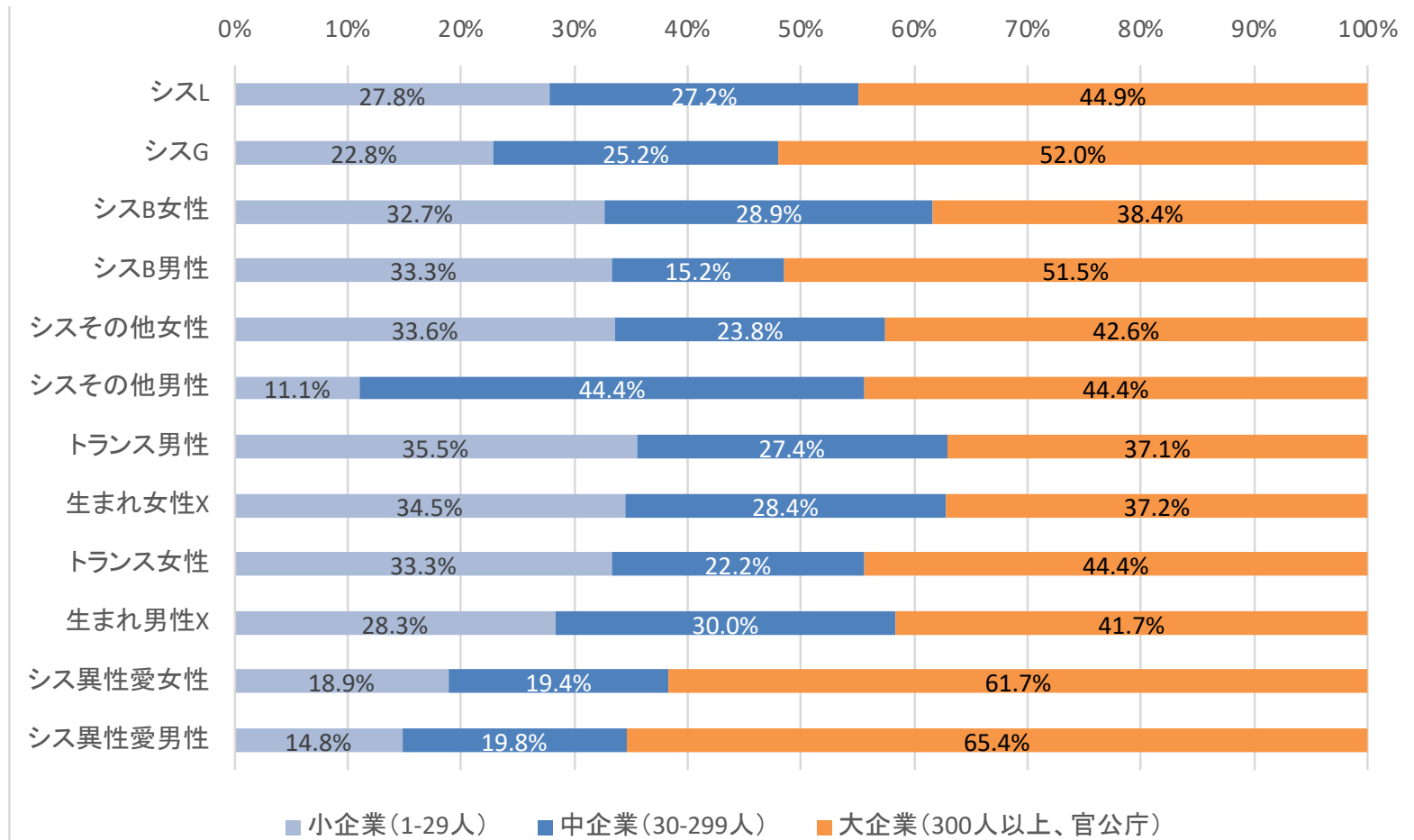
✓性的指向アイデンティティを「決めたくない・決めていない」と回答する方の理由は様々であった

回答者の居住地



✓本調査では、関東、近畿圏に住む人からの回答が多かった

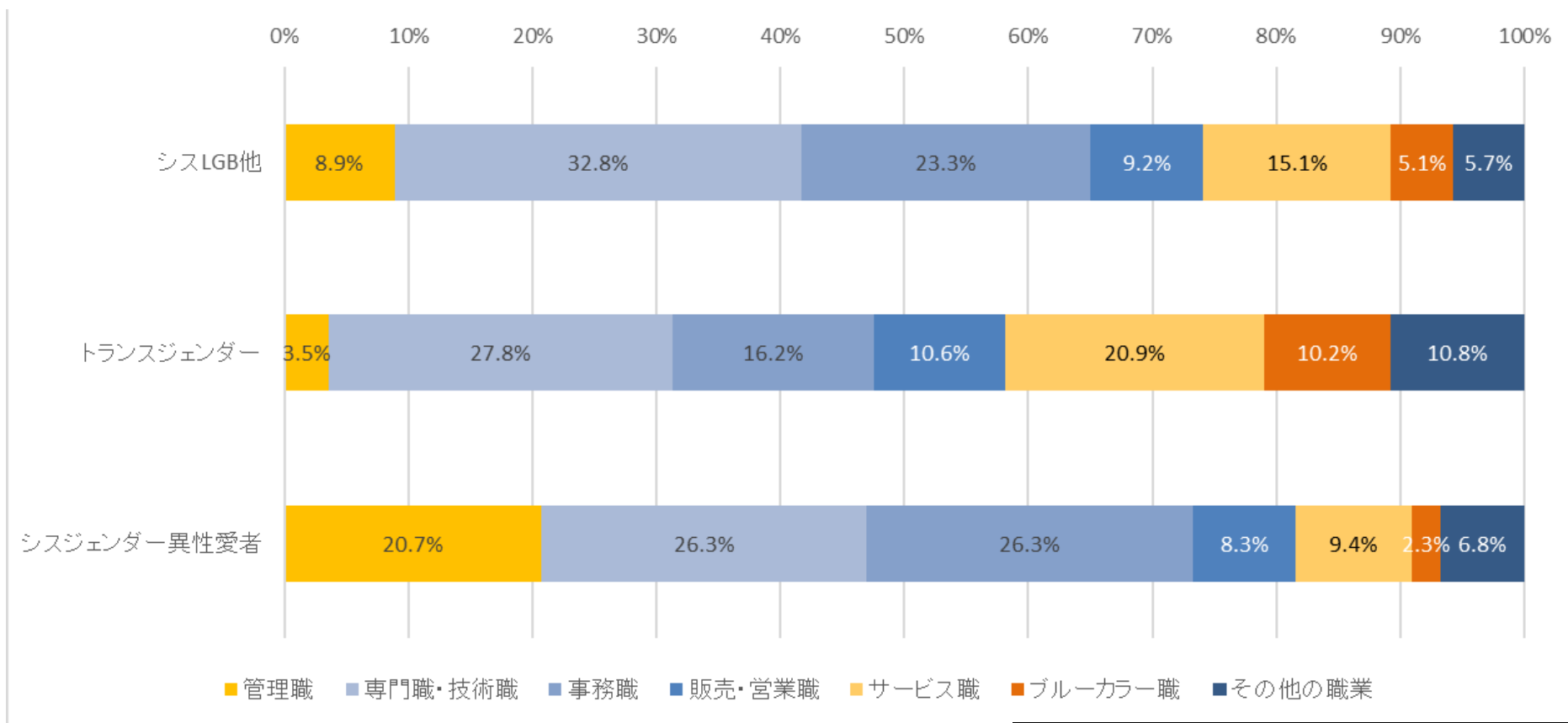
職場従業員数



	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	トランス男性	生まれ女性X	トランス女性	生まれ男性X	シス異性愛女性	シス異性愛男性
N=	158	302	159	33	122	18	62	328	36	60	180	81

✓本調査ではシス異性愛者は大企業勤務が多い

職業（該当なしを除く）

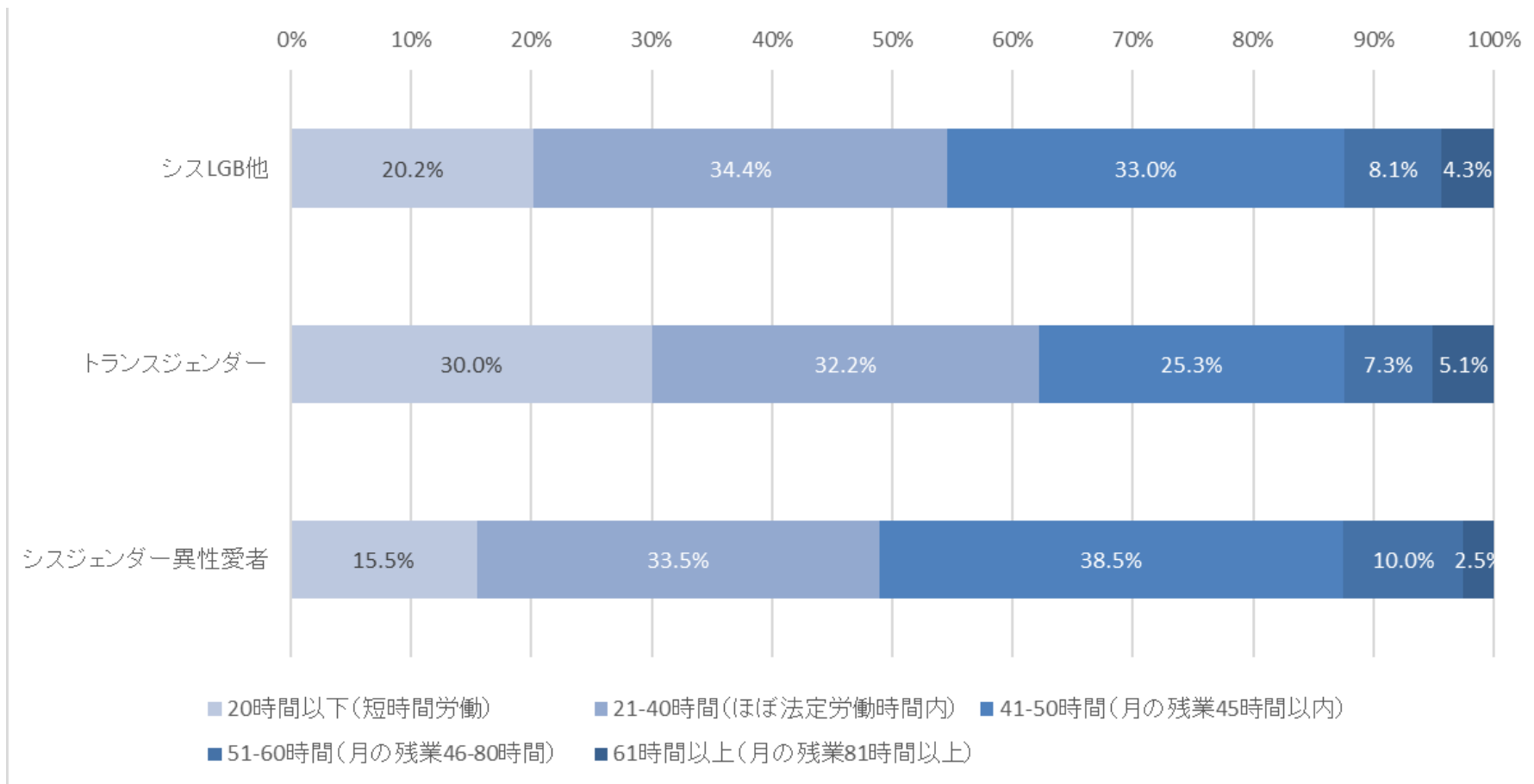


	シスLGB他	トランスジェンダー	シス異性愛者
N=	808	511	266

※「該当なし」を除く

✓トランスジェンダーでブルーカラー職の割合が高い。シス異性愛者は管理職の比率が高いが、回答者の年代が高めなのも影響していると思われる。

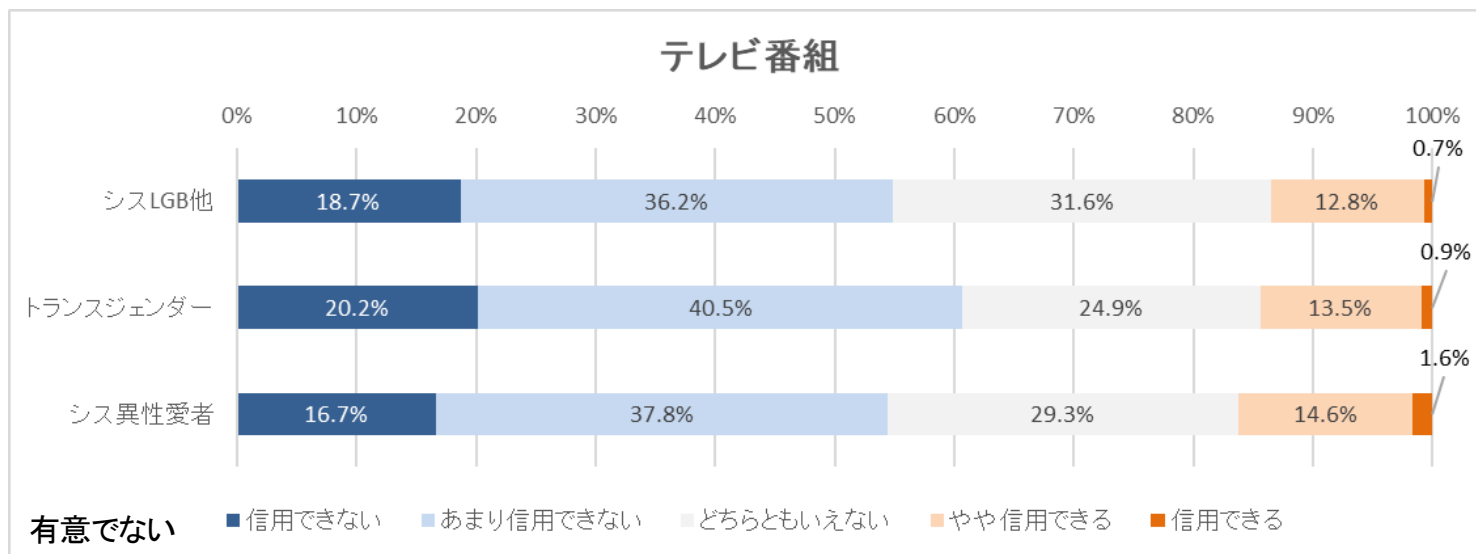
一週間あたりの労働時間



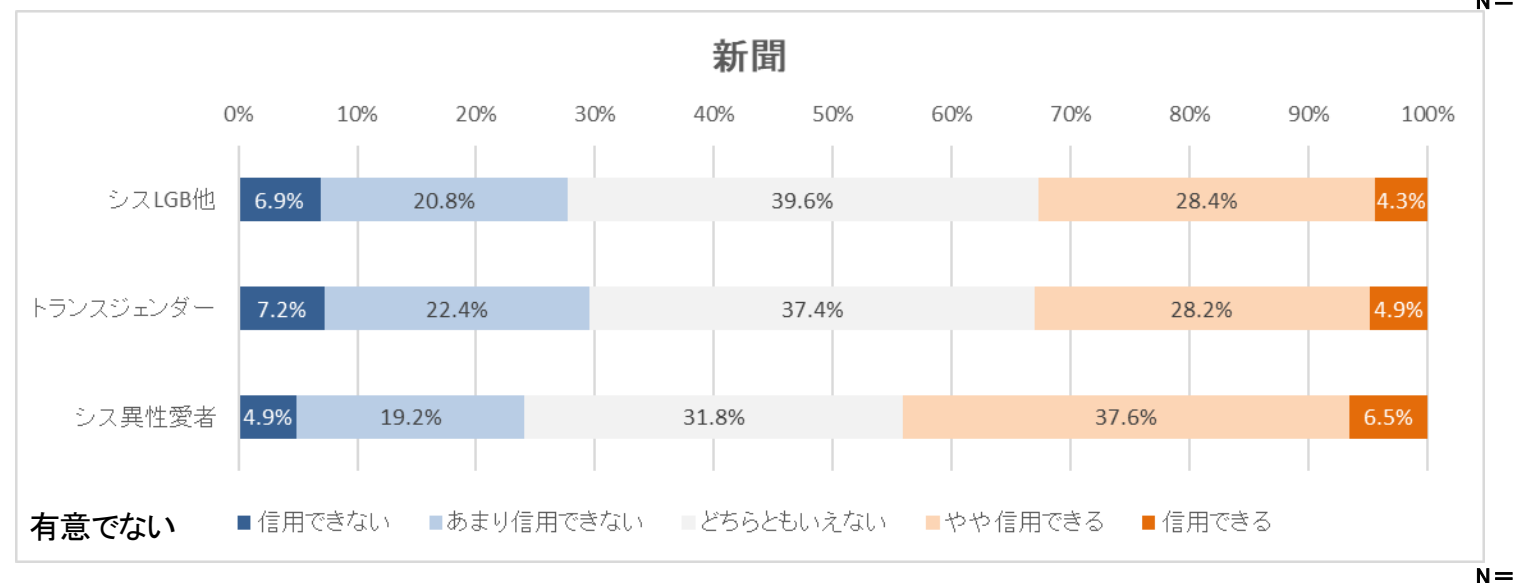
	シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー 異性愛者
N=	770	495	239

✓トランスジェンダーで週に20時間以下の短時間労働が多い。

メディアへの信頼度 1/6



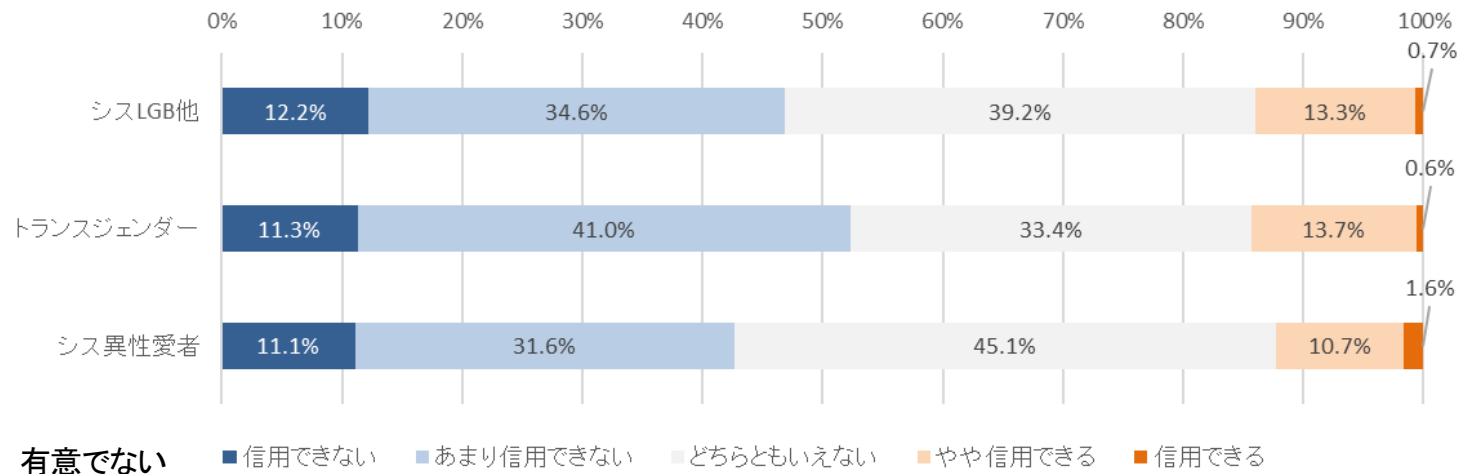
シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
829	639	246



シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
828	639	245

メディアへの信頼度 2/6

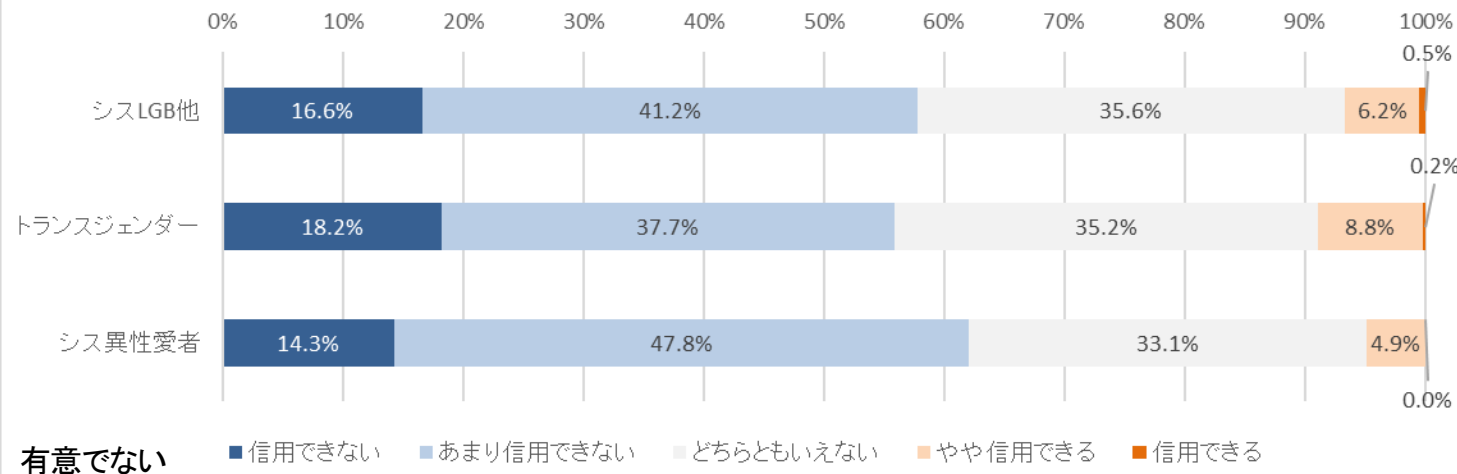
ニュースサイト



N=

シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー 異性愛者
827	637	244

SNS

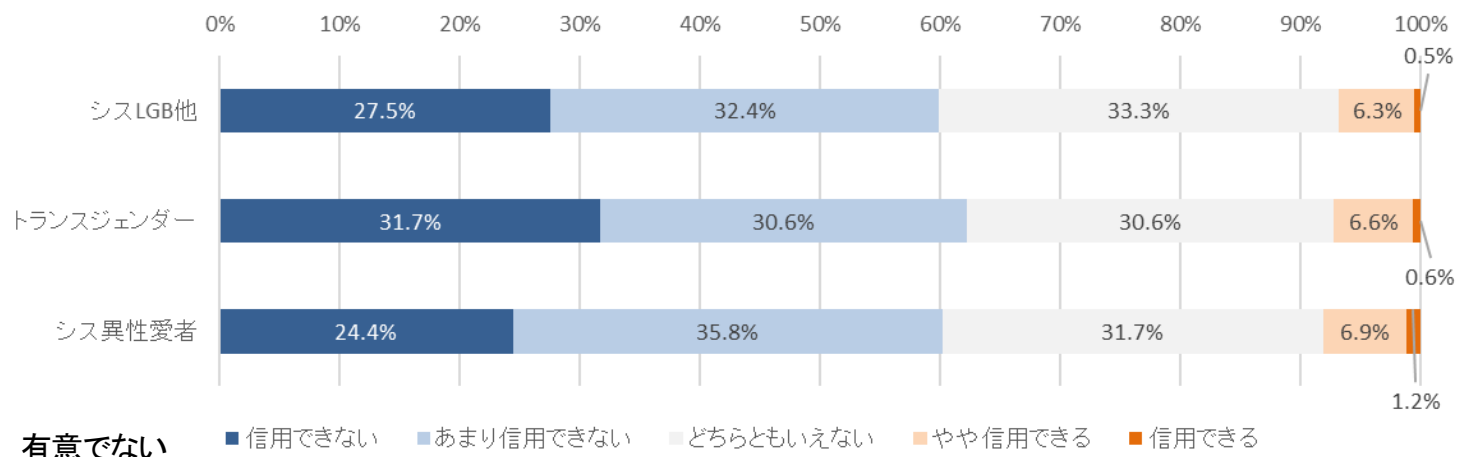


N=

シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー 異性愛者
826	637	245

メディアへの信頼度 3/6

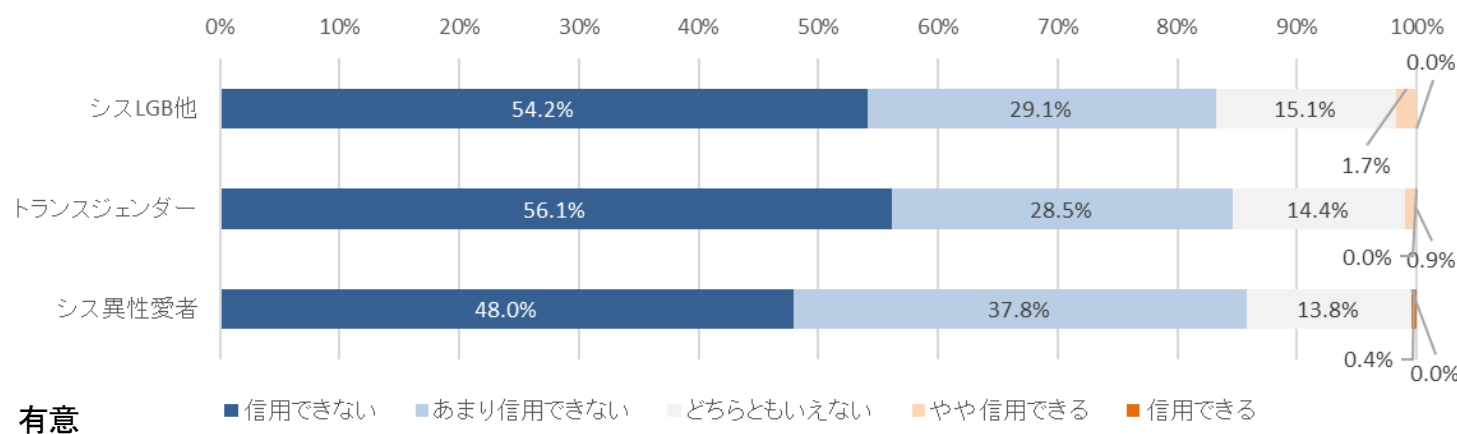
テレビCM



シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
828	638	246

N=

インターネット動画広告

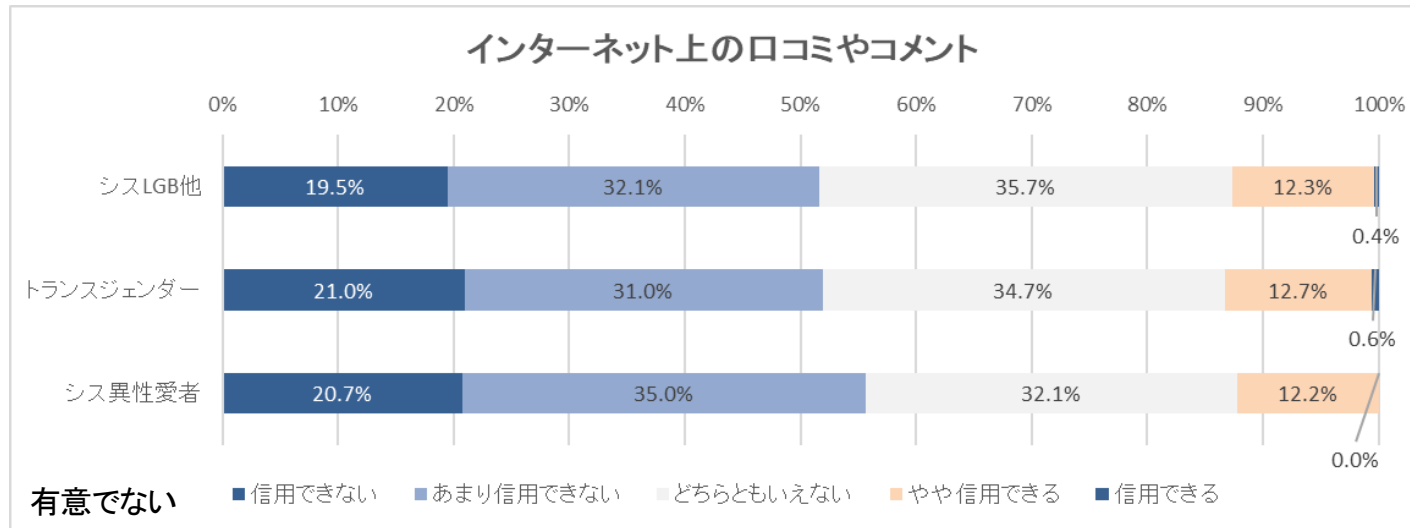


✓LGBT、特にトランスジェンダーではっきり信用できないという回答が多め

シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
829	638	246

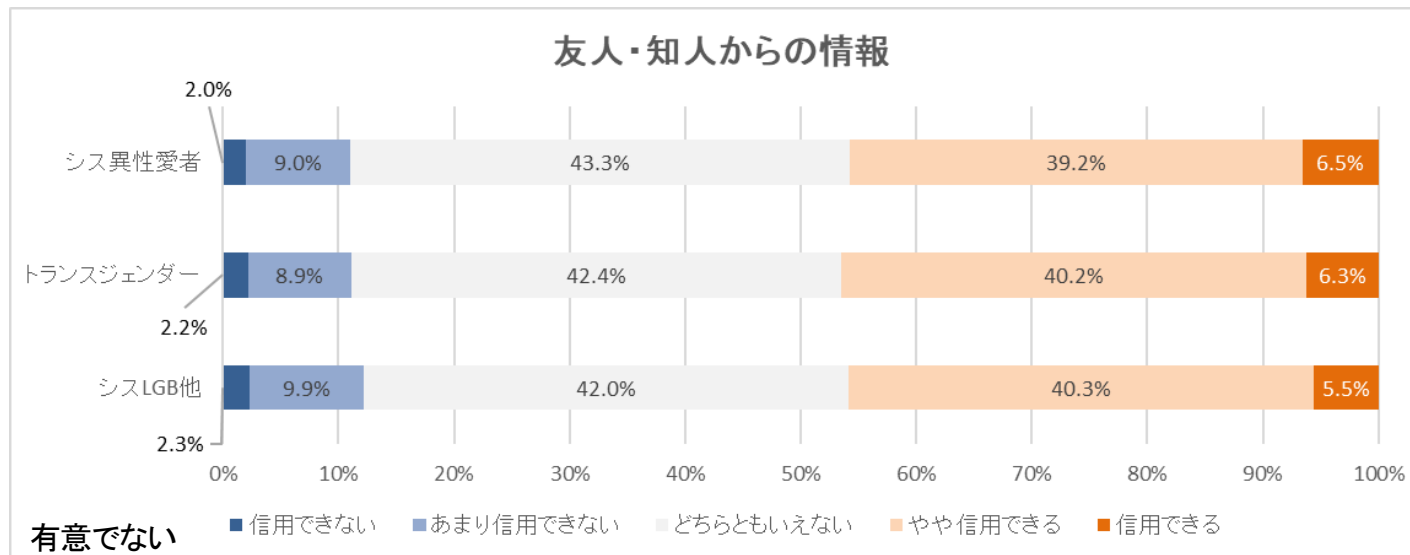
N=

メディアへの信頼度 4/6



N =

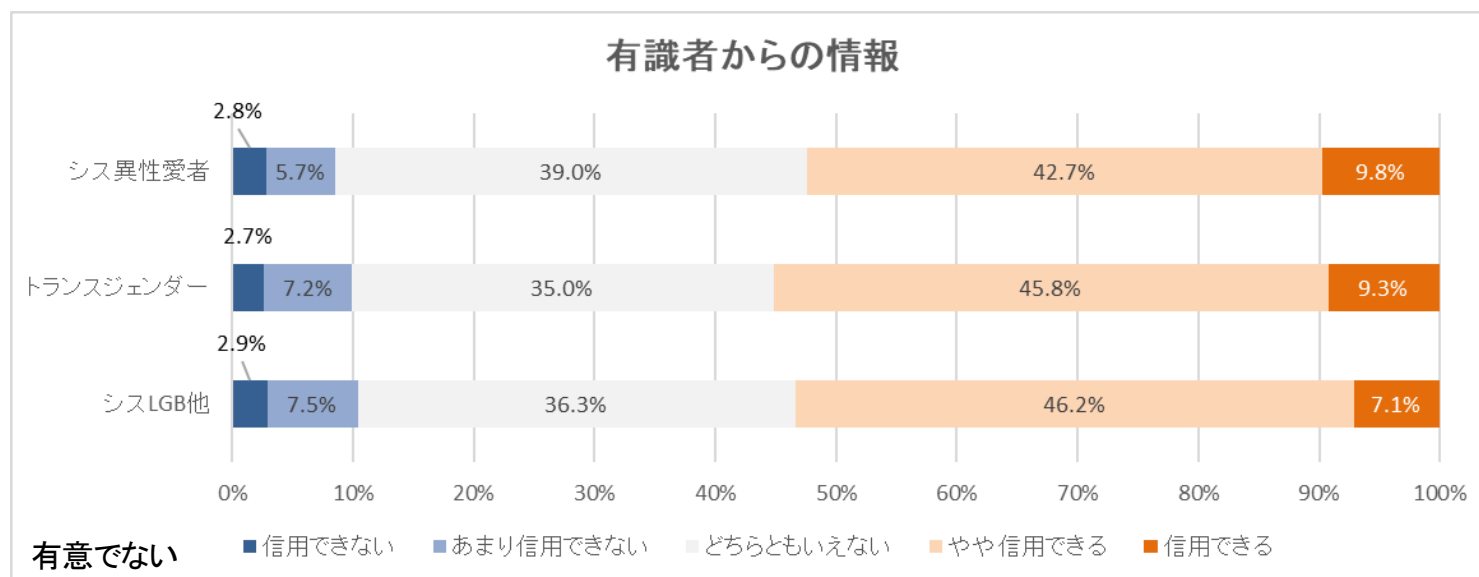
シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
829	639	246



N =

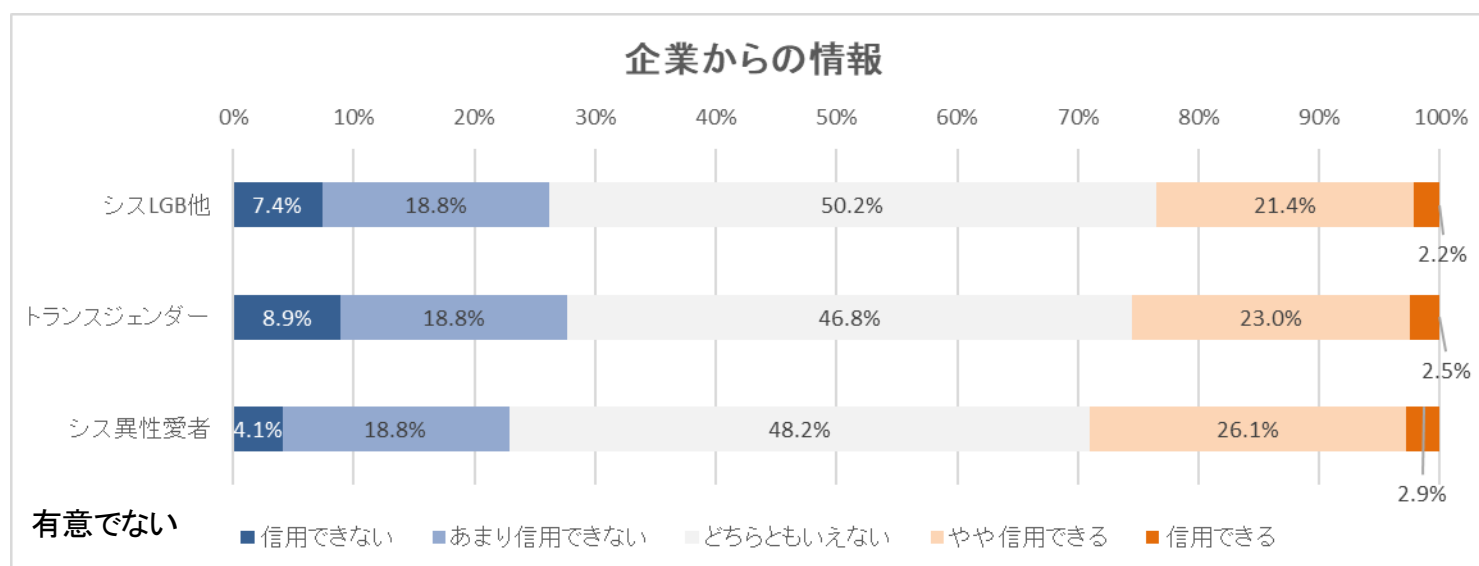
シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
829	639	245

メディアへの信頼度 5/6



N=

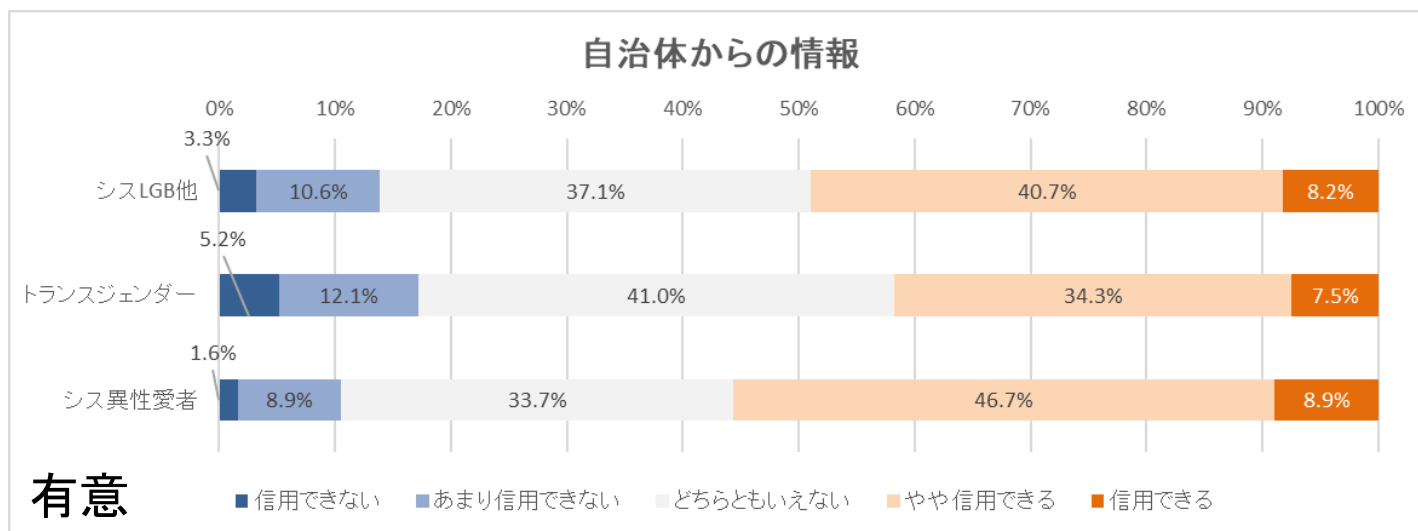
シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
827	637	246



N=

シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
828	639	245

メディアへの信頼度 6/6



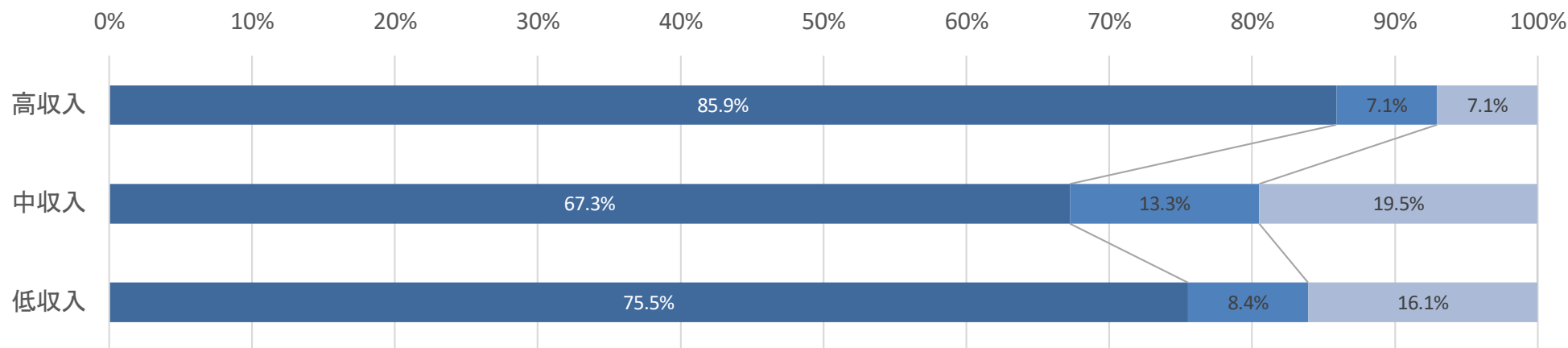
✓LGBT、特にトランスジェンダーで信用できないという回答が多め

	シスLGB他	トランスジェンダー	シスジェンダー異性愛者
N=	827	639	246

- ✓メディアへの信頼度では、LGBTとシス異性愛者で大きな違いは見られなかった
- ✓有意だったのは、インターネット動画広告と自治体からの情報のみである
- ✓自治体からの情報が信頼できないというのは、もしもの時に問題になる恐れがある

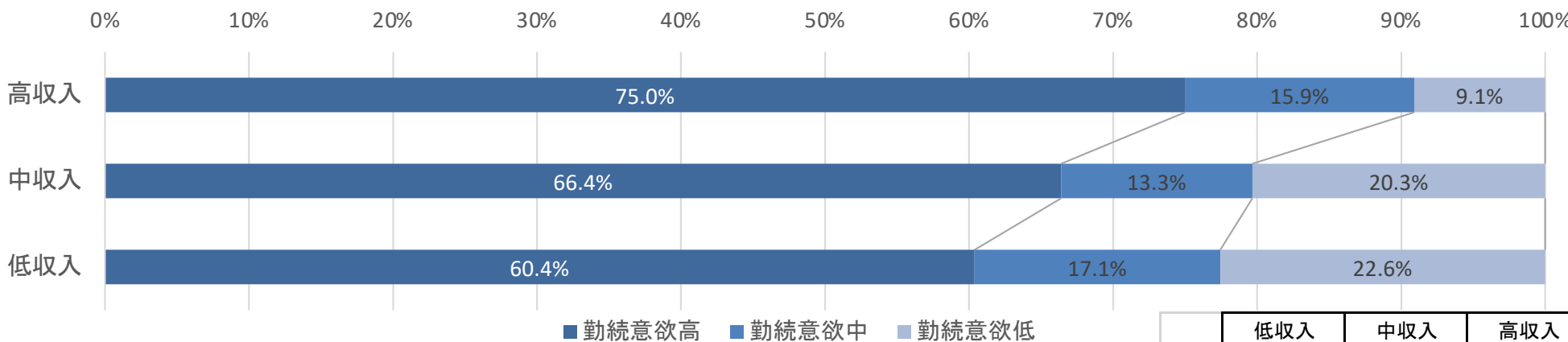
本人の年収 × 勤続意欲

シスLGB他



	低収入	中収入	高収入
N=	143	400	156

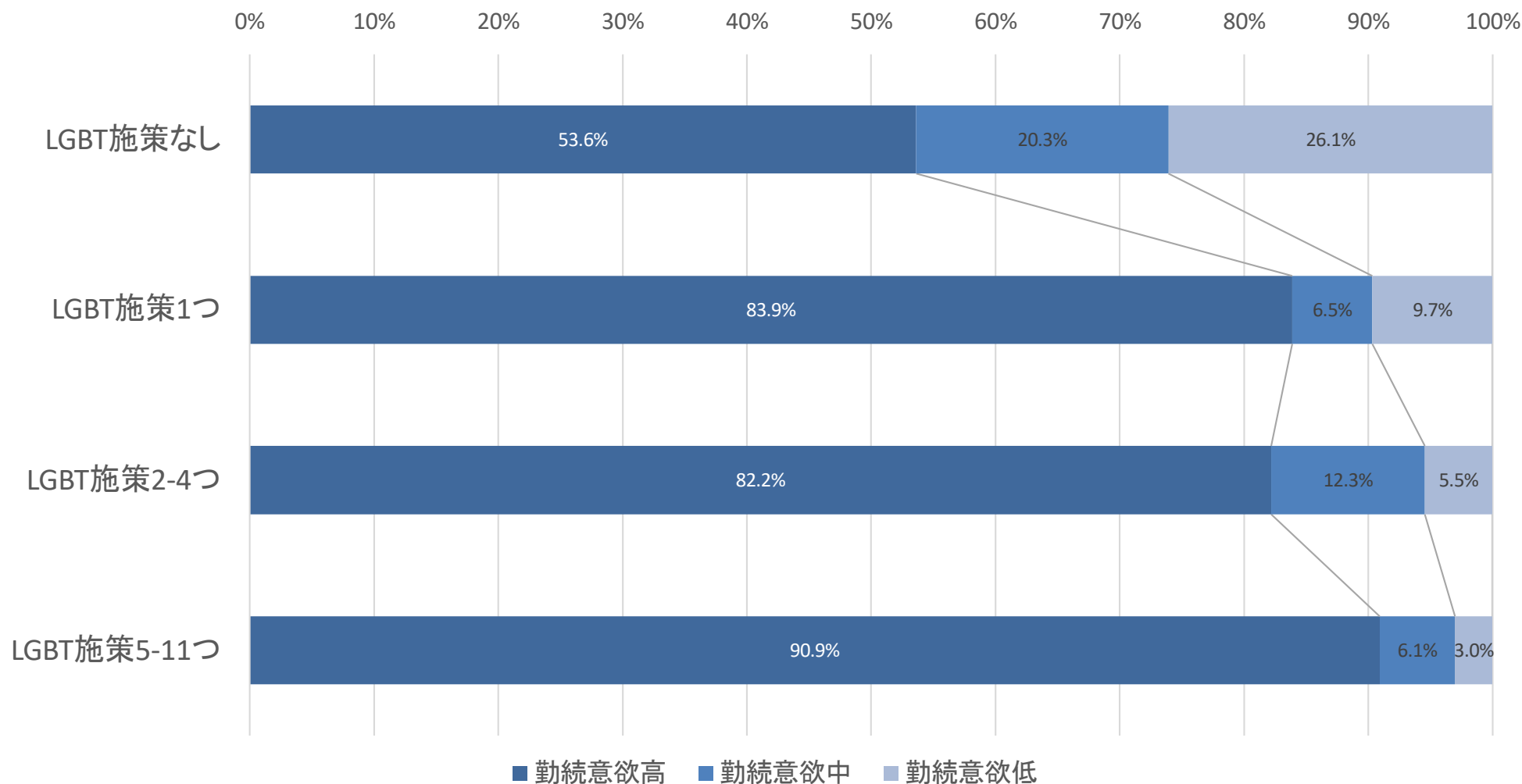
トランスジェンダー



	低収入	中収入	高収入
N=	164	241	44

高収入: 600万円以上、中収入: 200-600万円、低収入: 200万円未満

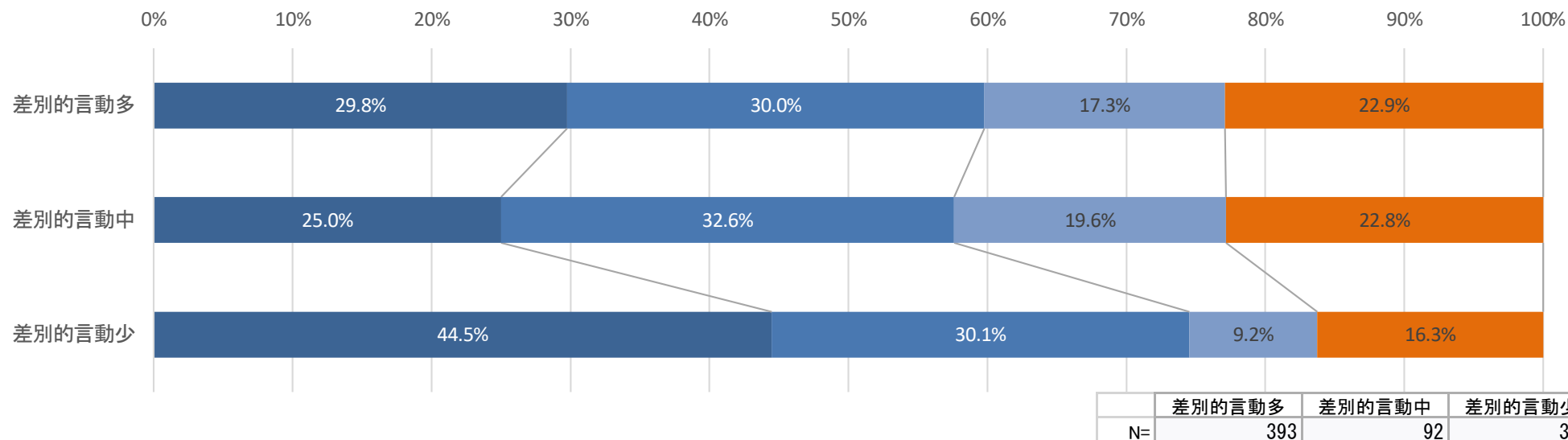
LGBT施策の数 × 勤続意欲(シス異性愛者)



	LGBT施策なし	LGBT施策1つ	LGBT施策2-4つ	LGBT施策5-11つ
N=	69	31	73	66

差別的言動×メンタルヘルス(K6) (LGB/T)

シスLGB他



トランスジェンダー

